

一 地租条例の制定

1、明治17年 地租条例

第七号 (三月十五日 大蔵卿連署)

地租条例別冊ノ通制定シ、明治六年七月第貳百七拾貳号布告地租改正条例及地租改正ニ關スル条規、其他本条例ニ概
触スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島、函館県沖繩県札幌根室県ハ当分従前ノ通タルヘシ

〔頭註〕十九年第一号布告ヲ以テ函館札幌根室三県ヲ廢シ北海道庁ヲ置ク

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

地租条例

第一条 地租ハ地価百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但、本条例ニ地価ト称スルハ地券ニ掲ケタル価額ヲ謂フ

(改正) 但、本条例ニ地価ト称スルハ土地台帳ニ掲ケタル価額ヲ謂フ

〔頭註〕二十二年法律第三十号ヲ以テ第一条但書改正

第二条 地租八年ノ魯凶ニ由リテ増減セス

第三条 有租地ヲ區別シテ二類ト為ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、塩田、鉱泉地

第二類 池沼、山林、原野、雜種地

(改正) 第一類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

〔頭註〕二十二年法律第三十号ヲ以テ第三条第一項第一改正

第一類中又ハ第二類中ノ各地目交換スルモノヲ地目交換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト為スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押塚、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ、天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四条 公立学校地、鄉村社地、墳墓地、用悪水路、溜池、堤塘、井溝、及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

(改正) 第四条 公立学校地、鄉村社地、墳墓地、用悪水路、溜池、堤塘、井溝、鉄道用地、禁伐林及公衆ノ用ニ供

スル道路ハ地租ヲ免ス

〔頭註〕二十二年法律第三十号ヲ以テ第四条改正

第五条 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ、六尺ヲ間ト為シ方卷間ヲ以テ歩ト為シ、三拾歩ヲ畝ト為シ、拾畝ヲ段ト為シ拾段

ヲ町ト為ス、但市街宅地ハ方卷間ヲ以テ坪ト為シ、坪ノ拾分壹ヲ合ト為シ、合ノ拾分壹ヲ勺ト為ス

第六条 開墾下年期明荒地免租年期明ニテ地価ヲ定ルトキ、又ハ地目交換スルトキハ地盤ヲ丈量ス

(改正) 第六条 地価ヲ定メ又ハ地価ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス

〔頭註〕二十二年法律第三十号ヲ以テ第六条第七條改正

第七条 地価ハ地目交換又ハ開墾ニ非サレハ修正セズ

(改正) 第七条 地価ハ地目交換、開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ交換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セズ

第八条 一般ニ地価ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九条 地価ハ其地ノ品位等級ヲ定シ其所得ヲ審査シ、尚ホ其土地ノ情況ニ応シ之ヲ定ム

第十条 地目ヲ交換スルトキハ之ヲ地方庁ニ届出ヘシ、地価ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ修正ス

(改正) 第十条 地目ヲ交換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ交換シタルトキハ地方庁ニ届出ヘシ

地目交換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地価ヲ修正シ、六年自ヨリ修正地価ニ依リ地租ヲ徴収ス、但第十六条第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第一類地ヲ第二類地ニ交換シタルモノハ五年間其地価ヲ據置、六年自ニ至リ之ヲ修正ス

〔頭註〕二十二年法律第三十号ヲ以テ第十条改正

第十一条 免租地ヲ有租地ト為サントスルトキハ地方庁ノ許可ヲ受ケヘシ、地価ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二条 地租ハ地券記名者ヨリ徴収ス、但賃入ノ土地ハ其賃取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

(改正) 第十二条 地租ハ土地台帳記名者ヨリ徴収ス、但賃入ノ土地ハ其賃取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

〔頭註〕二十二年法律第三十号ヲ以テ第十二條改正

第十三条 有租地ヲ公立学校地、鄉村社地、墳墓地ト為ストキ其地租ハ許可ヲ得シ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ、用

悪水路、溜池、堤塘、井溝、公衆ノ用ニ供スル道路ト為ストキ其地租ハ其地工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免

ス

(改正) 有租地ヲ、公立学校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト為ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ

月割ヲ以テ之ヲ免シ、用悪水路、溜池、堤塘、井溝、鉄道用地及公衆ノ用ニ供スル道路ト為ストキハ其地租

ハ工事著手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト為ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徴収ス

〔頭註〕二十二年法律第二十号ヲ以テ第十三条第一項改正

第十四条 地目交換ハ其地価修正ノ年ヨリ修正地価ニ依リ地租ヲ徴収ス

〔改正〕第十四条 地価修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地価ニ依リ地租ヲ徴収ス、但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

〔頭註〕二十二年法律第二十号ヲ以テ第十四条第十五条第十六条改正

第十五条 開墾地ハ鐵下年期明、荒地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ更定地価ニ依リ地租ヲ徴収ス

〔改正〕第十五条 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徴収ス

第十六条 開墾ヲ為サントスルトキハ地方庁ノ許可ヲ受クヘシ、開墾地ハ十五年以内ノ鐵下年期ヲ許可ス、但年期中

ハ十五年以内ノ鐵下年期ヲ許可ス、但年期中ハ原地価ニ依リ地租ヲ徴収ス

〔改正〕第十六条 開墾ヲ為サントスルトキハ地方庁ニ届出ヘシ

前項ノ前墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ対シ地価ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ為サントスルトキハ地方庁ニ願出鐵下年期ノ許可ヲ受クヘシ、鐵下年期

ハ三十年以内トス、但年期中ハ原地価ニ依リ地租ヲ徴収ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ帰セシ土地ハ其素地相当ト認ムル所ノ地価ヲ定メ、尚ホ十年以内ノ鐵下年期ヲ許

可ス、但年期中ハ原地価ニ依リ地租ヲ徴収ス

官有ノ小面ヲ埋立民有ニ帰セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ区画若クハ形状ヲ變更スル為メ又ハ地目ヲ変換スル為メ開墾ニ等シキ労費ヲ要スルモノハ、本條第

三項ニ準シ三十年以内ノ地価据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七条 鐵下年期中当初ノ目的ヲ改メ他ノ地目ニ変スルトキハ之ヲ地方庁ニ届出ヘシ、此場合ニ於テハ直ニ其地価ヲ定メ又ハ更ニ鐵下年期ヲ許可スルコトアルヘシ

〔頭註〕二十二年法律第二十号ヲ以テ第十七条削除

第十八条 鐵下年期明ニ至リ開墾ノ成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十五年以内ノ鐵下年期ヲ許可ス

〔改正〕第十八条 第十六条第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十年以内ノ繼年期

ヲ許可ス

〔頭註〕二十二年法律第二十号ヲ以テ第十八条ヨリ第二十四条マテ改正

第十九条 鐵下年期明ノトキハ其地価ヲ修正ス、若シ其開墾当初ノ目的ニ違ヒ他ノ地目ニ変スルモノハ其地ノ現況

ニ依リ地価ヲ修正ス

〔改正〕第十九条 鐵下年期明地価据置年期明新開免租年期明ノトキ其地価ヲ定メ又ハ修正ス

第二十条 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十年以内ノ免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地価ニ復ス

〔改正〕第二十条 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内ノ免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地価ニ復ス

海嘯ノ為メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其状況ニ依リ前項ニ準拠スルコトアルヘシ

第二十一条 免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地価ニ復シ難キモノハ十年以内ノ七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ

原地価ニ復ス

〔改正〕第二十一条 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地価ニ復シ難キモノハ十五年以内ノ七割以下ノ低價年期ヲ定

メ年期明ニ至リ原地価ニ復ス

第二十二條 低價年定期明ニ至リ尚ホ原地価ニ復シ難キモノ及ヒ免租年定期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地価ヲ定ム

(改正) 第二十二條 低價年定期明ニ至リ尚ホ原地価ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年定期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地価ヲ定ム

第二十三條 免租年定期明ニ至リ尚ホ荒地ノ形状ヲ存スルモノハ更三十年以内免租繼年期ヲ定ム、其年定期明ニ至リ原地価ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依テ処分ス

(改正) 第二十三條 免租年定期明ニ至リ尚ホ荒地ノ形状ヲ存スルモノハ更二十五年以内免租繼年期ヲ定ム、其年定期明ニ至リ原地価ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ処分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年定期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更三十年以内免租繼年期ヲ許可ス、其年定期明ニ至リ尚ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ掃スルモノトシ其地券ヲ還納セシム

(改正) 第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年定期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更三十年以内免租繼年期ヲ許可ス、其年定期明ニ至リ尚ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ掃スルモノトス

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ浦脱スル者ハ四十円以下ノ罰金ニ処シ、現地目ニ依リ地価ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス、但地租改正ノ初年以前ニ遡ルコトヲ得ス

(改正) 但発覚ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

〔頭註〕 二十二年法律第三十号ヲ以テ但書改正

第二十六條 第十一條第十六條ニ違反スル者ハ三十円以上三十円以下ノ罰金ニ処ス、其免租地ヲ有租地下為シ又ハ開墾ヲ為スコトヲ許可スヘキモノハ現地目ニ依リ地価ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス、但地租改正ノ初年以前ニ遡ルコトヲ得ス

得ス

(改正) 第二十六條 第十一條ニ違反スル者ハ三十円以上三十円以下ノ罰金ニ処シ、且現地目ニ依リ地価ヲ定メ其地租ヲ追徴ス、但発覚ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

〔頭註〕 二十二年法律第三十号ヲ以テ第二十六條第二十七條改正

第二十七條 第十條第十七條ニ違反スル者ハ一円以上一円九十五錢以下ノ科料ニ処ス

(改正) 第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違反スル者ハ一円以上一円九十五錢以下ノ科料ニ処ス、其開墾ノ届出ヲ為サ、ルモノハ現地目ニ依リ地価ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス、但発覚ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

トヲ得ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所為ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ、其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ当ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス、但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

(法令全書)

2、明治17年 地租条例取扱心得書

号外(四月五日)

府原 府原縣地租課

本年第七号地租条例布告相成候ニ付テハ、右取扱方別冊之通可相心得、此旨相違候事

(別冊)

地租条例取扱心得書

第一条 有租地中ノ各地目ニ包含スル種類左ノ如シ

第一類

- 田 未定田 沼田 流作田
 - 畑 未定畑 流作畑 切換畑 焼畑 山畑
 - 郡村宅地 堂宇敷地 水車敷地
 - 市街宅地 杜寺境内
 - 塩田 塩畑 塩溜 製塩場 未定塩浜
 - 鉱泉地 温泉地 冷泉地
- 第二類
- 池沼 堀 養魚池 水車溝 蓮池 井戸敷
 - 山林 崖地 竹木雑生地 楡山 竹藪 柴草藪山 石山
 - 原野 秣場 蒲生地 牧場 草生地 芝地 萱野 柴生地 野地
 - 雜種地 網干場 鱒干場 浜地 舟揚場 荷揚場 造船場 流木置場 布晒場 物置場 土揚場
 - 稻干場 海岸砂地 土取場

第二条 免租地中公立学校地トハ校舍建設アル一構内ノ土地及ヒ授業上ニ必要ナル土地、又ハ農學実験用ニ供スル(五

町歩以内ノ)土地ニシテ現ニ該学校ノ所有ニ係ルモノヲ謂フ、其郷村社地トハ該社ノ現境内ニシテ該社ノ所有ニ係ル土地ヲ謂フ

第三条 凡土地ノ丈量ハ三斜法ヲ用ヒ其地主ヲシテ之ヲ為サシメ、其段別及ヒ野取給圖(第一号雜形ノ如ク)ヲ差出

サシメ、然ル上主務官吏ヲ派遣シテ其当否ヲ検査セシムヘシ

第四条 凡間未滿ノ尺度ハ六尺ノ拾分者ヲ分ト為シ、分ノ拾分者ヲ厘ト為シ、丈量ノ際端尺三寸ヨリ五尺七寸マテ三寸ヲ増ス毎二六除ノ數ニ適セサルモノハ之ヲ切捨テ五厘ニ止ムヘシ(即チ四寸又ハ五寸得ルトキハ一尺六寸ニ切捨テ此六除五厘ニ適ス、五尺九寸ヲ得ルトキハ一丈一尺ニ切捨テ五尺七寸此六除九分五厘ニ適ス)、其積算上ニ於テハ一歩未滿ヲ切捨ツヘシ、但一筆ノ土地ニシテ一歩未滿ナルモノハ合・勾迄ヲ用フヘシ

市街宅地ハ丈量上ニ於テ厘未滿ヲ切捨テ厘位ニ止メ(厘ハ六尺段ノ一即チ一尺六分ヲ謂フ)、其積算上ニ於テハ毫未滿ヲ切捨テ勾位ニ止

ムヘシ(即チ即チ毫ノ百分ニテ謂フ)

第五条 田畑ノ丈量ハ畦畔際ヨリ、宅地ハ境界線ヨリ打話ニ為スヘシ

第六条 田畑ノ畦畔其地主自由ニ變更スヘキモノハ之ヲ本地ニ畝入シ、其常ニ變更セサルモノハ之ヲ除却ス(除却セシ地ハ之ヲ本地ノ外者トシ、之ノ区別號ニ記載ヘシ)、畑宅地ノ一筆ノミニ用フル通路及ヒ一筆内ニシテ其所有主便宜ニ設クル小逕ノ類ハ總テ本地ニ畝入スヘシ

崖高ノ地其崖脚中ノ畝入ニ必要ナル土地ハ之ヲ本地ニ畝入シ、崖脚ニシテ多少ノ収利アル土地ハ之ヲ本地ニ畝入若クハ一筆ニ丈量スヘシ

一筆ノ田畑宅地内ニ孕在スル雜種地等ハ之ヲ本地ニ畝入スヘシ

第七条 山林原野雜種地等ハ其實際ノ平斜面ニ応シ三斜法其他適宜ノ方法ヲ以テ丈量スルモ妨ケナシ

第八条 丈量ノ検査ハ筆數ノ多少ニ依リ適宜点檢シテ其總數ノ可否ヲ決スヘシ

第九條 土地ノ丈量又ハ地位、地価ノ検査ヲ為ストキハ、其地主ヲシテ毎筆字名、地番号、地目、反別及ヒ地主ノ氏名ヲ記載セル畝帳ヲ建テシムヘシ

実地検査ノ場合ニ於テハ其町村戸長及ヒ地主ヲ立会シムヘシ

第十條 土地ノ丈量ヲ検査スルトキ主務官吏ハ地方庁ニ保存セル該町村ノ段別帳及ヒ繪図面ヲ携帶シ、実地ヲ丈量スルニ臨テ先ツ繪図面帳簿ニ照シテ其土地ニ接続スル土地ノ形状ヲ視察シ、地番号ノ順序ヲ点檢シ、町村ヨリ差出セシ野取繪圖ト検査スヘキ土地ト相違ナキヤ否ヲ審査スヘシ

前項ノ場合ニ於テ繪圖面ト実地ト相違スルトキハ、更ニ其近傍毎筆ノ地押ヲ為シ地番号ノ順序ヲ正スヘシ

第十一條 丈量検査ニ要スル器械ハ主務官吏携帶スヘシ

第十二條 地価ヲ定メ又ハ地価ヲ修正セントスルトキハ、其町村戸長及ヒ地主ヲシテ近傍類地ト其地力ヲ比較シ、尚其地ノ情況又ハ現況ニ依リテ地位等級ヲ定メシメ、主務官吏ヲ派遣シテ其当否ヲ検査セシムヘシ

前項ノ場合ニ在テ地主多數ナルトキハ、其地主中ヨリ二名以上五名以下ノ総代人ヲ選ミ、之レヲシテ其地位等級ヲ定メシムヘシ、但実地検査ノ節ハ総代人ヲ立会シムヘシ

主務官吏実地検査ノ節該地位等級ヲ不適當ト認ムルトキハ、更ニ戸長地主又ハ総代人ヲシテ再評セシムルコトアルヘシ

地位ノ評定ニ係ル一切ノ費用ハ地主ノ負担タルヘシ

第十三條 一町村内ニ於テ地目及ヒ地位等級ヲ同フスル土地ハ、收穫・利率モ亦同トシテ其地価ヲ定ムヘシ

第十四條 地価ハ收穫・利率及ヒ検査石代(利率及ヒ其地價
改正ニ用ヒタルモノ)ニ依リ其種肥料ヲ收穫ノ一割五分ト為シ、左ノ算則ニ拠テ定ムルモノトス

地価算則

田畑ハ收穫物ノ内ヨリ種肥料ヲ引去リ其殘數ニ検査石代ヲ乘シ衷ト為シ、其他ノ地目ハ所得金ヲ以テ衷ト為シ、

地租率百分ノ三(地租改正ノ節
用ヒタルモノ)ト地方稅率百分ノ一(地租改正ノ節
取ト檢セシモノ)トヲ合シ之ニ利率ヲ加ヘ法ト為シ、法ヲ以テ衷ヲ

除シ、得ル數ヲ地価ト為ス

第十五條 條例第十三條第一項末段ノ土地ハ、工事ニ著手セシ筆限リ其月ヨリ免租ノ処分ヲ為スモノトス

第十六條 地目ヲ變換スルニ際シ其工事至難ニシテ許多ノ勞費ヲ要シ、直ニ相當地価ヲ査定シカタク地ハ、其事由ヲ具申シ特ニ裁可ヲ請フヘシ

第十七條 地目變換ヲ為セシモノハ、別紙(第二号雜形)ニ準拠シ年内兩期ニ届出テシムヘシ、但予メ其期限ヲ布達シ其期限ヲ過テ届出テサルモノヲ免租スルトキハ、條例第十條ノ違犯者ト為スヘシ

前項ニ依リ届出アルトキハ主務官吏ヲ實地ニ派遣シ地価ヲ査定セシメ、別紙(第三号雜形)ニ依ヒ取調書ヲ調製シ當省ヘ稟議スヘシ

第十八條 開墾ヲ出願シ欲下年期又ハ繼年期ヲ請フ者アルトキハ、主務官吏ヲ實地ニ派遣シ其勞費ヲ審ニシ、條例ニ定ムル年期内ニ於テ実地適當ノ年期ヲ査案セシムヘシ

第十九條 欲下年期拾年迄ノ分ハ地方庁ニ於テ処分ノ上届出テ、欲下年期拾年以上又ハ繼年期(前項ノ拾年以上ニ滿ル分)ヲ与フル場合ニ於テハ、別紙(第八号雜形)ニ依ヒ取調書ヲ調製シ當省ニ稟議ノ上処分スヘシ

第二十條 全管ノ開墾地及ヒ荒地統計上ニ於テ毎年其段別ノ異動増減ヲ明ニスル為メ、別紙(第四号雜形)ニ依ヒ段別異動増減表ヲ郡区限リニ調製シ、翌年三月三十一日限リ租稅局長ニ報告スヘシ

第二十一條 欲下年期明ノトキ又ハ年期中当初ノ目的ニ達セス他ノ地目ニ變シ地価ノ更定ヲ請フ者アルトキハ、主務

官吏ヲ実地ニ派遣シ該地適當ノ地価ヲ査察セシメ、別紙(第五号雜形)ニ倣ヒ取調書ヲ調製シ当省ニ稟議スヘシ
第二十二條 有租地ノ荒地ト為リ免租年期ヲ請フトキ、又ハ原地価ニ復シ難キ分アリテ繼年期若クハ低価年期ヲ請フ
トキハ、其地形ヲ画キシ図面ニ一筆限帳ヲ添ヘテ其事由ヲ申立テシムヘシ

前項ニ拠リ申立テアルトキハ主務官吏ヲ実地ニ派遣シ其損害ノ輕重起返ノ難易ヲ審ニシ、條例ニ定ムル所ノ年期内
ニ於テ実地適當ノ年期ヲ査察セシムヘシ

第二十三條 荒地ノ多分ニシテ每筆踏勘シ難キ場合ニ於テハ、主務官吏ハ其地主ヲシテ損害ノ輕重起返ノ難易ニ拠リ
該町村ノ荒地ヲ數等ニ区分セシメ、其每等ニ就テ適宜点檢スルモ妨ケナシ

第二十四條 免租年期五年迄ノ分ハ地方庁ニ於テ処分ノ上届出テ、六年以上ノ免租年期又ハ繼年期(別紙ハタル年功ニ據リ
又該シテ六年以上ニ滿ル分)

低価年期ヲ与フル場合ニ於テハ当省ニ稟議ノ上処分スヘシ

第二十五條 免租年期明ニ至リ原地価ニ復シタルトキハ、一筆限帳ヲ添ヘ其旨ヲ届出テシムヘシ

第二十六條 免租年期明若クハ繼年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シ、又ハ低価年期明ニ至リ尚原地価ニ復シカタク分アル
トキハ、一筆限帳ニ図面ヲ添ヘ其事由ヲ申立テシムヘシ

前項ノ申立テアルトキハ主務官吏ヲ実地ニ派遣シ、該地適當ノ地価ヲ査察セシメ、別紙(第七号雜形)ニ倣ヒ取調
書ヲ調製シ当省ニ稟議スヘシ

第二十七條 荒地ノ目ヲ除去シ地券ヲ選納セシムルトキハ、其地券ハ消印シ地種組換ノ手續ヲ為スヘシ

第二十八條 條例第二十五條第二十六條第二十八條第二十九條ニ依リ地価ヲ査察シ地租ヲ追徴スルハ地方庁ニ於テ処
分スルモノトス

〔頭註〕二十二年法律第三十号大藏省令第十九号同訓令第七十六号ニ依リ消滅

3、明治24年 地押問題に付目賀田種太郎記録

廿四年二月十日地押問題ニ付無益ノ煩悶ヲ為ス、依リテ左ニ記録シ置クモノナリ

地租制度ノ利弊ハ凡庸者輕シク論スヘカラス、其地押ノ事審キカ惡キカ今ヤ漸ク遺忘セントスルニ際シ、公共ノ難問
統々起ラントス、依テ余ノ經歷ト所感ヲ記シテ後著ヲ戒ム

明治十七年秋地租ニ關スル帳簿調製ノ議起ル、經費百万余円ナリト言ヘトモ民費ハ二百万円ニモ及フベシ、此時其「カ
ダストル」ナルヤ將タ地租帳ナルヤ方針更ニ定ラス、關稅局長ニ依頼シ伯耳義「カダストル」舊式ヲ得テ始メテ土地
台帳ト名ケ、將來ノ根基ヲ作ルノ意ヲ定ム

帳簿調製ノ時既ニ地押ノ議ハ胚胎セリ、是恐ルヘキノコトナリ、然レトモ局長悟ラス、大臣知ラス

二三ヶ月ヲ経テ長野県收稅長ヨリ少シク地押ヲ為サントノ建議アリ、当該課ハ大賛成ナリ、続キテ之ニ關スル訓示ヲ
出サントス、此時局中地押ノ何タル、又如何ノ結果タル殆ソト知ルモノナシ、此議浦書記官ノ異議ニテ中止

十八年二月訓示ヲ卿ニ出タス、卿甚タ不賛成ニテ之ヲ斥ントス、再三其事体ノ少ナルヲ弁シテ承諾ヲ求メタリト聞ケ
リ

同四月余ハ掃局シ始メテ此訓示ノ事ニ関カリ、亦課務ヲ代理ス、其地押ノ限度ヲ早ク定メンコトヲ再三主張シ、監査
参考書ヲ忽ニ紳シ有尾出張先キヘ協議シ、是ヲ各府県收稅長ニ予メ交付ス、是内外ノ意志同軌ニ出テンコトヲ欲セシ
ニ因ル

此時山口ノ県ノ地租ノ事起ル、地押及地価増課カ又ハ地押ノミノ議ヲ發ス、山縣内務卿・井上外務卿後者ノミヲ可認ス、須臾ニシテ曰根專一・勝間田崧山口人民ノ資格ト、又内務卿ノ内意ナリトテ來談ス有尾掃局ス、此時大坂事件起ル

余ハ早ク是等難件処理ノ方針ヲ一定シ、又一面地押ノ為メ早ク本局員ヲ地方ニ送ラサルトキハ、地方ト本局ト齟齬スルノ結果ノ生ゼンコトヲ再三主張ス、殆ント聞カレズ

然カルニ此時數地地方ヨリ準地租再改正ヲ行ハントテ、費用十万円以上ヲ請求スルモノアリ、其勢ヒ当ルヘカラス、而シテ多クハ地租老練家ト称スルモノヨリ申請アリ

五月余奥羽ニ至ル、八月長野ニ至ル、長野ノ紛紜実ニ名状スヘカラサルモノアリ、而シテ殆ント再改正ナリト主張シテ聞カス、余ハ何ニ依リテ然カルヤヲ問フニ拠ル処ヲ答ヘス、終ニ訓示ヲ以テ理由トス、訓示ハ監査参考書ニテ明解シアリテ再改正ニアラサルヲ弁ス、此時始メテ主務吏員ハ参考書ヲ受領セシコトアルヲ知レリ

次キテ関東残ヲ巡ハル

有尾閣西ニ至ルニ寛政一ナラサルヲ知り、地方官ヲ督スル頗フル殿ナリ、始メテ事体ノ重大ナルコト大臣始メ知領セラルニ至レリ

十九年五月関東ノ外五畿南海等ヲ担当ス

八月ニ至リテ九州ノ熱度激烈ニシテ、山畑ノ調査・焼畑ノ調査、且再丈量ノ必要論盛ニ吹キ來タル、九月十七日大坂ニ於テ夜二時頃迄談シ付ラル、此時大勢ヲ通観スルニ奥州・関東・五畿ハ平穩ナリ、竊カニ探聞スルニ九州熱獨リ殿ナリ、本局ヲ探タルニ殆ント困却スルモノ、如シ

時ニ熊本ニ於テ甚藤起ル、中野局長止ムヲ得ス事ニ托シテ自ラ往キテ之ヲ処理ス

廿年度中一般完了ヲ期スヘキコトヲ建議ス、局ニテハ大賛成ナリ、有尾ノ考ヘニテハ廿三年迄モ行フモノ、如シ、此時市街宅地ノ丈量法ヲ密ニシ、又一般丈量法ヲ密ニセント言フ、余強ヒテ之ニ反対ス、終ニ地押後迄延期ス

廿年四月有尾ノ隨行員余ノ隨行員ト為ル、至タル処再丈量ノ必要ヲ地方官ニ説カント欲ス、余甚タ其措弁ニ苦シメリ、何トナレハ之ヲ一概ニ斥クルトキハ、或ハ妙ナル反動ヲ生スレハナリ

廿一年八月ニ建議シ、其十月頃ヨリ強ヒテ急ニ終了ノ事ヲ主張ス、一般不満ナリ筑前・美作ハ再丈量必要ニハアラサリシナリ

余是ヨリ先キ思フ、實ニ大事ニ於テ衆心一致ハ得難キモノナリ、況ンヤ凡庸人將來ヲ察セス、朝思暮改其間地方官ノ奔命実ニ思フヘキナリ、而シテ此結果ハ皆人民ノ負担ニ帰スルナリ

是ヨリ先キ地押ノ事体ノ重大ナルニ付、大臣ハ最初ヨリ不賛成ナルノミナラス、大勢ニ驚レ警戒シテ止マス、又此時諸官及地方ヨリ苦情百出ス

此時大臣ハ余ヲ以テ殆ント全国ノ事ヲ知ルモノ、如ク認メラレ、注意方及將來速ニ終了ノ事ヲ屢ハ達セララル、而シテ余ハ一方面ノミノ担当ナルヲ以テ、余リニ大臣命令ヲ述レバ反リテ愉快ナラサル結果アルニ付、屢ハ事ニ托シテ一般督促ノ方法ヲ案ス、而シテ其一策ハ徵稅費課長ヲ説キ徵稅費諮問会ヲ起サシメ、費用ノ点ヨリ事業ノ終了ヲ督促セシニアリ、然レトモ此際ニ於テ執務頗フル困難、常ニ左支右慥不愉快極マレリ

此最中官城・山形ノ再丈量論起ル、局中頗リニ之ヲ行ハントスルモノアリ、中野局長之ヲ可トセス、大臣之ヲ可トセス、余ニ反対論ヲ草セシムルコト二回ナリ、余甚タ困却ス

十九年三月、余ニ内示スルニ地押總督ノ事ヲ以テス、余固ク之ヲ辞ス、何トナレハ内外ノ俗論ト將來起ル処ノ官民間ノ苦情トノ衝ニ当ルコトハ、當時余ノ地位ノ完クサル能ハサルヲ知レハナリ

尋キテ二十府県ノ出張ヲ命セラル、東ハ常陸・信濃ヨリ西南ハ土佐・但馬・播磨ニ至リ、隨員時トシテ十名余ニ上ホリ、地方官ノ殿刻ト腐敗ト不規律ト一時ハ非常ノ雜踏ヲ極ム

〔国立公文書館所蔵「目賀田家文書」第11号—23〕

4、明治21年 宮城県地押成蹟（乾坤）

地押成蹟	乾坤
------	----

地押成蹟

目次

- 総説
- 整理委員及総代人
- 地図
- 野帳 附事故帳
- 地押及視察
- 異動地
- 土地台帳

経費 雑件

地押成蹟

総説

地押事業ハ、明治十七年十二月十六日大蔵省第八拾九号達地租ニ關スル諸帳簿様式ヲ定メラレタルニ起因セリ、尋テ十八年二月ニ至リ大蔵卿ヨリ土地台帳整理ニ關シ実地取調ヲ為サシムヘキ旨ヲ訓示セラル、仍テ其六月之ヲ移シテ郡区長ニ諭達ス

本年二月廿八日付大蔵卿訓示ノ趣ハ、民有地ノ順次種目等ノ紊乱ヲ防キ租額ノ正当ヲ保チ、以テ地租改正ノ成跡ヲ鞏固ニセントスルニアリテ、乃チ官民共ニ忍諾ニ付ス可ラサルノ要項タリ、惟フニ地租条例ニハ無願開墾無届交換ノ如キモ罰例アルヲ以テ、其都度願届出ツヘキハ勿論タリト雖トモ、今日實際ヲ顧レハ大ニ然ラサルモノアリ、全国ヲ通シテ之ヲ論スレハ蓋シ其数幾万筆アルヲ知ル可ラス、然リト雖トモ其然ル所以ノ者ハ抑故アリ、地租改正条例ニヨレハ当初定メタル地価ハ五ヶ年其儘据置キ、五ヶ年間経過ノ後ハ復タ改正セラルヘキモノト解釈セラル、而ビテラス、十三年第二十五号布告ヲ以テ地価ハ更ニ十八年迄据置ク可キ者トセラレシヨリ、地租改正ニ依テ定メラレタル地価ハ五ヶ年毎ニ必ラス改正アルヘキ者ト信ヲ置クモノ、如シ、随テ改正後ノ地目ノ變動ノ如キハ、其時ニ際シ筆テ之ヲ訂正シ得ヘキモノト推測セシニヨリ、遂ニ無願ニシテ開墾シ又交換シテ届出テサルニ至リシナリ、

第一類地ヲ第一類地ト爲カ如キ当初之ヲ檢束スルコト分明ナラサリシヨリ、何時ニテモ差支ナク現状ニ依テ其地価地目ヲ更訂セラル可キモノト固信シ敢テ之ヲ爲セシアリ、是ニ由テ之ヲ見レハ此等實地ト帳簿ト抵牾ヲ生スルニ至リシハ、畢竟改租後十年間官民注意ノ不行届ナルニ原因セルモノト謂フ可キナリ、然ルニモ拘ハラズ今一々之ヲ地租條例ニ照シテ処分スルモノトセハ、所謂教ヘサルノ民ヲ罰スルノ嫌アリ、寧ろ穩當ノ処分ト謂フ可カラス、是該訓示ノ已ム可ラサル所以ニシテ、乃チ此際已往數年間ノ過失ヲ改メ、實地ト帳簿トヲ正當ニ照合セシメントスル所以ナリ、抑モ地租條例ハ汎ク國家ノ大勢ヲ通觀セラレ、其経理上爰ニ出テサル可ラストノ廟議定マルアリテ頒布セラレシモノニシテ、該訓示モ亦此ノ御趣旨ニ基キシモノナリ、然リト雖トモ該訓示ノ趣ヲシテ民心ニ貫徹セシメサルトキハ、人民ノ申告モ誠実ナラサルモ知ル可カラス、其申告誠実ナラサレハ民有地ノ紊亂ヲ防キ租額ノ正當ヲ保ツ能ハサルヲ以テ、他日多數ノ犯則者ヲ拏テ之ヲ罰問ニ開ハサルヲ得サルニ至ルヘシ、果シテ然ラハ大蔵卿ノ誠意モ亦徒爲ニ属セン而已、是ヲ以テ該訓示ノ趣ハ別紙手続ニ照準シ適實ニ之ヲ施行センコトヲ郡長官長ニ懇篤開示シ、郡長官長ヲシテ厚ク之ヲ体認シ遺漏ナク各地主ニ演達セシメ、實地ノ緩急ハカメテ地方ノ宜シキニ從ヒ勞費ヲ省クヲ要ス、且該訓示ノ趣ハ地租再改正ナリトノ疑ナカラシメンコトニ注意シ、成績上遺漏ナカラシメンコトヲ期望ス而シテ其取扱ノ要項ヲ示サル、事左ノ如シ

實地ト帳簿ト抵牾セシメタル地目ハ第一類地ト爲スルモノトシ、地目帳簿中郡長官長ノ演達ノ項ト記載サレハ茲ニ開示ス

地押ノ事

訓示ノ趣旨ヲ実行スルニ付正面ヨリ其手続ヲ按スレハ、各町村ニ於テ實地ヲ取調ノ上之ヲ管庁ニ申告シ、若シ管庁ニ於テ之ヲ不当トスルトキハ、官吏ヲ派遣シテ實地ヲ檢査セシムルナリ、更ニ之ヲ細言スレハ、各村長ニ於テ一般ニ地押ヲ爲シテ帳簿ト實地ト相違ナキヤ否ヲ調査シ、其相違アリシ分ハ其筆毎ニ別帳ニ記載シ之ヲ仮ノ元簿トシ、而シテ其管庁ニ申告シ許可ヲ得タル上帳簿ヲ訂正スヘク、若シ又管庁ニ於テ町村ノ調査ハ尚實地ト相違ノ嫌アリ

ト思慮スルトキハ、官吏ヲ派遣シテ地押檢査ヲ爲サシメ、其際無願開墾無届交換ノ類ヲ発見スルトキハ、直ニ告発スヘキノ順序ナリト雖トモ、斯クノ如クスルトキハ出格ノ詮議ヲ首尾相全カラサルノ憾アリ、然レトモ其事体ノ鄭重ヲ要スヘキヤ固ヨリ論ヲ俟タサルナレハ、其申告ノ際篤ト調査シ不都合ト認ムルモノハ再調再々調ヲ命シ、尙末ノ遺憾ナキニ至テ止ムヘキ管ナレトモ、是亦人民ヲシテ徒ラニ勞費ヲ抛タシメ、且其感情ヲ損シ事務調理上不都合カヲサルヲ以テ、予テ精密ナル地押ヲ要スル部分ト否トヲ推定シ、精密ナル地押ヲ要スヘキ部分ハ各町村ニ於テ實地取調ニ着手スルノ始メヨリ、毎地帳簿繪圖ト實地トヲ照査シテ精密ニ地押ヲナサシメ、再調ヲ命スルニ至ラシメサルコトニ注意スヘシ、但シ地租改正ノ際精密ナル調査ヲナシ、爾來地籍上格別ノ變動ナキ部分ハ敢テ精密ナル地押ヲ爲スニ及ハサルヘシト雖トモ、最前ノ調査不完全ノ点アルカ又ハ爾來開墾交換等アリテ、現ニ地図帳簿ヲ實地ニ照ストキハ相違ノ嫌アリト思慮セラル、部分ハ、此際更ニ精密ナル地押ヲ爲スヘキ部分ト推定スヘシ、即チ其区分ノ方法左ノ如シ

一 該地ノ改租事業ヲ奉行セシハ他管若クハ他町村ニ比スレハ晚成ナリシカため、予メ該事業整理ノ順序ヲ窺知スルノ便ヲ得タルモノ

二 製圖ハ一村全圖トシテハ全圖分圖法又ハ見取法ニヨリ一村ノ周圍ヲ圍シ、次テ耕宅地山林原野ノ類ヲ登載シタルモノ

三 土地ノ丈量及製圖等ノ技術ニ老練ナルモノヲシテ從事セシメタルモノ

四 管庁ニ在テハ老練ノ係員ヲシテ該地ヲ担当指揮セシメタルモノ

五 該地ノ地形ハ平坦ニシテ山岳ナク、隨テ地目ノ變動稀レナルモノ

以上第一ヨリ第五マテノ順序ニヨリ推察スルトキハ、該地改租ノ成立ハ完全ナルヲ以テ、其後生起シタル地目交換若クハ荒地開墾等ノ調査ニシテ遺漏ナカラシメハ、官民共ニ其誤ナキヲ必期シ得ルモノトス

六 該地ノ改租事業ハ他管若クハ他町村ニ先ツテ舉行セシカ爲メ、又ハ他ノ事故ニ因テ予メ完全ナル手續ヲ定メ、然ル後着手スルノ便ヲ得サリシモノ

七 一村全圖若クハ字限リ圖トモ調製セサリシカ、又ハ其概メテ疎略ナリシモノ

八 土地ノ丈量及製圖製帳等ハ他町村ノモノニ請負ハシメ、地主總代人ハ實際關係セサリシモノ、又ハ地主總代人ニ於テ全部若クハ幾分從事セシト雖トモ、其總代人等技術不熟練ナリシモノ

九 該地ノ地形ハ山部若クハ川沿ニシテ地目ノ變動頻繁ナリシモノ

十 管庁ニ在テ改租法頒布後尙淺日ナリシカ爲、成規例格ヲ参照スルノ便ヲ得サリシモノ

以上第六ヨリ第十マテノ手續ニヨリ推察スルトキハ、該地改租ノ成立ハ粗略ナルヲ以テ官民共ニ其誤リナキヲ保シ難キモノ

前兩段ノ区分ニヨリ更ニ精密ナル地押ヲ爲スヘキ部分ハ、地押事業着手ノ期日及成功ノ目的ヲ定メシメ、之カ請書ヲ徴シ置キ、村方地押成功ノ上ハ主任官ヲ派遣シ検査スル等ノ舉ナキ様注意スヘシ

從前字限リ見取り繪圖ナキ部分ハ此際該繪圖ヲ製圖セシムルヲ要ス、但更ニ精密ナル地押ヲ爲スヘキ部分ハ該繪圖製圖ノ上地押ニ着手セシム可シ

同年六月七日主税官目賀田種太郎屬官数名ヲ隨ヒ來県、尋テ各郡衙ヲ巡回シ地押ノ大意ヲ演述ス、當時收税長心得モ上京中ナリシカ、其巡回ヲ了ルヤ幸ヒ收税長心得モ帰県面會、實地調査ニ関スル達按及手續等ヲ定メ總テ同主税官ニ協議セリ、曩キニ收税長心得モ上京ノ際ハ本県内ノ民況モ不景氣ノ嘆声四境ニ喧シク、加之春來氣候不順ニシテ人々危疑ヲ抱キ秋穫ニ掛念スルノ實況ニシテ、未ダ着手ノ期日ヲ予定スルノ正鵠ナカリシカ、幸ヒニシテ氣候順ニ復シ稍ク豊熟ノ兆ヲ呈セルヲ以テ、断然本年度ヨリ施行ス可キ事ニ内決シ、郡長ヲ會シ其順序及經費ニ関スル事項ヲ諮問シ、

次ニ郡區書記ヲ召集シテ之カ手續ノ大意ヲ指示シ、百方計畫遂ニ十月三十一日實地取調ノ順序及ヒ右三属スル内規等ヲ制定シ、之ヲ郡區長及戸長等ニ示達ス、是ニ由テ收税長心得モ亦各郡ヲ巡回シ、郡吏及戸長等ニ向テ地押ノ旨趣ヲ懇篤演說セリ

十八年十一月十七日主税局第二部長心得ハ、監査員參考書ヲ收税長心得ニ送与シテ曰ク

本年二月廿八日大蔵省訓示ノ旨趣ニ基キ、實地取調ニ関スル參考書ヲ編製セシニ、就中費官ノ注意ヲ要スル点モ有之ニ付参照セラレ度、尤モ書中目次前ニ掲記セル各項ハ当局監査員ノ腹案ニ供セシモノナルヲ以テ、費官限リ閱讀ニ止メ他ニ示ス勿レ、云々

監査員參考書

地租ノ事務タル汎ク官民ノ得失ニ關スルヲ以テ、其整理上ニ於ルモ固ヨリ全國一斉ヲ要ス、是十七年本省第八拾九号ヲ以テ諸帳簿様式ヲ定メラレタル所以ナリ、亟テ十八年二月十八日大蔵卿ハ地租ノ根拠タル帳簿編製ニ付特ニ實地取調ヲナサシム可キ旨ヲ府縣ニ訓令セラレタリ、苟クモ事ニ此ニ從フモノ一層注意スヘキハ又弁テ俟タサルナリ、乃チ該監査上ノ參考ニ便スルカ爲左ニ其要領ヲ掲ケ、且其参照ノ書類ヲ附記シ以テ各地区々ノ処分ニ出テサランコトヲ期ス

實地監査ニ當テハ土地風習ノ如何ヲ察シ人民申立ノ當否ヲ判スルコト其要點タルヲ以テ、監査ニ臨ミタルトキハ地方官ニ協議シ検査員ハ申合書ヲ作ラシムル等、便宜旨趣貫徹ノ方法ヲ設クヘシ

検査ノ粗密ハ検査員其人ヲ得ルト否ラサルトニアルハ勿論ナレトモ、監査員ハ常ニ検査員ノ能否ヲ觀察シ、事ニ臨ミ本局旨趣ノアル所ヲ説明シ、其足ラサル所ハ懇切ニ訓導シ検査員ヲ覺醒シ、粗漏姑息ノ事ナカラシムルヲ要ス

但検査員ノ取扱上ニ充分ナラサルコトアリテ更正セシムルトキ、又ハ忠告ヲ要スルコトアルトキハ、成ルヘク人

民ノ目前ニ於テ為サ、ルヲ要ス（警署人員監視スルハ、然ラサレハ検査員ノ威嚇ヲ損シ、為ニ将来官民ノ信義上ニ及ホスヘキニ付、右等輕躁ノ事ナカラシムコトヲ企望ス）然ラサレハ検査員ノ威嚇ヲ損シ、為ニ将来官民ノ信義上ニ及ホスヘキニ付、右等輕躁ノ事ナカラシムコトヲ企望ス

土地ノ実査ハ或ハ荆棘ニ触レ或ハ泥土ニ汚ル、ヲ以テ、兎角尙且ニ流ル、ノ弊アリ、是ヲ以テ監査員タルモノハ、自ら進ンテ四至ノ境界等ヲ正シ検査員ノ標準タルヲ要ス

地価ノ査察其他開墾畝下荒地免租ノ年期付与方等、從來比準地ノ選定其当ヲ得ス、或ハ人民ノ請願ニ任放スル等往々緩慢ニ流ル、ノ弊ナキニアラサレハ、監査員タル者意ヲ此ニ注キ能ク検査員ノ取扱ヲ視察シ、其粗密ヲ検査シ其宿弊ヲ矯正スルヲ要ス

検査員ノ検査ヲ執行スル監査員ノ目前ニ於テハ、其取扱上ニ不相当ナキモ、煩ヲ厭ヒ簡ニ流ル、ハ人情ノ免レサル所、故ニ監査員ノ其所ヲ去ルヤ、或ハ協議ノ如ク順序ヲ踏マス往々粗瀆ニ失スルノ弊ナキ能ハス、故ニ監査員タルモノハ終始一組ニ同行スルヲ要セス、交互臨監シテ検査員ノ本分ヲ尽サシムルコトニ注意スヘシ

諸検査報告表及野帳繪圖記載方等ハ、其主トスル所検査上ノ成績ヲ見ルニアリ、然ルニ或ハ実地ノ踏査ヲ疎略ニシ只表面上ノミノ裝飾ヲナス弊アリ、宜シク注意スヘシ

十八年十月廿八日官長ノ照会ハ、府県收稅課中ニ委員ヲ置キ、以テ今回ノ実地取調事務ヲ整理セシムルノ旨趣ナレハ、郡役所戸長役場ニ於テモ、亦此旨趣ニヨリ成ルヘク専務ノ吏員ヲ置クヘキ事ニ協議スヘシ、而シテ監査員ハ郡役所以下該事務ノ筆否ヲ視察シ、時宜ニヨリテハ検査員ニ謀リ該事務ノ筆否上ニ就キ意見ヲ伝ヘシムルコトアルヘシ

但、地方ニヨリ收稅課本文ノ事務タル地券取扱ヲ地理ニ屬シ、隨テ郡役所租稅掛モ只收稅事務ノミヲ管シ、帳簿調製ノコトヲ地理掛ニ專任セシムルアリ、是等ハ成ルヘク改正スル様協議スヘシ

收稅長諮問会ノ節官長ヨリ收稅長ニ示サレタル演述書及其他ノ書類ニ秘字ヲ記シタルモノハ、特ニ内示セシモノニシテ汎ク他ニ示スヘキモノニアラス、依テ該趣旨ニ基キ郡長戸長マテ内示スルニ止メシムヘシ、是レ一時特殊ノ処分ニ係ルモノナルヲ以テ、永ク其根跡ヲ存セサルヲ期スレハナリ、且検査員人民ニ接スルトキモ固ヨリ之ヲ公言セス、唯申告ニ実ヲ以テスレハ寬典ニ処セラル可キ旨ヲ以テシ、疑ナク申出ツヘシト内諭セシムルニ過キサルヲ要ス

実地取調手續遵奉準則第八條ニ、反別ニ基シキ差違アリテ其儘ニ据置キ難シト思惟スルモノハ此際特ニ丈量スヘシトアレトモ、其基シキノ差違トハ丈量ニ違シタルモノカ、一見シテ其步數ニ増減アルモノヲ認メ得ル者ヲ指シタルコトニシテ、一村ニ一体ニ多少ノ広狭アルモ此際一概ニ丈量ヲ行フノ旨趣ニアラス、然レトモ一村ノ丈量寬苛一ナラス、將來取扱上ニ困難ヲ覺フヘシト認メ、人民モ丈量ヲ希望スルモノ、如キハ其請ヲ允ルシ、更ニ丈量ヲ行ハシムルモ妨ケナシ

今回調査ノ反別地価地租表ニ照合スルノ順序ハ第八号ニアリト雖トモ、其基点トスル所ハ必スシモ十七年度ニ限ラス、府県ニ於テ其調査着手成功ノ都合ニヨリ、最初土地台帳ニ登記スル年ヲ基点トナシ、漸次沿革ヲ記入スヘキモノトス

第一類地ヲ第二類地トナシタルモノニ付此際特別註義ヲナスモノハ、既ニ第二号内示取扱方法第二項ニ明カナリト雖トモ、動モスレハ其範圍汎キニ流レントス、故ニカメテ之ヲ制限スヘシ、夫ノ富崎縣收稅長及長野縣出京官ノ質疑ニ答タル、二類地ニ組替サルヲ得サルモノ、如キハ特別ニシテ他ニ施スノ意ニアラス

小畝歩ノ土地合筆ヲナスハ此際施行スルヲ以テ最モ然リトス、其合筆ヲナサシムルハ官民ノ便益ニナルヘキモノト認ムル土地ニシテ、同地目同等級同所有者地統ノ地ニ限ルヘシ

改租ノ際帳簿ニ誤脱セシ土地ハ、固ト民有ノ確証アルモノ之ヲ申告セサリシモノハ、今日之ヲ誤謬地脱落地ト汎稱ス

ト雖トモ、其実ハ土地ヲ欺隠シタルモノニシテ地租条例第二十五条ニ該当シ、今回ノ調査ニ限り実地ノ申告ヲ得レハ特ニ其罪ヲ論セス賦租ノ手續ヲナスヘキモノナリ、彼官民有未定ノ土地ニ其所有ヲ定ムルモノト同視スヘカラス官地優墾ノ処分ハ元來内務省ノ主管ナレハ、府県ニ於テモ其事ヲ地理課或ハ勸業課ニ屬スルモノアリト雖トモ、其事タル地租検査ト密接ノ關係ヲ有シ、且今回ノ実地取調ヨリ發覺スルモノハ特別ノ取扱ヲ要スル義ニ付收税課ニ於テモ商議ヲ尽シ、区々ノ議論ニ拘泥セス彼此不同ノ取扱ニ出テサル様協議シ置クヘシ、尤モ收税課ノ取扱ハ一体ノ土地官民有区分ノ事務ニマテ進入スル義ニハ無之ニ付、其辺予メ注意スルヲ要ス

右列記スル事項、地方ニヨリ施行ノ既往ニ係ルモノハ必シモ更正セシムルヲ要セス、只其懸念ヲ通シ成ルヘク区々ノ成績ニ涉ラサルヲ期ス、又監査員ニ於テ地方官ニ説示スルモ、之ヲ口陳ニ止メ他見ヲ許サ、ルヘシ

参照書類目次

- 第一号 実地取調上ノ義ニ付大藏卿訓示
- 第二号 同上官長演述書并取扱方法
- 第三号 実地取調ニ付郡村吏ニ演述書按
- 第四号 地租ニ関スル諸帳簿整理上ノ義ニ付テ戸長トノ問答概略
- 第五号 実地取調手續達書準例
- 第六号 同上順序細目
- 第七号 実地取調并帳簿調製着手心得書達按
- 第八号 反別地価地租ヲ地租表ニ照合順序
- 第九号 実地取調ニ付官吏及戸長ノ職務并明書

第十号 取調委員内規

第十一号 官地優墾処分内規、付検査員申合書按

是歳十一月二十二日收税長心得ハ南方ニ出張シ、柴田郡小山田村ニ於テ大ニ戸長及総代人等ヲ会シ始メテ実地ノ演習ヲ為シ、其方法順序等ヲ説明ス、初メ乙第四号^{カ、イ、ウ、エ}ヲ以テ諸帳簿様式ヲ達シ、次テ地押ノ事ヲ内訓スルヤ、民間於テハ実地踏査ノ何タルヲ知ラス、或ハ地租ノ再改正ナリトノ疑團ヲ抱ク者少カラス、而シテ其経費ノ点ニ至テモ大ニ苦慮スルノ状況ナリシカ、是ニ至テ実施ヲ目撃シ始メテ其簡便短約決シテ改租ノ如キニ非ルヲ視、頓ニ数月ノ疑團ヲ氷解シ進シテ從事セント欲スルノ傾向ヲ現ハセリ、郡役所於テモ此機ニ投シ委員ヲ選定シ勸メテ勧誘セシヨリ、名取外二三郡モ着々施行ノ緒ニ就ケリ、然ルニ宮城県々會ハ土地台帳調製ニ関シ延期ノ建議ヲ為セリ、其略ニ曰ク
地押ノ事タル之ヲ地方税ヨリ支出スルモノハ、特リ戸長以下給料旅費中ニ臨時雇料金老万式千五百円ノ費額ヲ置クニ止ルト雖トモ、其町村直接ノ負担ト地主ノ費消スル処トヲ合計スルトキハ大凡十万元以上ニ達スヘシ、然ルニ當今人民ノ財源ハ業既ニ他ノ費途ノ為メニ塞滞セラレ供給ノ余裕ナキ現況ナレハ、切ニ該事業ノ延期ヲ指揮セラレンコトヲ希望ス、云々

今県會ノ建議ヲ採用スルト否トハ固ヨリ県令ノ職権内ニテ之ヲ処理スルヲ得ルノ事タリ、然レトモ土地台帳調製費ニ屬スル筆耕雇料ハ地方税ヨリ支弁セシメント欲シ之ヲ議按ニ付シ置キシカ、此ニ因テ之ヲ考フルニ必ラス否決ス可シト信ス、若シ果シテ否決スレハ則テ再議ニ付スヘシト雖トモ、已ニ此建議ヲ提出スルノ情況ナレハ、或ハ再議モ亦否決ノ不幸ヲ招クヲ保シ難ク、如斯ニ至リテハ勢内藏兩卿ノ指揮ヲ乞ヒ不認可ノ処分ニ出テサルヲ得ス、果シテ然リトナセハ只煩雜ヲ來ス而バナラス、執行上ニ障礙ヲ及ボスハ蓋シ免レサル所ナラン、寧ロ再議ニ付スルノ手数ヲ省キ県會ノ決議ニ任セテ地方税ノ支給ヲ要セス、別段ノ方法ヲ設ケ実行スルニ如カサルヘシ、而シテ又兩省ノ御意見モ確平ト

シテ動かス、假令不認可スルモ決行セシムルノ見込ナランニハ、正当ノ順序ヲ經上申ノ運ヒニ至ルモ亦嫌ナキナリ、然レトモ其事亦斯ヘカカラサレハ、予テ大蔵省ノ内示ヲ伺ヒ円滑ノ処置ヲ為スニ如カストノ異議ニ拠リ、收税長ハ主税局第一部長及第二部長ニ向テ之ヲ稟議シ、且前頭ノ事情ヲ諒察セラレ電報ニテ御見込ノ大意ヲ内示セラレンコトヲ乞ヒシニ、其回懇ニ曰ク

実地調査延期ハ出来難キモ、若シ台帳調製費ヲ否決セハ該年度ハ延引シ、後年度ニテ支弁セシメ差支ナシ而シテ同十二月廿四日主税局第二部長心得ヨリ前電音ノ旨趣ヲ補述シタル郵文アリ、曰ク

台帳調製ハ実地調製整頓諸般ノ手続ヲ決シタル後ニアラサレハ着手シ難キ義ニテ、其実地調ハ此上何様御督励相成候共明年中ニハ全ク整頓ハ期シ難キ次第ニテ、夫是後年度ノ支出ニ保リ可申相考候義ニ有之、而シテ実地取調ノ義ハ人民ノ便益上ヨリ之ヲ為サシムルモノニテ、無願開懸無届交換ノ如キハ一々之ヲ法廷ニ告発スヘキ筈ナルヲ、特別ノ詮議ヲ以テ此際申告セシムル義ニ付、若シ此機会ヲ後レ候テハ勢告発ヲモセサル可ラサル次第ニ立至リ、不都合少カラサル而巳ナラス、地種地目ノ紊乱ヲ此儘打捨置候ハ地主於テモ安ンセサル義ニ有之、加之本年ノ豊作ナレハ実ニ此好機會ナルニ、此際区々タル辞柄ニ依テ之ヲ延引スルハ、官民共ニ取捨其宜ヲ失スル義ト被存候条、断然延期等ハ難相成モノト可然県令ヘ御申立相成度、云々

尋テ内務省県治局長ヨリ電報アリ、曰ク

本県会議長ヨリ地押延期ノ義ヲ内務大臣ニ建議セリ、然ルニ県会ハ戸長以下給料旅費ニ向ヒ如何ナル決議ニ及ヒタルヤ、又御県ノ右ニ対スル処分及御見込ハ如何ナルヤ詳細ニ通報アレ

蓋シ此建議タル地方税支出議案中戸長以下給料旅費ノ内、臨時筆生雇料ヲ削除セント欲スルノ誤解ヨリ起レル者ニ外ナラス、此雇料タル地押ノ費用ニ充ツ可キ者ニ非ラサル事ハ疑キニ縷々県会ニ向テ之ヲ説明セリ、然ルニ県会ハ尚其

事實ニ通曉セス結局此誤謬ノ決議ヲ為セリ、抑本県ハ改租ノ当時他府県ニ先ンシ結了ヲ告シヨリ其調査不完備ノ点少カラス、地券交付後頻々遺漏地等ヲ発見スル一年百余町歩ノ多キニ上レリ、殊ニ改租以來僅々十数年ノ星霜ヲ經ルニ地目ノ交換無届ノ開懸等アリテ、現地ト帳簿トノ齟齬ルハ蓋シ其幾多ナルヲ知ル可ラス、到底実地ヲ踏査スルニ非レハ此紊乱ヲ矯正スルニ難カル可シト思慮セシニ、幸ヒ今回大蔵省ノ訓示ノアルアリテ、速カニ管内ニ諭告シ其手続ヲ法定メ施行ノ順序ニ運ヘリ、民間於テモ地盤ノ錯雜ヲ憂ヒ其矯正ヲ企望スルノ場合ニシテ、尤モ好機ナリト云フヘキナリ、而シテ頃日演習以來陸續実施調査ヲ申出ルアリテ、決シテ県会カ殊更ニ辞ヲ設ケ云爾スルノ実状ニ非ラス、況ンヤ昨秋ハ近來稀ナル豊熟ニシテ民間ニモ其收穫ノ幾分ヲ貯蓄シ、剩ヘ通常経費ノ外尚女川灣築港費ヘ金二十五円ヲ支出スルコト迄ニ決議セシ程ノ余裕アレハ、今年ヲ措テ他ニ良期アルヲ見ス、且ツ民心ノ嚮フ所モ亦一途ニ掃スルヲ以テ断然実施セシムル旨ヲ陳述シテ、之ヲ県治局長ニ回答ス、元來此戸長以下給料旅費項目中臨時筆生雇料ハ土地台帳ヲ調製スル費用ニシテ、唯地押調査ノ連帶タルニ過キス、然ルニ県会ハ地押ヲ延期セントノ熱望ヨリ遂ニ此項ヲ削除否決セリ、而シテ当時地押ノ景況タル民間ニモ其必須急要ノ事タルヲ了知シ、竟フテ実施ヲナシ聊カ碍滞ナク円滑ニ決行スルヲ得ヘク、随テ土地台帳ノ調製ハ実地整頓次第着手ノ運ヒナレハ、之ヲ後年度ニ譲ルモ不都合ナキ而已ナラス、又別ニ方法ヲ設ケ事務ヲ処理スルノ考按ナキニ非ラス、殊ニ本年度ノ警察郡区吏員給料旅費等ハ県会ニ於テ決セシモノヲ、已ヲ得ス不認可ヲ為スノ見込ナレハ、本項ハ認可ヲ与ヘ事務ヲ流暢ニ執行スルノ旨ヲ再ヒ県治局長ニ通報ス、而シテ管内各郡ニ僚属ヲ派遣シ郡長ニ協議シ尚勸誘諭告セシニ、各郡村皆総代人ヲ選定シ陸續実地ノ調査ニ着手少モ滞滯ノ跡ヲ見ス、是ニ於テ收税長ハ過般県会於テ土地台帳調製ニ要スル戸長役場臨時筆生雇料ヲ削除シ、及ヒ内務大臣ニ延期ノ建議ヲ提出スル事由ニ關シ県治局長ト往復セル書類ヲ添ヘ、主税局第二部長ニ通報セリ、其略ニ曰ク

蕨二本県会於テ地押延期ヲ建議スルハ全ク民情ノ如何ヲ問ハス、或三ノ議員カ云々ノ辭ヲ設ケ議會ノ名ヲ冒シタルニ過キス、決シテ實地調査ニ障礙ヲ及ボサレハ、御座リ以テ山崎県治局長ヘモ可然御打合せ被下度、景況御報道券々御依頼ス、云々

蓋シ本県会カ地押延期ノ建議ヲ為スハ元ヨリ衆望ノ屬スル所ニ非ラス、故ニ其事業上ニ於テ聊カ渋滞ナシト雖トモ、亦幾箇ノ危疑ヲ如クハ勢ノ免レサル所ナリ、十九年三月收稅長ハ尚各郡ヲ巡回シ其実況ヲ視察シ、郡村各所ニ於テ戸長及總代人地主等ヲ招集シ地押ノ須要ヲ説明シ、其大意ヲ演述シ尚實施手續等ヲ懇示シ事業ノ進歩ヲ勸誘セシニ、管内ノ不服ヲ唱フル者ナク皆着手ノ方向ニ進メリ、而シテ派出委員モ郡区書記等ト其現狀ヲ巡視シ、故々艱難斡旋至ラサル処ナク善ク之ヲ提擲セリ、人民部モ其竣功ヲ企圖スルコト県会カ延期ヲ提出スルノ事情ノ如クナラス、東奔西走實地ヲ踏査シ調査ノ他ニ遅レンコトヲ恐ル、ノ景況ナリ、殊ニ耕地ノ如キハ揮秩前ニ現地ノ調査ヲ終ラサル可ラサルノ実境ナレハ、各地主モ一層ノ感覺ヲ増シ總代人ノ外尚助手数人ヲ雇ヒ測器ヲ増シ實地野取ヲ速ケリ、而シテ特リ仙台区ハ目下儘方製図ニ着手セルノミナリト雖トモ、各郡ニ比スレハ地盤狹隘筆數僅少、加之市街地ノミニテ耕地ノ關係ナケレハ後日ニ譲リシカ、又漸次實地ニ着手、今後四五日ヲ費サハ實地ノ調査ヲ完了スヘキノ目的ナルヲ以テ、四月十日其供ヲ具シテ之ヲ主稅局ニ報告セリ、是時ニ至テ監督事務モ又實施ト共ニ繁忙ヲ来スト雖トモ、客歲中主稅局第二部長ノ内慮ヲ煩ハセシ如ク、特別方法ヲ設ケケ所毎ニ数名ノ委員ヲ派遣シ取締ヲ為サシメサル可ラサルノ繁劇ナキヲ以テ、当初見込タル如ク一郡一名乃至二名ヲ派遣シ郡区委員ト共ニ從事セシメハ、当秋ヲ期シテ地押及野取圖製ノ業ハ成功ヲ告クヘキ域ニ進ミタルニ因リ、其景況ヲ主稅局第二部長ニ申報セリ

十九年六月大蔵省主稅官戸叶正明、大蔵屬石川弥一郎・水谷亥之助・石川雄次郎ヲ從ヒ地押事業監督トシテ来県ス、仍テ其施行ノ順序方法等ヲ提供シ、且ツ桃生郡外五郡ノ實施監督ヲ受ク、其七月十二日、收稅長ハ各整理委員ヲ誘ヒ

戸叶主稅官一同名取郡飯野坂村ニ出張シ、各村總代人等ヲ會シ實地視察ノ演習ヲ為シ、尚ホ實施上須要事件ノ指示ヲ乞フ、是ヨリ後屬宜石川雄次郎本県下ニ駐在シ管内ヲ巡視シテ事業ヲ監督スルニ依リ、我整理委員モ亦善ク主稅官協議ノ旨趣ヲ遵守シ、石井属ト謀リ首尾支吾セサルコトヲ勉メ益々針路ノ方向ヲ進メリ、然ルニ生憎冬期ニ際シ大ニ事務ノ渋滞ヲ招ケリ、本年末ヨリ二十年初メニ及ヒ園道以西ノ村落ハ率ネ積雪ニ埋没セラレ、昨界一白田畑ノ疆域ヲ弁セサルコト數十日、海浜ノ村落ハ或ハ降雪ナキモ、連日ノ烈風ニテ寒氣甚シク充分ノ検査ヲ為ス能ハス、止ヲ得ス各郡一般ノ検査ヲ中止シ、検査員中異動地事故帳精査等緊要ナル者ヲ除クノ外ハ雇員ヲ併テ過半帰庁ヲ命、尚融雪ノ候ヲ俟テ海辺ヨリ着手ノ目的ヲ以テ、一月十七日検査済否一覽表ヲ添付シ其狀ヲ戸叶主稅官ニ報告ス、而シテ各村ノ總代人ハ降雪ノ為メ實地ヲ踏査セスト雖トモ、皆帳簿ノ計算或ハ製図等ニ從事シ決シテ其事業ヲ中止放棄スルニ非ラス、又以テ人民部ノ実況ヲ察スルニ足レリ

二十年七月十二日大蔵大臣ヨリ号外ヲ以テ、特別整理ニ関シ書換ヲ要スル地券ハ、地押上ヨリ生スル書換又ハ其他通常ノ書換ト同時ニ之ヲ行フノ外、朱書訂正ニ止メ手数料ヲ徴收スルニ及ハサル旨内訓セラレタリ、然ルニ在来当県所轄官城郡外十一郡ハ地租改正ノ際所有主ノ合筆ヲ希望スルニモ拘ハラズ、一枚一筆ニ取調ヘタルヲ以テ五百余万ノ筆數ニ上リ、且ツ少歎歩ノモノハ雇位未滿ノ地券數十筆ヲ所持スルアリテ、取扱上彼此ノ不便少カラズ、今般地押ニ際シ地目地位等級ヲ等フシ其接続シタル者ハ合筆セシメタル事情ニヨリ、此事ヲ具シ七月二十一日大蔵大臣ニ経伺シ右合筆地ニ限り特別整理地同様朱書訂正ニ止メ、手数料ヲ徴收セサル様允許ヲ請ヒタリシニ、七月廿七日大蔵大臣ハ閣届ケ難キノ指令セラレタリ、然ルニ本県ハ元来彼此ノ不便ヲ謀リ合筆ヲ勸誘セシニ、其地券書換ニ手数料ヲ徴收スルトキハ人民ノ疑惑ヲ招キ執行上円滑ノ手段ヲ失スルモ難計ニ付、更ニ経伺セシカ、十月五日ニ至リ更ニ号外ヲ以テ今般土地台帳整理ニ付地押取調上ヨリ生スル異動地々券書換ノ義ハ、特別協議ヲ以テ朱書訂正ニ止メ手数料ヲ徴收スル

ニ及ハス、但脱漏及分裂地等ニテ新タニ地券ノ下付ヲ要スル者ハ此限ニ非ラスト内訓セラレタリ、仍テ幾キニ本県経
同ニ係ル合併地券ノ義モ此内訓ニ包含シ処理スヘキ旨、同月五日主税局長通牒ニ止リ、最後ノ伺書ニ対シテハ別ニ指
令ヲ要セラレサソキ

抑此回ノ地押ニ廻リ全管均準画一実地絵面等悉モ齟齬スル所ナク、完全整理ノ緒ニ就クト雖トモ、就中地位等級ノ
不権衡太甚シキ者アリテ特別整理ヲ要スルアリ、陸前國桃生郡赤井郡畑方ノ内梨畑反畑反別四反六畝廿八歩ハ、明治
七年地租改正ノ際其植物ニ就キ收穫ヲ量リ地価ヲ査定セシニ因リ、普通畑地ニ対比スレハ殆ント八倍余ノ高価ニ至リ、
所有者於テ納租ニ難堪趨テ以テ地価ノ修正ヲ願出タリ、然ルニ同年租税察別報第三号桑茶ハ其植物ニ就キ地価ヲ算セ
ス、近傍類地米麥ヲ植ルモノニ準シ調査スヘキノ違ハ同年六月ニシテ、当県地租改正完結上申セシハ同年九月ナルヲ
以テ該畑ノ調査ハ三号違ノ以前ニ係レリ、仮令地価調査ハ竣功スト雖トモ更ニ該違ニ基キ修正セサルヲ得サルノ理ナ
リ、然ルヲ其儘上申セルハ当初ノ錯誤ニ出テ、為メニ所有主ノ不幸ヲ求セシハ實ニ憫然ト言ハサルヲ得サルナリ、是
ニ由テ之カ取調ヲ為セシニ同村畑方最高ノ地価ニ比較シ適當ト認ムルヲ以テ、之カ減租及地価修正ヲ圖ラサル可ラス、
因テ明治十七年八月廿七日旨ヲ大蔵省ヘ伺シニ、聞届ケラレサルノ指令アリシカ、偶々今回地押調査ニ際シテ訂正
セサレハ又何レノ年ヲカ望マント再三経伺ノ末、遂ニ二十年六月十八日許可ノ令ヲ得タリ、又同國宮城郡六丁目村ノ
地位等級ハ改租ノ際地味ノ如何ンヲ論セス専ラ旧套ニ固泥シ、寛政度ノ檢地ヲ上等ニ、天保以前ノ檢地ヲ中等ニ、其
後ノ檢地ヲ下等ニ品定セリ、如斯取調タル者ハ他ナシ、從來本県ハ一般寛政ノ檢地ヲ本地ト称シ、其後ノ檢地ヲ新田
ト唱へ、本地ハ舊税ナリシニ因襲セシヨリ、全ク改租ノ趣意ヲ誤解セシ者ニテ、後日之ヲ覺知スルモ事已ニ既往ニ屬
シ、又之ヲ救フニ術ナク空シク再改正ノ期ヲ俟チ待再歳月ヲ経過セリ、今之ヲ審査スルニ其權衡ヲ失スル實ニ甚シク、
上中等地ニシテ下等地ニ劣劣者該村六十七字中枚拳スルニ違アラス、故ニ此際該村ニ限リ一步ヲ進メテ土地ノ総丈量

ヲ為シ、全村地価ノ総額ヲ據置其内部ニ於テ地位等級ヲ更正シ、反別等級ニ至ルマテ精確ナラシメ度旨ノ情願ニ対シ
之ヲ調査セシムルニ、亦申請ノ如ク相違ナキヲ以テ、二十年七月二十六日之ヲ大蔵大臣ニ経伺シ其允許ヲ請シニ、八
月四日伺ノ趣開置カレタルヲ以テ、茲ニ之ヲ実地ニ精査シ其実況ニ拠テ上中下ノ等級ヲ區別シ、是カ調査ヲ了リ以テ
特別整理ノ局ヲ結ヘリ

二十年度ニ於テハ地押事業各郡村既ニ実地ノ視察ヲ了リ大略整理ノ期ニ近ツキ、異動地ノ檢査モ亦八月三日ヲ以テ終
結セリ、而シテ独リ仙台区ヲ残セシカ、八月十日全ク実地ノ調査ヲ了リ目下檢査員ノ報告調査中ニ係レリ、而シテ其
地租ハ未タ精算ヲ經サルヲ以テ其詳細ヲ繩クル能ハサルモ、大凡九千余円ノ増額ヲ見ルヘキノ概算ナリ、仍テ十一月
十二日其調書ヲ添付シ之ヲ大蔵大臣ニ上申シ、併テ主税局長ニ報告セリ

爾來獨リ諸帳簿ノ精査而巴ナリシカ、二十一年三月二十日ニ至リ全般整理ノ功ヲ告ケタリ、其誤謬脱落地処分地々価
修正等ハ其都度大蔵大臣ニ届ケタリシカ、今之ヲ精算セハ乃チ其増反別七千七百二十七反三畝廿一步五合四勺、
地租九千三百三十四錢貳厘ヲ得タリ、而シテ土地台帳モ其未済ノモノ僅カニ二三郡ニ過キス、専ラ淨写中ニアルヲ
以テ不日其整頓ヲ見ルヘキナリ、村界及ヒ各自所有境界ノ紛紜ハ地押視察ト共ニ其処分ヲ了リシカ、尚目下未決ノモ
ノ若アルモ結局次第大蔵省ヘ届出ツヘキノ目的ナリ、茲ニ四月一日事業完結ノ状ヲ具シテ大蔵大臣ニ上申シ、更ニ収
税屬三瓶篤二上京ヲ命シ実地ノ景況ヲ上陳セシメタリ

蓋シ本県ハ改租ノ当時速製ヲ期セシヨリ事多ク粗瀆ニ流レ、境界ノ錯雜遺漏地ノ申告等陸續現出シテ其跡ヲ絶タス調
査上ニ非常ノ困難ヲ來セリ、而シテ其実地ヲ踏査スルヤ事ヲ苟モセス百方規画之カ処理ヲ為シ、遂ニ整頓ノ好蹟ヲ奏
スルヲ得ルハ人民部ノ奮テ茲ニ從事スルノ効ト言フト雖トモ、抑又整理委員ノ能ク事ニ耐忍シ沐雨櫛風辛ヲ凌キ酸ヲ
嘗メ提撕勸誘ノ致ス所ト云フヘキナリ、而シテ其事業ハ明治十八年六月ニ起リ同二十一年三月ニ至リ、前後四年ノ星

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

整理委員
委員人等

土地台帳整理委員 十八年二月廿八日大藏卿訓示ニ拠テ定メラレタル者ニテ、普通検税ト其趣ヲ異ニシ臨時特別ノ事務ニ屬スルモノトス、其訓示ニ曰ク

改租ノ事業整頓以來、開墾荒地々目交換等ノ事故ニ由リ実地検査ノ儀ヲ請求セルモノ、外ハ、絶テ一体ノ実地検査ヲ為スナカリシヨリ、自然在来ノ帳簿図面ト実地ノ齟齬スルモノ尠カラサルヤノ聞ヘアリ、然ルニ客年当省第八十九号ヲ以テ相違シ候帳簿用式中ニ示ス土地台帳ノ如キ、毎町村毎地ノ地目反別地価地租等ヲ明カナラシムルモノニシテ、固ヨリ必要欠ク可ラサルモノニ有之、今此帳簿ヲ編製スルニ当リ只在来ノ帳簿ニノミ憑拠シテ謄写スルトキハ、或ハ実地ト齟齬セル帳簿ヲ後年ニ伝フルノ虞アル而已ナラス、若シ他日其齟齬ヲ發覺スルトキハ、仮令事ノ有心ニ出テサルモ処分免レサル義ニ有之候ニ付、此際適宜期限ヲ定メ、毎町村ニ於テ在来ノ帳簿図面ニ対照シ一応実地ノ取調ヲナサシメ、以テ事實相違ノ有無ヲ申告候様管内ニ諭達シ、予テ犯則ニ陥ル等ノ不幸ナカラシムル様致スヘシ、然ルモ此該事業ヲ申告セス不都合ト認ムル場合ニ於テハ、臨時ニ收税官吏ヲ派遣シテ地押検査ヲナサシメ、以テ地租改正ノ成蹟ヲ鞏固ニシ、且ツ将来実地ト帳簿トニ齟齬錯乱ナカラシムル様致スヘシ

該委員ハ専ラ台帳ノ整理ヲ担当シ、郡長戸長ニ説明スルヲ初トシ、人民ノ申告ニ係ル土地ヲ検査スル者ナレハ、事業ノ竣功スル迄ハ收税課ノ内通常事務ニ従事スル課員ニ就キ適任ヲ選ミ、該委員ニ兼任セシメサル可ラス、是ヲ以テ十八年十月十八日此旨ヲ主税局長ヨリ協議セラレタルニ拠リ、收税長心得ハ委曲ヲ主税局第二部長ヘ申牒セリ、要スル

ニ右ノ事業タル實際ノ取調ヲ充分精密ニ為サ、レハ到底満足ナル結果ヲ視ル能ハス、故ニ予メ能ク実地ノ演習ヲ為シ置キ、追テ検税科員ヨリモ兼務セシメ一郡区毎ニ一名宛ノ割ヲ以テ派遣シ、郡区委員等ト共ニ監督セシムル目的ニ出テ、先ツ左記ノ收税課ヲ整理委員ニ命ジ、且ツ参考ニ供スヘキ手続達等ヲ添付シ之ヲ主税局長ニ申報セリ

收税課	青木錠一	收税課	林 通
收税課	鹿又則隆	收税課	三瓶 篤
收税課	芳賀昌治		

十八年十月三十一日、実地地押順序ヲ郡区町村ニ違セシニ拠リ、左ノ内達ヲナシタリ

土地台帳及地図調製ノ義ニ付本日取調順序相違候ニ依リ、内規別紙ノ通相定メ候条、此旨及内達候也
(別紙) 内規

第一款 実地取調及土地台帳野取圖ヲ調製スル為メ、收税課中委員數名ヲ置キ之ニ関スル事務ヲ監督セシムルニ依リ、郡区町村ニ於テ左ノ手続ニ因リ委員ヲ選定スヘシ

- 一 郡区長ハ書記一名御用係以下一名ヲ委員トシ該事務ヲ担任セシムヘシ
 - 二 戸長ハ筆生式名以下四方筆以上ヲ委員トシ該事務ヲ負擔セシムヘシ
 - 三 旅費其他ノ経費ハ成規ニ依リ之ヲ支弁スヘシ
- 第二款 地主総代人ノ選舉ハ左ノ手続ニ從フヘシ

- 一 地主総代人ハ第一類地第二類地ヲ通計シ、式万筆五萬筆以下ノ割合ヲ以テ其町村ノ人員ヲ定ムヘシ
但、六千筆五萬筆以下未滿ノ端數ハ切捨、六千筆五萬筆以下以上ノ端數及ヒ一町村ノ總筆數六千筆五萬筆以下ノ割合ニ滿タサルモノ各三名トス

- 二 総代人ハ日当金貳拾錢以内ヲ給与スヘシ
- 三 総代人ノ日当及ヒ地押ニ關スル諸費ノ支弁ハ、各地主ノ協議ヲ以テ之ヲ定メ区戸長ノ認可ヲ受ケシムヘシ
但、便宜ノ為メ区戸長ニ於テ其費額ヲ定メ、又ハ其支弁ヲ掌ラレンコトヲ願出ルモノアルトキハ之ヲ關届クルニ妨ケナシ

第三款 実地ノ取調ハ左ノ手續ニ拠ルヘシ

- 一 実地ノ取調ハ收税課委員ヲ派遣シ、郡区委員ト俱ニ其郡区内便宜ノ地ニ各町村ノ総代人ヲ招集シテ、地押等ノ演習ヲ為サシムヘシ
 - 二 総代人実地ノ取調中地押ハ三名ヲ一組（内一人ハ地押ノ人ハ野取回トシテ一日貳百筆ヲ度トシ、日數ハ凡ソ二百二十日以内トス）
 - 三 実地取調ノ基本ニ供スル簿冊ハ郡区委員之ヲ管理贈与セシムヘシ
 - 四 前項ノ筆料及ヒ計算料ハ二千筆（其取調原簿本若シテ四部ハ二百筆、其取調原簿本若シテ五部ハ二百筆）ニ付金壹圓五拾錢以内トス
 - 五 簿冊ノ用紙ハ小判美濃ヲ横折トシ、半枚ニ三筆ツ、ヲ記載スルモノトス
 - 六 郡区委員ハ隨時臨檢シ、町村委員ハ常ニ監視シテ、苟モ疎略ノ弊ナカラシムルヘシ
- 第四款 台帳及ヒ地圖ノ調製ハ左ノ手續ニ拠ルヘシ
- 一 台帳及地圖ノ調製ハ郡区委員之ヲ管理スヘシ
 - 二 台帳及地圖ノ用紙ハ收税課委員之ヲ管理スヘシ
 - 三 台帳ノ筆料ハ千筆（其取調原簿本若シテ四部ハ八百筆、其取調原簿本若シテ五部ハ八百筆）ニ付金壹圓五拾錢、計算料ハ貳千筆（其取調原簿本若シテ四部ハ八百筆、其取調原簿本若シテ五部ハ八百筆）ニ付金壹圓五拾錢以内トス
 - 四 地圖ノ筆料ハ千五百筆（其取調原簿本若シテ四部ハ千五百筆、其取調原簿本若シテ五部ハ千五百筆）ニ付金貳圓、校合料ハ五千筆ニ付金壹圓七拾錢以内トス

- 五 台帳ハ凡ソ貳百筆ヲ以テ一冊トナシ、其製本費ハ百冊四圓以内トス
 - 六 薪炭其他ノ雜費壹万筆ニ付金貳圓以内トス
 - 七 台帳繪圖調製費中筆料計算校合ノ日給ハ地方税、其他ノ雜費ハ地主ヨリ支弁スヘシ
- 第五款 遺漏地或ハ無願開墾地及無届地目交換地等帳簿圖面ト齟齬スルモノヲ発見スルトキハ、左ノ手續ニ依リ速ニ訂正ヲ請願セシムヘシ

- 一 遺漏地ハ其地盤ヲ丈量シ四境判明ナル地圖ヲ添へ、隣地主連署ノ上編入ノ義ヲ出願セシムルモノトス
- 二 無願開墾地及無届地目交換ハ其地盤ノ丈量圖ヲ製シ、明治十七年申第三十五号布達開墾地々價修正取調書及ヒ地目交換地價修正取調書式ニ依ヒ、近傍領地ノ土地比準シタル該地ノ見込地價取調書ヲ製シ、地圖ト共ニ差出サシムルモノトス

- 三 反別ハ丈量ヲ為スニ及ハスト雖トモ、其地ニ依リ甚シキ差違アリト思惟スルモノハ特ニ丈量シ、該地ノ圖面ヲ添付シ訂正方ヲ出願セシムヘシ
- 四 改租ノ後地主ノ便宜ニ依リ畦畔ヲ廢設シ、本地反別ノ増減ヲ申出テサルモノアルトキハ之ヲ丈量シ、其反別地價ノ訂正ヲ出願セシムヘシ

- 五 脱落地及合筆等ノ番号ノ狂ヲ生スルモノハ、更ニ訂正ノ手續ヲ為サシムヘシ
但、地券台帳ハ朱字ニテ之ヲ訂正シ、地券ハ漸次之ヲ訂正セシムヘシ

同年十二月、又整理委員ニ訓令シテ曰ク

土地台帳ヲ調製スルハ全國一斉ニ舉行スルノ事業ニシテ、地盤ノ経界ヲ正シ種目ノ紊乱ヲ防ギ租額ノ正当ヲ保チ、以テ地租改正ノ成績ヲ鞏固ナラシムルニアリ、苟モ事ニ此ニ從フ者宜シク其旨趣ヲ了得シ、一意協力以テ其成功ヲ

期セサル可ラス、茲ニ実施ノ方法順序ニ付其要領ヲ摘ミ訓令スル、左ノ如シ

第一 帳簿調製ニヨリ実地取調ニ付テハ、郡区長及郡区委員戸長同役場委員ト協議シ、地主総代人ニ趣旨ノアル所ヲ懇篤説示シ、専ラ総代人ヲシテ実地取調ハ地主自身ノ利益ナルコトヲ会得セシメ、自ラ奮テ之ニ従事スルニ至ラシムルコトヲ務ムヘシ

第二 戸長役場委員及地主総代人等ヲ招集スルトキハ、先ツ其招集セシ趣旨ヲ弁明スルハ勿論、地押調査ノ点ニ至テハ可成冗ラ省キ簡ニ就キ、苟モ浪費等無之様懇諭スヘシ

第三 地主総代等ノ取調疎漏ナルヨリ再調ヲ要スル場合ニ至テハ、人民徒ラニ費用ヲ抛ツノ憾アルヲ以テ、勉メテ取調ヲ精密ニシ再調ノ憂ヲキ様予テ注意セシムヘシ

第四 実地取調及ヒ帳簿調製ノコトタル素ヨリ至重ノ事件ナレハ、取扱上区々ニ出サランコトヲ要スルヲ以テ、若シ実施ノ際疑義ニ涉ルモノハ総テ收税長ノ指揮ヲ受ケ、苟モ専断行ノ為スヘカラス

第五 郡村巡回中ハ一層注意、自家ノ品行ヲ正シ勸精職務ニ従事スヘキハ勿論、戸長以下総代人等ノ所為ヲ觀察シ、苟モ怠慢ノ弊ナカランコトヲ要スヘシ

地押事業ハ漸ク一般着手ノ運ヒニ至リ、整理委員モ東西奔走シ斡旋尽力セシモ、僅少ノ人員ヲ以テ数多ノ事業ヲ督スル能ハス、實際増置ノ要セサル可ラサルニ付、尚左記ノ人名へ委員ヲ命ジ、十九年一月之ヲ主税官長ニ通知ス

收税属	河村好世	同	万城目盛泰
	石森市八郎	同	山崎 郷美
	浅井元齡	同	山田莊一郎
	別所巳七郎	同	帘 豊三郎

整理委員ハ各郡区部内ヲ一組トシ委員二名ヲ派遣セシカ、十九年五月六月ノ交ニ至リテハ郡村ノ調査モ大ニ歩ヲ進メ、或ハ実地ノ視察等ヲ申請スルアリ、或ハ開墾地及ヒ地目変換等ノ検査ニ着手スルアリテ尤モ繁煩ヲ究メ、独リ判任官而已ニテハ人員ノ欠乏ヲ告ケ、其配置方充分ナラサルニヨリ、更ニ助手トシテ備員四名ヲ派遣シ随從巡回セシムルノ計画ヲ執リ、六月八日之ヲ大蔵大臣ニ上申セシニ、同月十七日上申ノ趣キ聞キ置レタリ、而シテ本庁委員ノ事業ヲ督励スル、左記ノ内規範圍ニ於テ運動シ鞠躬尽力シテ其勞ニ當レリ

取調委員内規

第一条 地租ニ関スル帳簿調製ニ膺リ実地取調ニ付テハ、当務委員ハ郡長及郡役所委員戸長同役場委員ト協議、地主総代人ヲシテ実地取調ハ地主自身ノ利益ナルコトヲ會得セシメ、自ラ奮テ之ニ従事スルニ至ラシメンコトヲ要ス

第二条 当務委員ハ常ニ巡回ノ際戸長以下総代人ノ所為ヲ觀察シ、苟モ怠慢ノ弊ナカランコトヲ要ス

第三条 戸長役場委員及地主総代人等ヲ招集スルトキハ、先ツ其招集セシ趣旨ヲ弁明シ、地押調査ノ点ニ至テハ可成冗ラ省キ簡ニ就キ、苟モ浪費等無之様懇篤説諭シ置クヘシ

第四条 地押調査ハ地盤ノ現況ヲ正スニアリ、故ニ総代人ハ各町村在来地価帳及ヒ字限り繪圖面ト実地下対照シ、以テ相違ノ廉アルトキハ帳簿上該當ノ箇所ニ其事由ヲ適宜付録シ置キ、漸次地券台帳ニ照合シ其地主ヲシテ更ニ精密ノ取調ヲ為サシムルモノトス

第五条 地主ニ於テ前条取調ヲ了セシトキハ其取調書ヲ総代人ニ出シ、総代人ハ之ヲ得テ再度其正否ヲ檢シ戸長ノ

是認ヲ受ケ、成規ニ從ヒ之カ開申手續ヲ為サシムルモノトス

第六條 總代人實地ニ臨ムトキハ一人ハ帳簿ト取札ト照合シ、老人ハ總圖面ト實地現形ノ如何ヲ對照セシムルモノトス

第七條 町村ニ於テ實地相違ノ廉ナキヲ以テ、強テ地押ヲ要セサル旨戸長及惣代人ヨリ申立ルトキハ、其相違ナシト認メタル事由ヲ糺シ、保証ヲ徵シ之ニ意見ヲ具ヘ收稅長ノ指揮ヲ乞フヘシ

第八條 委員ハ實地臨檢ヲ要セスト雖トモ、徒ラニ苦情ヲ唱ヘ實地取調ノ手續ヲ為サ、ルカ、又ハ不当ノ所為アリト視認スルトキハ、郡役所以下委員ト共ニ懇篤説諭シ、尚之ニ服從セサルトキハ其実況ヲ詳具シ收稅長ノ指揮ヲ乞フヘシ

第九條 地主惣代人等ノ取調疎漏ヨリ再調ヲ要スル場合ニ至テハ、人民ニ於テ徒ラニ費用ヲ抛ツノ憾アルヲ以テ、勉テ初度ノ取調ヲ精密ニ為シ再調ノ要ナキ様ヲ注意ナサシムルモノトス

第十條 實地取調及帳簿調製ノコトタル素ヨリ至重ノ事件ナレハ、取扱上区々ニ出テサランコトヲ要スルヲ以テ、右ニ關スル答弁等ハ口頭ニ付セス可成書面ヲ以テスルモノトス

第十一條 委員限リ応答セシ事件ニシテ取扱上一般ニ關係ヲ有スルモノハ、其要領ヲ詳記シ收稅長ヘ報告スヘシ

第十二條 取扱上疑義ニ涉ルモノハ總テ收稅長ノ指揮ヲ受ケ、苟モ專断行爲ス可ラス

同年六月戸叶主税官屬官三名ヲ隨ヒ來県ス、依テ其施行ノ順序方法ヲ提供セシニ、同官ヨリ特ニ民有地第一類ヨリ第二類地成ノ如キ、検査上慎重ヲ加フヘキ事項ノ要點ヲ示サ、ルヲ以テ、各検査員ヲ本庁ニ招集シ参照上必要ナル事件ニ付キ其指示ヲ乞ヒ、且ツ近傍ニ於テ實地ノ臨視ヲ受ケ地押視察及ヒ異動地検査ノ演習ヲ為セリ、爾後石川大蔵屬内ニ駐在シ監督ノ事業ヲ兼撰セシニヨリ、各検査員モ亦毎事之下謀リ大ニ事務ノ方針ヲ得タリ、蓋シ本県検査員ノ地

押視察及ヒ異動地等ノ検査方略ニ至テハ、之ヲ同主税官ノ薫陶ニ出テタリト云フモ亦敢テ不可ナカルヘシ、是ノ時ニ当テ地押事業ハ頗ル好果ヲ得、半ハ成功ニ至ル者アリト雖トモ、或ハ速成ニ失シ或ハ粗漏ニ流レ聊カ不完全ノ憾ナキヲ免レス、同主税官モ深ク茲ニ注意セラレ之カ為メニ協議ヲ遂ケラレ、且ツ後來ノ方略ヲモ演述セラル、而シテ收稅長モ亦演述シテ曰ク

土地検査ノ義ニ就テハ一昨日戸叶主税官ヨリ詳細ナル演説アリ、昨日ハ又名取郡飯野坂村ト前田村トニ於テ諸君ト共ニ實地ノ演習ヲ執行シ、殊ニ主税官ヨリ協議ノ手續ハ之ヲ審キ綴リ諸君ニ頒布スヘキ筈ナレハ、検査ノ順序ニ於テ一屬ノ好方便ヲ得ルモノト謂フヘシ、依テハ尚此手續ニ準拠シ人民ヨリ差出シタル書類ノ調査實地ノ丈量帳簿ノ仕上迄、諸君ヲシテ身自ラ之ニ當ラシメ、實際検査ニ從事スルノ難易ヲモ試ミ、且其取扱上各郡同一ニ辨セシムルヲ要スルカ為メ、明日ヨリ一兩日ヲ費シテ黒川郡富谷村ニ出張シ、其近傍村ニ於テ更ニ實地ノ演習ヲ為スヘキ見込ナレハ、今後検査ニ從事スル諸君ハ之レニ依リテ方針ヲ定メ、從來ノ内規及訓令ノ趣ヲ忽諸ニ付スルナク、此上十分ノ注意ト十分ノ尽力ヲ以テ成功ヲ奏セラレンコトヲ希望スルナリ、抑今般ノ事業タル昨年十一月柴田郡小山田村ニ於テ實地ノ演習ヲ試ミシヨリ、今年今日マテ月ヲ關スル凡ソハタヒ、其間諸君力敵寒ヲ置シ酷熱ヲ凌キ、説示ニ監督ニ検査ニ夙夜孜孜職務ニ鞅掌セラレシヨリ、人民ニ屬スル地押ノ事業ハ大抵其取調ヲ畢リ検査モ亦二三郡ヲアテ、最初頗ル困難ナルヘシト予想セシ事柄モ意外ニ捗リタルハ、蓋シ各郡村委員總代等カ協心戮力ノ結果ナルヘシト雖トモ、要スルニ諸君ノ櫛風沐雨ノ勞ヲ厭ハス、東馳西奔指圖誘掖其宜ヲ得タルノ功ニ備セサルヲ得ス、然ルニ愛ニ諸君ニ向テ其勞苦ヲ謝スルト共ニ、聊カ不幸ナル事実ヲ陳述シ、特ニ將來ノ注意ヲ請ハサル可ラサルモノアルニ至レルハ、小官ノ甚々遺憾トスル処ナリ、何ソヤ、過日小官ハ戸叶主税官ト共ニ五六郡ヲ巡回シ、沿道六七ノ村落ニ就キ實地ノ検査ヲ視察シ、且ツ同官ノ監督ヲ受ケタルニ、二三郡ニ於テハ間然スル所ナカリシモ、他ノ二三郡

ニ於テハ聊カ不完全ノ憾ナキ能ハス、特ニ志田玉造郡ニ至テハ人民ニ属スル取調ハ稍整頓ヲ見ル可キモ、検査員ノ職務ニ属スル諸般ノ手續甚疎漏ヲ極メ、第一ニ注意スヘキ地価査定ノ成蹟ナク、異動地ノ地価地租ニ總計ヲ付セス、為メニ地租ノ増減ヲ見ルニ由ナク、其他丈量ノ差違計算ノ誤謬等不都合ノ点少カラス、遂ニ再ヒ主任ヲ換テ審査ノ勞ヲ取ラシメサルヲ得サルノ不幸ニ際セリ、蓋シ如此不都合ノ結果ヲ見ルニ至リタルモノハ、要スルニ小官カ指揮監督ノ行届カサル次第ニテ、其實免レ難キ所ナリト雖トモ、推シテ之ヲ論スレハ元是規則方法ノ不完備ナルニアラス、畢竟該郡ノ担任者カ專業ノ速成ヲ希圖スルノ余リ、予テ示シ置タル内規則示ノ手續ヲ踏マス、当然為スヘキノ手致ヲ怠リタルヨリ起レル始末ニシテ、之ヲ極言スレハ担任者カ自家ノ職掌ヲ尽サ、ルノ致ス所ト謂ハサルヲ得ス、併シナカラ此等タル最早既往ニ属シ今更致シ方ナキ訳ナレトモ、此後再ヒ簡様ノ不都合ナルコトヲ生セシメタランニハ、政府ニ向テ恐縮ナルノミナラス、人民ニ對シテモ信用ヲ失スルノ嫌アルヲ以テ、宜シク注意ヲ慎重ニシ決シテ検査ノ疎漏ニ流レサル様、自今一層ノ尽力ヲ請ハサル可ラサルナリ

今般戸叶主税官ト協議ノ手續ハ随分綿密ニシテ、所謂検査ノ手引草トモ可申程ノモノナレトモ、是マテ本県於テ定メタル所ノ規則及内規則令ノ旨趣ニハ抵触スルノ廉モナク、只其手續ノ改マリタルハ、是マテ村民ヨリ地押ノ整頓ヲ告ケ係員ノ検査ヲ乞ハル、トキハ、検査員ノ都合ヲ以テ追々検査ニ着手スルノ順序ナリシカ、右ニテハ自然村民ノ書類ニ不完備ノ点アルヲ其儘検査スル等ノ恐アルニヨリ、人民ニ属スル書類ハ一旦之ヲ県庁ニ差出サセ、小官自ラ之ヲ審査シ大体不可ナシト認ムルモノハ、其注意ヲ要スル所ニ付鑑シテ之ヲ検査員ニ回付シ、然ル後検査ニ従事セシムルコトニ改メタルナレトモ、是又實際履行上ニ於テ或ハ監督員ヲ出張セシメ、代理審査セシムルコトモアルヘシト思惟スルナリ

茲ニ検査員ト監督員ノ義ニ付御心得マテ一言致シ置クヘキコトアリテハ、此地租ノ検査ノミナラス諸税ノ検査トニ於テモ同然ノコトナルガ、元來検査員ト監督員トハ服務規程ニ於テ各自職權ノ区分モ明カナルコトナレトモ、實際甚ク混同シ易ク、或ル県々ノ実況ヲ聞クニ、検査員ノ事務ニ熟セサルモノ多キ県ニ於テハ、監督員ヲ以テ専ラ教授役ノ如ク心得、之ニ反シテ検査員ノ事務ニ慣レタルモノ多キ県ニ於テハ、監督員ヲ以テ無用ノ長物ノ如ク心得、甚タ之ヲ嫌惡スルニ至リ、監督員モ亦或場合ニ於テ検査員ヲ幼稚視シ全ク自分ノ子弟ノ如ク取扱ヒ、又或ル場合ニハ私事上ニサイ立入テ其小疵ヲ指摘スルヲ勉メ、恰モ幕政ノ時ノ目付役ノ如ク心得ルヨリ、其間種々ノ弊害ヲ見ルニ至ルモノ往々之レアルトノコトナリ、本県ニ於テハ幸ニ未タ其弊害ヲ生セサル今日ヨリ之ヲ防制シ置カサレハ、不知不識其弊ニ陥ルナキヲ保シ難シ、小官ノ考フル所ニテハ検査員ノ良否如何ニ拘ラス、監督員ハ必要欠クヘカサルモノト信スルナリ、何ントナレハ検査員ハ規則章程内規等既定ノ手續ニヨリ事務ヲ執行スルモノナリ、更ニ語ヲ換テ之ヲ言ヘハ、之ヲ執行スル人ト之ヲ執行セシムル人トノ區別アルモノト云フヘシ、故ニ検査員ニシテ万般其規律ニヨリ事務ヲ履行シ聊カ間然スルコトナキトキハ、監督員ハ只其成績ヲ復命スルニ止マリ、其無事ニ苦シムノ觀ヲ呈スルナラン、若又之レニ反シ検査員ニシテ規律ヲ守ラス或ハ規則ヲ悞認シ、又或ハ其當然為スヘキ手續ヲ斥サ、ル等ノ事アルトキハ、監督員ハ一々規則ニ照シテ之ヲ改正セシムル場合モアルヘク、又或場合ニ於テハ各區ノ氣脈ヲ通スル伝令使ノ如キ事モアルヘシ、如此子細ニ説キ來レハ検査員ト云ヒ監督員ト云ヒ各其職掌判然トシテ混セス、將來ト雖トモ今日ト雖トモ俱ニ必要ノ職任ト云ハサル可ラス、諸君ハ此旨趣ヲ諒セラレ、各其職掌ヲ守リ勉メテ田沼二事務ヲ履行セラル、コトヲ希望スルナリ、然ルニ目今ノ処ニテハ此監査ノ事務ハ吉田青木ノ兩收稅屬ヲシテ之ニ當ラシメタルモ、特ニ土地検査ノ事務ヲ青木收稅屬ノ受持トセリ、然レトモ小官モ時々出張スヘク、佐伯御用係モ亦出張セシムルコトアルヘシ、併シナカラ此僅々一兩名ノミヲ以テ管内一般ニ奉行スル土地ノ検査ヲ監督スルハ、勢十分三行届クヘキニアラスト信スルヲ以テ、今般戸叶主税官ニ隨ヒ來県セル石川大藏屬カ本県駐在ノ

間ハ、本務ノ外總監督事務ヲモ兼撰スルコトヲ委託シ、同氏ニ於テモ之ヲ承諾セラレタレハ、或ル場合ニ於テハ監督員ノ資格ヲ帯ヒテ巡回スヘキニヨリ、諸君モ亦此意ヲ了得シ諸事隔意ナク協議セラレヨ

扱前頭段々陳述スルカ如ク、検査上ノ方法順序モ一定シ、加フルニ実地ノ演習ヲモ試ミタル上ハ、諸君力其職任ヲ尽サル、ニ於テ十分ノ便宜ヲ得タルコトハ、小官ノ僭シテ疑ハサル所ナリ、況ンヤ此迄ハ諸君力本務外尚人民部ノ取調マテニ立入り、殆ント之レカ教授役ノ姿ニテ諸事斡旋力セラレタルモ、最早今日ノ運ニテハ人民部ノ製圖ト地押ハ大抵了ノ場合ニ至リタレハ、單純ナル検査ニ從事スルハ決シテ諸君ノ難トスル所ニ非ルヘシ、希クハ諸君爾後一層奮勵十全無欠ノ功ヲ奏シ、官民ノ幸福ヲ享受スルノ好結果ヲ見ルアランコトヲ、今ヤ炎熱熾力如ク庁中ノ服務スラ尚困難ナルヲ覺フ、況ンヤ諸君ハ專ラ外部ニ在テ奔走ノ勞ヲ取ラサルヘカラス、其苦想フヘク其勞察スルニ堪ヘタリ、敢テ乞フ、加餐自愛セヨ

十九年七月三十一日、大藏大臣ハ左ノ内訓ヲ下シテ曰ク

十七年当省第八十九号達ニヨリ土地台帳編製ニ付テハ、各町村ヲシテ事實相違ノ有無ヲ申告セシメ、收税官吏ヲシテ其当否ヲ検査セシムヘキ旨、曩ニ訓示及ヒタル所、爾來町村ノ申告ニヨリ之ヲ踏査スルニ、其帳簿実地ト齟齬スルヨリ人民於テ再調査ヲ懇請シ、為メニ其検査ヲ中止スルニ至ルモノ往々有之ヤニ相聞、右ハ町村取調方ノ不都合ナルニ起因スルハ勿論ナリト雖トモ、其如斯ヲ致スモノハ自然今般ノ趣旨未タ徹底セサル義ニハ無之歟、抑帳簿ノ実地ト適合スルヲ要スルモノハ、一ハ收税上重復遺漏ナキヲ期シ、一ハ人民土地所有ノ権理ヲ鞏固ニスルカ為メノ目的ニ出ルモノニシテ、而シテ此際ニ於テ專ラ之力取調ヲナシタルハ、改租ノ成蹙ヲシテ紛乱セシメス、且人民中將來犯則ノモノナキヲ期スルノ旨趣ニ有之、然レトモ此舉ノ如キハ頻年ニ為ス可キニ非ラス、今回ニ於テモ改租以來幾許ノ年所ヲモ経サルニ付、務メテ民力ヲ愛惜スヘキノ時ニ有之ニ付テハ十分ニ其順序ヲ謹シ、官民ノ不注意ヨ

リシテ再三勞費ヲ徒消スルカ如キコト無キヲ要セサル可ラス、然ルニ若屢々其調査ヲ為スカ如キコトアルトキハ、官民共ニ勞費ヲ空フシ実ニ容易ナラサル義ニ有之、就テハ左ノ順序及ヒ其注意ノ如キハ既ニ履行ノ管ニ可有之ト雖トモ、尚又念ノ為メ之ヲ通告セントス、則チ今般ノ順序ハ第一人民ニ対スル論議ヲ懇切ニシ、第二区長戸長ヲシテ今般ノ旨趣ヲ服膺シ且ツ熱心セシメ、第三本旨ノ貫徹ト取調ノ手續ヲ懇示スルタメ收税吏ヲ巡回口諭セシメ、第四實地ニ習熟シテ徒勞ナキヲ要スル為、模範検査ヲナシテ官民從事者ノ參觀ヲナサシムル等、土地ノ実況ニ応シ其宜シキヲ制シ、然ル後人民ノ申告ニ從ヒ検査ヲナサシメ、將タ其検査ヲナスニ付テモ万々精当ト認ムル上ニ於テ着手ヲ為シ、尚又其成功ヲ遂ニセシトテ疎漏ニ涉ルナク、或ハ事務ノ運轉ヲ弛慢ニシテ空シク費用ヲ消スルナク、要スルニ官民ノ費用ヲ節省シ取調上ノ精確ヲ期スル様常ニ之ヲ注意シ、其從事者一般ヘモ之ヲ懇篤示達アラントヲ望ム

然ルニ本県ニ於テハ当初ヨリ深ク此点ニ注意シ、県庁及ヒ郡区役所戸長役場委員等協力一致勉メテ事ノ一途ニ出シテトヲ期シ、必ラス先ツ郡中ニケ村乃至ニケ村其検査ヲ施スニ當リ、郡中毎村ノ惣代人三名乃至四名ヲ現場ニ集合シテ其視察ノ実況ヲ目撃セシメ、又一戸長役場部内ニアリテハ常ニ検査未済ノ村々ヨリ地主或ハ總代ヲ實地ニ臨マシメ、以テ其他日調査順序ノ失当ナカラントヲ注意セシハ、施行上自然該訓示ニ符合シタリキ

抑土地ノ実檢タル、或ハ峻嶺幽沢ヲ跋涉シテ荆棘ニ触レ、深田汚池ヲ踏査シテ泥濘ニ汚ル、ヲ以テ、兎角苟且ニ流ル、ハ人情ノ免レサル所ナリ、今回ノ事業ハ地盤ノ錯乱ヲ整理シ所有主ノ權利等ヲ確メ、其成績ヲシテ鞏固ナラシムル者ニシテ、尋常ノ検査ニ異リ各委員ノ負担タル輕忽ニ非ラス、是ヲ以テ委員タル者モ尤モ茲ニ注意シ其弊ヲ矯正シテ勉勵セルハ多弁ヲ用ヘサルナリ、聊カ其服務ノ一斑ヲ舉レハ、皆輕裝行膝ヲ着ケ草鞋ヲ穿チ、晨ニ八星ヲ戴テ出テ尽日郊野ヲ奔走シテ検査ニ從事シ、夕ニ八月ヲ踏テ帰リ帳簿ノ檢閲ヲ勤メ或ハ鷓鳴ニ達スルアリ、夜ヲ以テ晷ニ続キ辛ヲ

凌キ酸ヲ忍ビ、炎熱ニ喘キ寒冽ニ凍ヘ奮テ事ニ從ヒ唯事業ノ完結ヲ希望スルニ外ナキナリ、殊ニ數十年間結テ解ケサ
リシ所ノ論地、即チ所有權ノ争鬭或ハ村界郡界等ノ紛議ニ屬セシ者ハ、郡區長及ヒ戸長等ニ協同一致周旋以テ行政上
円滑ニ之カ処分ヲ為セシ如キハ、實ニ地押上ヨリ生スル成蹟ニシテ各委員ノ力預リテ大ナリトス
二十年三月三日收稅長上京、同會議ニ於テ地押檢了後ノ手續腹案ヲ定ムル、左ノ如シ

地押檢了後手續腹案

- 一 二十年度土地整理結了ヲ計ルニ付テハ、實地検査ハ十月前後ヲ期シ必ラス完結スルヲ要ス
- 一 收稅部ニ於テハ予メ検査結了ノ後、賦除租ノ表式ヲ賦除又ヘキ各務省ニ從ヒ五分別地籍地籍簿租檢定別地籍簿ヲ記入スヘキモノ備ヘ、検査員ヨリ報道ノ時ニ之ヲ記入シ、検査済否ヲ詳明ニシ伺書ヲ整理スルノ基トスヘシ
- 一 賦稅ノ書類ハ一郡又ハ一地方檢了次第知事ヨリ大藏省ニ進達シ、二十年度ヨリ施行スルモノトナシ、允可ヲ受ケ置クヲ便ナリトス
- 一 地方庁ニ於テハ允許ノコトヲ郡衙ヘ伝達シ、又ハ其意味ヲ示シ地券書換等ノタメ帳簿等整理ノ手續ニ着手スヘキモノトス

但、申告地ハ大藏省令第一号第二十条第十條ノ範圍外トス

- 一 前條ノ手順ニ付十一月頃ヨリハ府縣郡區町村帳簿ノ整理ヲ告グルニ際スヘキニ付、漸次地券書換ニ着手スヘキモノトス
- 一 本年(二十年度、以下皆同シ)檢了スヘキモノハ本年度ヨリ賦除租ノ手續ヲナスヘキモノトス
- 一 賦除租ニ關スル何屆或ハ郡區限ノ區別ヲナスヘキ管ナレトモ、本屆届ニ限り省略シ總計ヲ以テスルモ妨ケナシトス

一 本年度ニ檢了シ能ハサル地方ト雖トモ、來年度ニ於テハ精々手續ヲ為シ本順序ノ如ク整理シ、必ラス完結スルヲ要ス

地押事業ノ手續タル、当初本縣委員ハ主稅官ノ教示ト收稅長ノ誘導トニ拠リ、予メ其方法ノ詳細ヲ知悉セリト雖トモ、
郡村委員ニ至テハ之ヲ弁知スル者甚々尠シ、是ヲ以テ各委員ハ先ツ郡村ヲ巡視シ實地ニ就キ勸誘提撕以テ其順序ヲ教
示シ且ツ当否ヲ觀察ノ、ニヒ圖面ノ調製ヨリ野帳ノ記載ニ至ルマテ詳細ニ其方法ヲ説明シ、専ラ郡村委員ノ教授ヲ為
セリ、郡吏ハ旨ヲ承テ每々其郡内ヲ奔走シ、村吏ヲ訓導シ總代人ヲ督促シ審テ他ノ先鞭ヲ着ンコトヲ力メタリ、村吏
モ亦其部内ヲ周旋奨励スルノ状猶郡吏ノ村吏ニ於ルカ如ク、相率テ協心戮力實地ニ從事シ唯勉倦マス、遂ニ數多ノ日
子ヲ重テ是大事業ノ成功ヲ奏スルニ至レリ

整理委員ノ服務ハ茲ニ其終リヲ告ルヲ以テ、又各村々ノ實況ヲ摘記セント欲ス、各村ハ其地形ノ広狹筆數ノ多寡ニ因
リ適宜數名ノ總代人ヲ選定シ、圖村ノ事ハ製圖ヨリ地押異動地丈量等ニ至ルマテ一切筆テ之ヲ總代人ニ負担セシメ、
而シテ其出費ハ總テ地主ノ支弁ニ歸セリ、且ツ其委託ヲ確メンカ為メ總代人ト地主ノ際ニ於テ左ノ誓約書ヲ作り互ニ
記名調印セリ(誓約書田ノ爲メ戸長ニ送付
セル書式ハ後章ノ節ニ記載)

誓約書

今般當村地主一同ニ於テ總代人ヲ定メ、實地取調ニ關スル百般ノ事業ヲ委託候ニ付テハ、總代人ハ地主一同ニ代リ
公平至當ノ調理ヲナスヘキハ勿論ノ義ニ付、潭テ總代人ノ公平ト視認シタル事件ハ地主一同ニ於テモ異議アル可ラ
ス、尤モ右ニ係ル諸費ハ地主ニ於テ負担スヘシ、依テ總代人及ヒ地主一同記名捺印ノ上茲ニ誓約ヲ証スル者也

宮城縣何郡何町村

地主

地主總代人

- 何ノ誰
- 何ノ誰
- 何ノ誰
- 何ノ誰
- 何ノ誰
- 何ノ誰

總代人ハ地主ノ委託ヲ空フセンコトヲ恐レ、互ニ協同一致シテ事務ニ勉勵シ、自ラ家事ヲ抛テ東馳西奔敢テ他ヲ顧ミルニ邊アラズ、而シテ其報酬ノ如キ僅カ十五錢二十錢ノ日當ニ過キスト雖トモ、皆此事業ヲ以テ自己ノ義務ト做シ決シテ倦怠ノ色ヲ見サズ、或ハ毫モ他ノ報酬ヲ受ケス自費ヲ抛テ日夜之ニ従事スル者アリ、又僻郷窮蹙其人ニ乏シキノ地ニ至テハ他村ヨリ事務熟練ノ者ヲ雇入ル、アリ、或ハ總代人ノ外助手等ヲ増員スルアリテ統フテ其成功ヲ熱望セリ、而シテ其竣功ノ期ニ至テ多少ノ遲速アルハ、土地ノ險易ト降雷ノ障礙等ニ原因スト雖トモ、又聊カ總代人ノ勉否ト改租ノ調査ニ精粗アルトニ基ク者ナラン歟

地図

地租改正ノ事業タル未嘗有ノ美華タルハ論ヲ俟タスト雖トモ、或ハ經驗ナキノ手ヲ以テ咄嗟ニ其完了ヲ促カセシヨリ、土地ノ錯乱甚タ多ク隨テ地圖ノ如キモ自然粗漏ノ調製ヲ免レス、今之ヲ繕閱スルニ字繪圖ハ勿論一村繪圖ト雖トモ大

抵牾上ノ考案ニシテ、實地ニ齟齬シ絶テ信憑ト為スニ足ラス、然リト雖トモ之ヲ再製スルトキハ巨額ノ費用ヲ要スル而已ナラス、又數年ノ日子ヲ重ヌヘキヲ以テ曩キニ大藏省ノ諮問ニ對シテハ漸次更正ノ事ヲ回答セリ、然リ而シテ尚ホ之ヲ再考スルニ、若シ地圖ニシテ實地ニ適セス支離曖昧ナルトキハ、假令台帳ノ整理ヲ完全スルモ數年ヲ出スシテ又錯雜ヲ來スノ恐ナシトセス、是ニ由テ之ヲ編レハ幾多ノ日子ヲ費ヤシ僅少ノ費額ヲ抛ツモ、此實地地押ノ際ニ於テ又猶豫スヘキニ非ラスト、更ニ往日ノ意見ヲ翻シ先ツ製圖ヲ以テ地押事業ノ第一着トセリ

十八年十一月柴田郡小山田村ニ於テ始メテ地押ノ演習ヲ為セシニ、其當時見取圖ヲ以テ實地ヲ踏査セシカ、地盤ノ大小境界ノ屈曲等齟齬スル者多ク、殊ニ畦畔密接ノ所ニ至テハ頗ル錯雜ヲ究メ、又改租ノ繪圖ト同一轍ニ帰スルノ恐ナキヲ保セス、県庁於テモ分間圖ノ精確ナルヲ望ミ頻リニ勸諭セシカ、其成功ノ遲延ト費額ノ増加トヲ以テ之ヲ厭フノ狀況ナリキ、仍テ先ツ簡便ナル測器即チ板分間法ヲ用ヘ方位ヲ正シ六百分一ノ縮圖ヲ調製セシメタリシニ、其方法見取圖ニ比セハ稍々手數ト費用トヲ重ヌト雖トモ、調製ニ及ンテハ能ク實地ニ適合シ明晰確實錯雜ノ恐ナク、其效蹟決シテ見取圖ノ比ニ非ラス、茲ニ於テ各村總代人モ其方法便益ニシテ且精細アルヲ知り、競フテ之ニ倣ヒ十個乃至十五個ノ測器ヲ製シ勉メテ事ニ茲ニ從ヘリ、是ヲ以テ村々到ル処數十箇ノ標旗ヲ見サルコトナク大ニ事業ノ面目ヲ見ハセリ、当初ニアツテハ各總代人モ未タ經驗ナキヲ以テ一日百筆乃至貳百筆ノ耕地ヲ縮圖スル能ハサリシカ、遂日其業ニ熟達シ一日四百筆内外ノ圖面ヲ容易ニ製スルニ至レリ、而シテ独リ峻嶺幽谷ハ其疆域斷崖絶岳ニ跨リ測器ヲ携帶シテ跋渉スル能ハス、單ニ一筆ノ境界ヲ査定シ見取圖ヲ製スル而已、字限リ繪圖ヲ調製スルヤ境界ノ他村ニ接スル地ハ必ラス其總代人ノ立会ヲ要シ勸メテ謹重ヲ加ヘリ、故ニ從來ヨリ紛擾ヲ醸成スル者ヲ除クノ外ハ總テ其境界ニ障礙ヲ生スルヲ見ス、毎村々既ニ字限リ圖ノ調製ヲ了リ隨テ地押ニ着手スルニ、遺漏重複其他地盤ノ異動セシ者甲乙其位置ヲ誤ラス一々指點スルヲ得タル、蓋シ今回ノ事業ニ於テ見取圖ヲ廢シ分間法ヲ用ユルハ、費額ノ点ニ至テ多少ノ影響ヲ

及ボスモ其竣功ニ好蹟ヲ顯ハスハ実ニ尠少ニ非ルナリ、若シ此圖ヲ基本ト為シ台帳ヲ編製シ之カ加除ヲ怠ラサレハ、數十年ノ後ト雖トモ錯雜紊亂ノ憂ナカラン歟

夫レ地圖ハ山川ノ形勢ヲ察シ地盤ノ広狭ヲ明カニスル者ニシテ、地籍上欠クヘカラサルノ要典ナリ、各郡村ニ於テ改租ノ當時調製セル地圖アリト雖トモ、其方法或ハ簡略ニ失シ今日ニ至テハ信憑ト為スニ足ラス、是地圖調製ノ已ヲ得サル所以ナリ、然リ而シテ地押事業ハ専ラ耕地ノ紊亂ヲ整理スル者ニシテ、独リ字限り地圖ニ注意シ其每一村全圖ハ措テ之ヲ顧ミサリキ、然ルニ字限り地圖ハ一方ニ偏局スル而已ナラス一村或ハ數十葉ノ多キニ至リ、甲乙字圖ノ接続甚タ混雜シテ每全村ノ形勢ヲシテ一目ノ下ニ瞭然セシムル能ハス、地籍上又遺憾ナシト為ス、是ニ於テ字繪圖ヲ集合シテ六千分ニ縮寫シ各村全圖ヲ調製シ、延テ一郡ノ全圖ニ及ヘリ、而シテ原来分間ノ字繪圖ナレハ郡圖ニ至テモ頗ル精細ニシテ一モ方位境界等ヲ誤ラス、尤モ確實ノモノヲ得タリ、是皆實地踏査ノ結果ニシテ独リ地盤ノ錯亂ヲ整理スル耳ニ非ラス、其後來ニ便益ヲ遺スハ蓋シ疑フ可ラサルナリ

十九年三月十日收稅長ヨリ土地台帳整理委員ニ訓示セル取扱手續中其繪圖ニ關スル事項ヲ摘録スル、左ノ如シ

繪圖

第二十一 荒地ノ内川又ハ河原成等ニテ旧地形ヲ失シタルモノ、繪圖ハ、川又ハ河原成ノ現形ヲ寫シ之ニ旧地目番号ヲ付シ繼クヘシ

第二十二 繪圖面ニハ方位并ニ字内ノ溝渠湖沼川沢道路等ノ名称及接続地ノ字(他村ニ接スル地ハ其村名)ヲ付記セシムヘシ

但、神社仏閣碑石或ハ巨石大木ノ類ニシテ境界等ノ目標トナルヘキモノハ勉メテ之ヲ付記スヘシ

第二十三 繪圖面ハ左ノ彩色ヲ用ユベシ

朱色 道路地目及ヒ一筆内ノ畦畔

藍色 河海池溝渠ノ類

黄色 堤防

前二項ノ外ハ繪テ墨色ヲ施スヘシ

第二十四 繪圖面調製ノ上ハ野取セシ年月日及其姓名并調製人ノ姓名ヲ記シ之ニ捺印セシムヘシ

野帳

野帳ハ土地台帳編製ノ基礎ニシテ地種地目ヲ分別シ所有主ヲ確定スル者ナレハ、之ヲ精密ニ為サ、ル可ラス、若シ一旦漏瀾ニ涉リ誤謬脱落アルトキハ、實地ノ調査ヲ緻密ニスルモ其事業或ハ画餅ニ属セン、況ンヤ台帳編製後ニ至リ脱落誤謬等ヲ発見スルニ於テヲヤ、蓋シ改租ノ當時ニアリテハ名寄帳ト一村反別地価合計帳ヲ製シタレトモ、普通ノ地価帳ハ調製セサリキ、而シテ名寄帳モ改租ノ後交換ノ訂正ヲ怠リ補助簿ノ類ヲ製シ徵租ヲ弁セシカ、一筆限リノ地番号等ナク、又一村普通ノ反別ヲ了知スル能ハス、是ヲ以テ止ヲ得ヌ郡區備置ノ地券台帳ヲ謄寫シ遺回取調ノ基本ト為セリ、其調製ハ實地踏査ニ先タチ直ニ旧帳ヲ謄寫スルヲ以テ不知不識粗瀾ニ涉ルヲ恐レ、其調査ニ慎重ヲ加ヘ左ノ手續ヲ定メ二十年三月四日收稅長ヨリ各郡區ヘ通知セリ

地押野帳調査手續

- 一 野帳ノ一筆限ヲ地券台帳ニ再照合ノ上更ニ地租金ヲ算出シ、而シテ後計算ヲ為スモノトス
- 一 地主ノ住所ハ姓名ノ肩ニ記載(住所ノモ)スルヲ式トストレトモ、往々姓名ノミアリテ住所ノ記載ナキモノアリ、因テ地

券台帳ニ野帳ヲ照合スルノ際ハ住所ノ記入有無ニ注意スル者トス

一 野帳ノ原簿^{即チ}ハ自カラ十九年現在地租台帳ト同一ノ額ニ帰セサルヲ得ス、故ニ計算済ノ上ハ各地目限り該帳簿ニ対照シ符合セサル廉アルトキハ、其事由ヲ確カメタル上調査増減ヲ付スルモノトス

但、整理後鉄道線路等ノ潰地ヲ生シ容易ニ其訂正ヲナシ難キモノハ、台帳編纂ノ後沿革ニテ訂正スルモノトス、故ニ野帳ヲ引直サ、ルトキハ該増減ヲ算面上ニテ加除シ地租台帳ニ対照スルモノトス

一 荒地開墾地ハ年期限ノ区分ヲ要スルモノナレハ、一筆限り其年季ヲ記載スヘキ勿論ナルニ、往々記載ナキ為開墾地ノ如キハ純然タル山野ニ均シク其反別ヲ失スルモノアリ、依テ荒地開墾地共一村ノ総額ヲ年期限リ確メ置キ、一筆限計算シ之ニ当ルヲ以テ確實ノ調トナスモノトス

一 野帳ノ字町村計ニ付スル調査増減ハ異動地事故帳ヨリ騰載シ、而シテ其一筆限計算シ騰写スル処ノ員額当ルヲ以テ確實ナルモノトス

但シ分合筆ノ為メ増減ヲ生シタルモノハ一筆限計算セシモノヲ字町村計ニ記載スルモノトス

野帳ノ様式ハ美濃紙ニツ折ニシテ一枚ニ六筆ヲ記載シ、字限りノ計ヲ付シタルモノナリ、其調製タル概ネ郡役所ニ於テ十人乃至二十余人ノ筆耕ヲ雇ヒ地券台帳ヨリ騰写セシメ、側ラ之方照合計算ヲ為シ、而シテ郡吏常ニ之ヲ監督ス、柴田郡ハ郡長自ラ之ヲ試ミ其騰写ノ程度ヲ定メ、乃チ平均一人一日ノ課程ヲ百筆ト為シ、其筆耕賃金拾五銭乃至貳拾銭トス、或ハ郡ニ因リ一筆ノ賃金ヲ金五毛ト定メ騰写筆數ニ応シテ賃金ヲ給セシモアリテ各自一定ナラス、然レトモ照合計算ニ至テハ筆數ノ多カランコトヲ欲シ、調査ノ粗漏ニ流ル、ヲ恐レ皆日給ヲ以テ雇入レタリ、特リ遠田郡ハ各村々ヨリ各自総代人ヲ出シ郡衙ニ於テ之ヲ騰写セシメタリ、又伊具郡ハ名寄帳ノ古紙ヲ以テ野帳用紙ニ換用セリ、野帳用紙ハ総テ騰写ノ勞ヲ省カシカメ反別地価地租ノ文字其他毎筆普通ノ文字ハ予テ印刷ニ付シタレハ、騰写上大ニ

其勞ヲ省キタリキ、既ニ野帳ノ調製ヲ了レハ隨テ地押ヲ為シ分合筆其他地目地盤ニ異動アレハ朱書ヲ以テ悉皆訂正シ、更ニ精算シテ尚合計ヲ訂正シ土地台帳編纂ノ材料ト為セリ

事故帳ハ地目交換開墾地遺漏地ヲ調査スル者ニシテ、乃チ野帳ノ補助簿ナリ、元來地押於テ発見セル異動地ハ別ニ一筆限りノ帳簿ヲ要セス、總テ野帳ニ拠リ調査スルノ手續ニシテ其発見セル異動地ハ前行ニモ記載スル如ク野帳面該筆ヲ塗削シ、傍ラ現地目反別地価地租及比準地番号反金等ヲ朱書シ、脱落地ハ其実況ニ応シ甲筆ト乙筆トノ間ニ異動地朱書ノ例ニ準シテ之ヲ記入シ、而シテ帳尾ニ調査増減ト差引現計トヲ記載スルノ順序ナリ、然ルニ本県管轄ノ内從來所為ノ郡村ハ田畑一枚ヲ一筆トナシ、畝未滿ノ地夥多ナルニヨリ今回之ヲ適宜合筆セルヲ以テ野帳へ合筆ノ事由ヲ記シ、而シテ又其余白ニ異動地脱落地等ヲ混記スルトキハ繁雜又言フ可ラス、是ヲ以テ異動地等ハ野帳面ニハ其事由ヲ略記シ更ニ帳簿ヲ調製シ之ヲ類別シテ事故帳ト為ス

地押及視察

明治十八年六月、目賀田主税官來県ノ節各郡ヲ巡回シ地押ノ旨趣ヲ演述ス、其大意ニ曰ク

抑地租改正ノ事業タルヤ全国地租ノ平均ヲ得ラレタルモノニシテ、未曾有ノ美譽タルハ論ヲ俟タスト雖トモ、今日ヨリ其成跡ヲ見レハ數年ノ久シキ土地ノ錯乱甚タ多ク、試ミニ一戸長役場ニ就キ調査スルトキハ或ハ整理ノ向モナシトセサルモ、若シ全国ヲ通シテ之ヲ總覽スルトキハ無慮幾万ヲ以テ數フヘシ、然ルニ今回土地台帳ノ調査タル旧帳簿ヨリ騰写セシ迄ニテハ徒ラニ紙ヲ換タルニ止リ、却テ誤謬ヲ將來ニ伝フルノ恐アリ、是實地ヲ踏査スルノ止リ得サルニ出ルモノナリ

土地ノ錯乱ハ改租ノ際緩慢ニ処理セシヨリ生スルニ外ナラスト雖トモ、尚其原因アリ、何ソヤ、地租改正条例ハ毎五ヶ年ノ改正スルノ明文アレハ十二年ニハ改正アルヘキノ所、都合ニヨリ十八年迄延期セラレタリ、人民ハ土地ノ

交換等其際ニ改正相成ルヘキモノト固信シ、官モ亦深く注意セサルカ如キ慣行ニ成リ来シナリ、爾後地租條例ノ發令アリテ地租ノ改正ハ地目ノ交換等ニ止マリ、一般ノ改正ハ容易ニ施行セラレサルノ成規トナレリ、依テ土地錯雜ノ訂正ヲ此際ニ施行セザレハ殆ント其期ナキカ如シ、尤モ無願開墾無届交換ノ如キハ罰令モ設ケラレタレハ、此際凡テ訂正シ正確ナル台帳ノ調製アルヘシ

前条ノ如クナルヲ以テ、今般達セラレタル土地台帳調製ニ先テ、適宜期限ヲ定メ毎村字限り地押ノ方法ヲ以テ土地ヲ調査シ、遺漏重複又ハ地目無届交換地等ハ夫々罰令モ發令相成レトモ、前条ニ述フルカ如キ原因ヨリ自然錯亂ノ此ニ至リタル者ナレハ、現今交換等ニ成リタル者ト認メ殊ニ罰則ニ問ハス、処分方ハ罰令ニモ特別ノ施行アルヘク、又調査期限モ罰令ヨリ一般ニ達シアルヘキ旨ナレトモ、今般地租検査上監督トシテ出張ノ序予メ大藏卿ノ令ヲ奉シ、其要点ヲ注意ノ為メ示シ置クナリ

地押ハ所有者ニテ為サシムヘキナレトモ、不手馴ノモノニ於テハ為シ得ヘキニアラサルヲ以テ、兼テ熟練ノ者或ハ三名村内協議ヲ以テ總代ノ如キモノヲ選定シ、其給料ノ如キハ可成薄給トシ専ラ深切ヲ旨トシ、人民モ亦各自ノ為メ此事業ハ為サ、ルヲ得サルモノナリトノ感覺ヲ起サシムル標榜ク毎村人民ハ諭旨アルヘシ

地押ノ調査ハ如何ニモ精密ヲ尽シ再査等ノ違ヲ受ケサル様注意スヘシ、確實ノ調査ニ出タルモノハ官吏ノ検査ヲ要セスシテ落成ヲ奏スルヲ得ヘク、此調査ニ際シテハ收稅官吏ハ勿論郡區書記等ニモ出張調査上間接其周旋ヲ為サシムヘシ

從來本県管轄町村ハ一畔限りノ地券下付セシカ故ニ其筆數數百萬ニシテ、收稅上ヨリ人民相互ノ讓与売買等ニモ手數ノ煩勞不尠ニ付、今般調査ノ際一人ノ所有ニ係ル接続ノ田畑ハ成ルヘク同筆ニ致スヘシ、畦畔反別改租ノ際調査相成ラサル地所ハ漸次調査然ルヘシ

前条ニ述タルカ如ク已ニ地目交換等無届地ヲ發シ之レヲ犯則ニ問ハサルトノ義ハ、法律ニ反シ表面上ニ於テ棄ヨリ示シ難キ次第ナレトモ、又前述ノ事情ニ出テタルモノナレハ、是迄ノ分ヲ罰スルニ至リテハ教サルノ民ヲ罰スルノ嫌ナシトセス、是大藏卿ノ當ニ苦慮セラル、処ニシテ、県令於テモ亦此際ニ限り特別ノ処分法ヲ設ケラルヘシ、云々十八年十月三十一日、實地々押取扱順序ヲ定ムルニ際シ、又耕地合筆ノ事ニ付郡區町村ニ向テ左ノ如ク達セリ

從來田畑一枚ヲ一筆トシ券狀下付有之候処、右ハ取扱上不便不少ニ付、今回地押ノ際接続シテ地位等級ヲ同フシ道路溝渠ニ隔テラレサル土地ハ可成合筆ニ致スヘシ

本県管轄ノ内從來所屬ノ郡村ハ概ネ田畑一枚ヲ一筆トシ官民共ニ無用ノ手續ヲ煩シ来リシカ、今回地押ノ際右ノ違ニ拠リ漸次合筆セシメ大ニ民間ノ希圖ヲ満足セシメタリ、而シテ收稅長心得ハ地押ノ計画ニ就テ彼此処分ヲ了セシコトヲ、主稅局第二部長心得并ニ目賀田主稅官ニ通報セシニ、第二部長心得ノ答書ノ略ニ曰ク

來示承了セリ、然ルニ右ノ内十月三十一日付号外達中前略取扱上不便不少ニ付、今回地押ノ際接続シテ地位等級及ヒ地主ヲ同フシ、道路溝渠ニ隔テラレサル土地ト云フノ意味ニ可有之ト雖トモ、本文ノ儘ニテハ或ハ地目地主ノ異動ヲ問ハサルカ如キ誤解ヲ生スルヤモ知ル可カラサルニ付、其等ノ誤解ナキ様予テ戸長等へ通知可然、云々

收稅長ハ又本庁及郡區委員ニ向テ演述ス、其略ニ曰ク

地押ノ實施順序ハ本年十月三十一日号外達及同日秘第四十一号内達ノ手續ニ照準シ、適宜ニ之ヲ施行シ、専ラ經費ヲ省クヲ勉メ、而シテ該内訓示ノ旨趣ハ地租ノ再改正ナリトノ疑團ヲ人民ノ懷裏ニ生セシムルコトナク、主旨貫徹シテ成績上迄末ノ遺憾ナカラシメ、官民共ニ其幸福ヲ享受センコトヲ實ニ希望シテ措ク能ハサル所ナリ、仍テ取扱上ニ關スル要項ヲ概陳シテ參考ニ供セントス

無願開墾及ヒ無届交換ノ土地取扱ノ事

是等ノ所為ハ地租條例ニ依レハ相当ノ罰ニ処シ、其開墾ニ係ル分ハ増租ヲ追徴スヘキナレトモ、此際ニ限り申出タル其時ヨリ普通開墾又ハ地目交換ノ手続ヲ以テ処分セントス

第一類地ノ第二類地ト為セシヲ取扱方ノ事

地租條例頒布以後ハ第一類地ヲ第二類地ト為スハ相成ラサル例規ナレトモ、左ニ掲クルモノ、如キハ此際ニ限り請願シテ特別ノ許可ヲ受ケントス

- 一 山間ノ沿道ニアル茶店ニシテ新道設置ノ為メ設家屋ヲ毀テ他ニ移転シ、或ハ木挽小屋炭焼小屋又ハ鉱山開掘ノ為メ設ケタル宅地等、其業ヲ廃止シタルニ因リ他ニ移転シ、右宅地跡一類地ニテ保ツ能ハサルモノ
- 二 神社堂宇ノ移転ニ因リ跡地山林又ハ原野トナリシモノ
- 三 山上ノ神社堂宇ノ為メ其近傍ニ宅地ヲ構ヘ營業ヲ為セシモノ、其神社堂宇ノ他ニ移転セシニヨリ該宅地ヲ毀テ他ニ移転シ、右宅地跡一類地ニテ保ツ能ハサルモノ
- 四 小畝歩ノ耕地ニシテ接地ノ樹木繁茂ノ為メ作付ヲ為ス能ハスシテ、現ニ其地ニ樹木茂繁シタルモノ
- 五 川沿ノ耕地等洪水ノ為メ其幾分川欠トナリ、其殘地ニ竹木ヲ植付ケサレハ隣接セル耕地ノ水害ヲ免レサルモノ
- 六 翁座或ハ敷居等ヲ關キ一旦耕地ト為セシモノ、其地味瘠薄ニシテ得失相償ハサルヨリ数年作付セサルカ為メ、現裏山林又ハ原野トナリ大ニ墾勞ヲ加ヘサレハ作付ル能ハサルモノ

地押ノ事

地押ノ事ハ各町村ニ於テ帳簿ト実地ト相違ナキヤ否ヲ調査其旨ヲ申告スヘシ、然ルニ此際町村ノ調査ヲ不充分ト思盤スルトキハ、所ニ官吏ヲ派遣シテ地押検査ヲ為サシメ、無願開墾無屈交換ノ類ヲ発見スルアレハ直チニ告発スル順序ナレトモ、右様処置スルトキハ出格ノ詮議ヲ首尾相全カラサルノ憾アリ、然リトテ其事固ヨリ忽諸ニ付スヘキ

ニ非レハ、其申告ノ際篤ト調査シ不都合ト認ムルモノハ再調再々調ヲモ命シ秋毫差違ナキニ至テ止ムヘキ歟、是亦地主ヲシテ巨多ノ勞費ヲ消糜セシメ、且其感情ヲ損事務調理上不都合ナカラサルヲ以テ、各町村ニ於テ實地ノ取調ニ着手スルノ始メヨリ、各地帳簿繪圖ト實地ト照査シテ精密ニ地押ヲナサシメ、再調ヲ命スルニ至ラシメサルコトヲ勉メントス、抑本県ノ如キハ地租改正ノ實施最モ早カリシヲ以テ調査不完備ノ点尠カラス、現ニ地券交付以來頻リニ遺漏誤脱ヲ発見スルヲ以テ之ヲ証スヘシ、故ニ該改正ノ際備調査精密ナルコトヲ得、且爾來地籍上格別ノ變動ナキ部分ハ敢テ精密ナル地押ヲナスニ及ハサルカ如クナレトモ、事情簡陳ノ如ク其誤リナキヲ保シ難キニヨリ、此際更ニ精密ナル地押ヲ為スヘキナリ、若シ夫土地ヲ丈量スルニ至テハ其勞費ノ容易ナラサルノミナラス、丈量ハ当初地租改正ノ際確定セシ者ナルカ故、道回ハ之ヲナサ、ル見込ナレトモ、其実多分ノ差違アリテ殆ント地租條例第廿五条ニ該當セントスルモノ、始キハ、此際特ニ丈量シテ其畝歩ヲ正フシ其増歩ニ係ルモノニ対シ地価ノ査定ヲ請求セシムヘキナリ

總代人ヲ置ク事

該町村筆數ノ多寡ニ応ジテ二名以上ノ總代人ヲ選舉シ、道回ノ地押取調ニ關スル一切ノ事務ヲ担当セシム、蓋シシテ有者ヲシテ各自ニ地押ヲナサシムルトキハ、或ハ精粗一ナラス彼此区々ニ渉ルノ懸念アリ、總代人ヲ置クトキハ斯ル不齊整ノ弊ヲ生スルノ患ナシ、且又各自ニ地押ヲナサシムルトキ縦令前述ノ弊ヲ生スルコトナシトスルモ、其費用ハ決シテ一町村一名以上ノ總代人ヲ置キ事務ヲ取り扱ハセタル如ク瑣少ナルヲ得ヘカラス、事務ノ整理ニ便ニシテ而シテ大ニ費用ヲ省クコトヲ得ヘシ、既ニ此ニケノ利益アリ、故ニ予メ總代人ヲ選舉シ置キ地押ニ係ル百般ノコトヲ委託シ、彼是偏頗ニ失セズ正当當ノ取調ヲナシ、違示ノ旨越ニ悖戻セサル様尽力セシムヘキナリ

十八年十一月三日、收税長心得ハ管内各郡村ヲ巡回シ、各戸長ヲ便宜ノ地ニ招集シ実地地押手続方法等ヲ懇諭ス
同年十一月二十一日、收税長心得ハ柴田郡小山田村ニ於テ郡長及郡書記戸長総代人等ヲ会シ実地施行ノ演習ヲ為セシ
ニ、大ニ満足ノ結果ヲ得タリ、尋テ該村戸長ヨリ届出ノ書類及ヒ各郡町村巡回中ノ質疑トヲ摘録シ之ヲ郡区長ニ回付
セリ

客月三十一日付御達シ相成リシ実施取調ノ儀、柴田郡小山田村ニ於テ去ル二十一日実施ノ旨申告ニヨリ乃チ兩日間
実地臨視セシニ、其方法順序等稍便宜ヲ得ル者ト認候条、該戸長ヨリ差出セシ取調手続及ヒ過般各郡町村巡回ノ際
質疑ヲ受ケ応答ノ内要件トヲ摘録シ参照ノ為メ及御回付候也

戸長ヨリ差出セシ地押実施手続

一 野帳ハ郡役所ニ於テ調製交付セラレタリ

但、本文野帳調整中郡役所ノ違^違ニヨリ総代人ヲ差出シ毎地ノ等級ヲ記載セシメタリ

一 総代人ハ地押ニ先チ一字限ノ四境ヲ分間シ、地租改正ノ際定メタル字ノ区域宜シキヲ得ス他年錯雜ノ恐アル場
所ハ組換之ヲ製図セリ

一 前項字ノ区域ヲ組換タル野帳ハ甲乙ヲ那移^移更訂シ、其小計ハ朱書ヲ以テ傍ニ更メ、従前ノ小計モ他日ノ参考ニ
供スルニ妨ケナカラシム

一 地押ヲ為ヌ前日ニ於テ、地主ヲシテ字地番号及地目姓名ヲ記載セル木札ヲ竹ニ挟ミ一筆毎ニ立テシメタリ

一 総代人ハ二人ヲ卷組トナスト雖トモ、一人ハ先ツ一筆限田畑宅地等ノ現状ヲ前ニ製図セシ字繪圖ニ記載シ番号
ヲ書載セシメ、二人ハ野取図及ヒ野帳ヲ実地ニ対照スルモノトス

但、地押ノ際ハ地主銘々立合ハシム

又一筆限板分間ニテ野取図ヲ引キタルモアリ

- 一 開墾地並交換地等ハ便宜ノ為メ地押ニ際シ地主ヨリ口頭ニテ申立サセ、之ヲ丈量シテ野帳ニ登記セシム
- 一 合筆ヲナスモノハ前項ト同シク申立サセ、野帳ニハ縦令ハ一番二三番ノ二筆ヲ合スモノナレハ、二三番ハ一
番ニ合併シ記載シテ点ヲ掛ケ、繪圖ニハ一筆内ノ畦畔ニハ朱ニテ「点ヲ記シ置カシム
- 一 前項合筆等ノ為メ番号ニ差違ヲ生シタルニヨリ、野帳繪圖トモ之ヲ更メタリ
- 一 前数項ノ手続ニヨリ更訂セル野帳并繪圖ハ別紙ニ詳カナレハ贅セス^(別紙ハ略ス)
- 一 総代一組ニテ施業ノ筆数ハ御内達ノ割合ニ選ヒ難キ感アリ、然レトモ野帳ノ計算ヲ他日ニ譲ルトキハ錯雜ノ恐
レアルヲ以テ、夜中ノレヲ為サシム

実地取調順序問答

問 第一条地主総代人ハ如何ナル方法ヲ以テ選定セシムヘキヤ

答 地主中ヨリ互選セシム

問 総代人ハ該村人ヲ選ムヘキ筈ナレトモ、該村ニ適當ノ人ナキ場合ニハ如何スヘキヤ

答 右等場合ニ於テ一組ノ中一名ハ必ラス村中ヨリ選定シ、他ハ他村中ヨリ選定スルモ差支ナシ

問 第三条ニ帳簿ノ訂正ヲナサ、ルモ云々トアリ、右ハ如何ナル帳簿ヲ指シタルモノナルヤ

答 大蔵省ヨリ発セラレタル準則ハ蓋シ地価帳ヲ指サ、レタルナラン、本県ノ所謂ル地券台帳ナリ

問 処分未済ニシテ帳簿ノ訂正ヲ為サ、ルモノニ付箋ヲナスノ手続ハ如何

答 例之ハ地目交換或ハ開墾出願等未済ノ分其県庁ニアルモノハ郡区ニ通知シ、郡区ニアルモノハ戸長役^{戸長役}ニ通知シ、
互ニ協同シテ付箋ノ手続ヲ為スヘシ

問 付箋ハ郡区ニ於テ為スヘキヤ、將タ戸長役場ニ於テ為スヘキヤ

答 戸長役場ナリ

問 第五条中ニ別帳トアルハ如何ナルモノナルヤ

答 別ニ帳簿ノ調製ヲ要スルニ及ハス、則彼ノ野帳ノ余白ヲ記載シ置クヘシ

問 第七条ニ戸長其取調書ヲ調査シ云々トアリ、右ハ如何ナル手續ヲ以テ調査スルヤ

答 戸長ハ実地ヲ点検シテ帳簿ヲ調査シ、若シ不当ノ際アリテ再調セシムルトキハ費用ニ関スルヲ以テ、総テ内規

ニ依テ之ヲ行フモノトス

問 第八条ニ別ニ帳簿ヲ製シ云々トアリ、右ハ如何ナル帳簿ヲ調製スヘキヤ

答 総テ前五条ノ手續ニ同シ

問 但書ノ丈量ハ総代人ヲシテ之ヲ為サシムルトキハ其ノ手續不尠ニ依リ、別ニ適宜ノ方法ヲ設クルモ妨ナキヤ

答 差支ナシ

問 実地ノ取調ハ收税課委員ヲ派遣シ郡区委員ト共ニ演習ヲ為サシムトアリ、右ハ如何ナル場合ニ於テ施行セラ
ルハヤ

答 右ハ実地取調ノ着手ニ先チ、郡内便宜ノ地ヲ選ミ地押取調ノ演習ヲ為サシムルナリ

十九年三月十日、收税長ヨリ地押上ニ付其取扱手續ヲ整理委員ニ訓示ス

野帳并地押

第一 地押ノ際発覚セル数成開墾地ノ外、僅ニ着手セシカ又ハ着手セントスル開墾地ニシテ歳下年期ヲ願出ルモノ
アルトキハ、野帳ハ開墾地ニ取調サセ置キ其他検査等ノ手續ハ地目交換ト同一ニ取計フヘシ

但、検査ノ際無年期開墾地ハ之ヲ丈量シ、年期ヲ付与スルモノハ丈量スルニ及ハス

第二 堤防道路敷地等ノ内濱田畑ノ称ヲ以テ地券ヲ所持セシ者ニシテ、還納ヲ請フモノアルトキハ、之ヲ應許スル
ノ目的ヲ以テ野帳ヲ削除セシメ、若シ其主旨ヲ會得セサル者アルトキハ説諭ヲ加ヒ還納セシムル様取計フヘシ

第三 道路ノ開墾堤防ノ修築等ニヨリ潰地トナリタルモ、未タ除税セサル者ハ地押前其反別ヲ取調之ヲ審査シ野帳
ヲ訂正セシムヘシ

第四 地券面ハ生地ニシテ現地既ニ天災ニ罹リ荒地トナリタルモ、未タ免税セサルモノニシテ此際免租年期ヲ請フ
モノアルトキハ、本年ヨリ之ヲ應許スルノ目的ヲ以テ野帳ヲ訂正シ、検査等ハ他ノ手續ニヨルヘシ

第五 旧磐井県所属玉造郡外三郡ハ大抵合併村ナルヲ以テ、旧村名ヲ大字トシ乃チ新設ノ村ニシテ、玉造郡大崎村
ナレハ字伏見新田又ハ名生河原ト地券等ニ記載シ来リシ分、今回地押ノ際旧村名ヲ廃シ単ニ字新田又ハ河原トノ
ミナシ度旨申出ルモノアルモ、如此ハ普通字ト異ナルモノナレハ従来ノ通り据置クヘシ

第六 遺産相続セシモ目下尚地券ノ書換ヲ願出サルモノハ速ニ代替書換ヲ願出サシメ、野帳等ハ跡相続人ノ名前ニ
取調ヘ置キ、地券ハ地押終了ノ後之ヲ下付スルモ苦シカラズ

但、地押ノ際合筆又ハ分裂ヲナサントスルモノハ、願出ノ節之ヲ合筆分裂セシムヘシ

第七 田畑ヲ道路堤防等ノ土取場ニ組替ヲ申出ルモノアルモ、民有地ニ種ニ土取場ノ名称アラサレハ、現場ヲ検査
シ已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ第二類地ノ雜種地ニ組込ムヘシ

第八 飛地ノ組替ハ過般完了セシモ万一遺漏アルトキハ其所在ノ地ニ組替、野帳更正ノ上地押ニ着手セシムヘシ
但、本文ノ場合ニ於テハ速ニ其事由ヲ申報スヘシ

第九 改租ノ後畦畔ヲ除却シテ本地トナシタルモノハ、其畦畔跡ノミ丈量セシムヘシ

第十一 一筆ノ地ニシテ枚数ヲ合セタルモノハ何番ノ内一二三ノ符合ヲ用ニ畝札ヲ立テシムヘシ

第十二 開墾并荒地ニシテ本年期明ノ分ハ地押着手前検査ヲ終了シ、然ル後予野帳ヲ訂正セシムヘシ

第十三 地押トヨリ発見シタル地目交換及無願開墾地ノ如キハ、特ニ一筆限ノ調製ヲ要セス野帳ヲ以テ之ヲ代用シ、

一村ヲ総計シ普通ノ手続ニ依リ地価査定方ヲ出願セシムヘシ

第十四 第一類地ヨリ第二類地ニ交換スルモノハ一筆限リ其事由ヲ詳記シ出願セシムヘシ

第十五 民有地ニ敷在セル官地ハ野帳ハ番号及反別、繪圖ハ番号ノミヲ取調フヘシ

第十六 地租賦課手続第四条ノ畦畔ニシテ元ト一枚ノ田ナルモ、自然土地ニ高低ヲ生シ水保ノ悪キヨリ止ヲ得スニ一枚ノ田トナスモノアリ、如此ノ所ハ其畦畔歩数ヲ取調ヘ之ヲ本地反別ヨリ除却スヘシ

但、同第五条第壹項ニ当ルトキハ此限リニアラス

第十七 畦畔ノ広クシテ桑樹等ヲ植栽シタル者、往々他ノ畦畔ト境界ヲ乱リ後來遺漏地ヲ生スルノ原ナレハ、此際村内協議ノ上畦畔ノ所屬ヲ別ケ其歩数ヲ取調サセ、之ヲ券面外書ニナスヘシ

第十八 用材山ノ内、杉檜等ノ伐採跡ハ一二年ノ間苗木ノ成育ヲ保ツカ為メ蕎麥又ハ粟稗ヲ作付スルモノアリ、此等ハ一時ノ作タルニ由リ耕地ト為スヲ得ス

検査

第十九 野帳ニ記載スル一筆限リノ地位等級ハ地押終了ノ後記載セシムヘシ

第二十 一村ノ地押完結ノ上ハ先ツ帳簿ヲ檢閲シ、而シテ実地ニ就キ誤謬地等ヲ検査シ及一字若クハ二字ヲ点檢セシ後、更ニ帳簿ヲ精査ノ上、戸長ヲシテ有租地一覽表及荒地開墾一覽表ヲ調製シテ進達セシムヘシ

第二十一 一村地押完結点檢済ノ上ハ別紙表式ニヨリ其実況ヲ収税長ニ報告スヘシ

繪圖

第廿一 荒地ノ内川又ハ河原成等ニテ旧地形ヲ失シタルモノ、繪圖ハ、川又ハ河原成ノ現形ヲ写シ之ニ旧地目番号ヲ付シ置クヘシ

第廿二 繪圖面ニハ方位并ニ字内ノ溝渠湖沼川沢道路等ノ名称及接続地ノ字他村ニ接スル地ハ此ノ村名ヲ付記セシムヘシ但、神社仏閣碑石或ハ巨石大木ノ類ニシテ境界等ノ目標トナルヘキモノハ勉メテ之ヲ付記スヘシ

第廿三 繪圖面ハ左ノ彩色ヲ用ユヘシ

朱色 道路地目及ヒ一筆内ノ畦畔

藍色 海河池沼溝渠ノ類

黄色 堤防

前三項ノ外ハ総テ墨色ヲ施スヘシ

第廿四 繪圖面調製ノ上ハ、野取セシ年月日及其姓名并調製人ノ姓名ヲ記シ之ニ捺印セシムヘシ

(別紙書式)

何郡何村地押実況

位置 東ハ海ニ面シ南ハ国道ヲ限リ何村ニ境シ、西ハ何山ニ沿ヒ何村ニ境シ、北ハ何河ヲ經テ何村ニ隣ス、云々

広袤 東西何里西北何里

戸数 何戸

本庁距離 何里

字數 員數

筆數	同上
地押着手 年月日	何年何月何日
同上整理	同上
同上従	同上
筆日數	幾日
經費	何程
同上筆 平均筆數	何程
總代人	何人
同上助	何人
手人員	何人
總姓名	何某
視察名	某名

前項列記ノ外必要ト認ムル事件ハ遺漏ナク記載スヘシ

爾來各郡ニ於テモ競フテ罷勉シ、十九年四月ニ至テハ漸次完結ヲ告ケ陸續申告セシニ拠リ、其成贖ヲ点檢センカ為メ左記ノ手續ヲ定メ、同月十日收稅長ヨリ之ヲ各郡區長ニ通牒シ、併テ各整理委員ニ頒布ス

地押視察手續

- 一 地押完了ノ上ハ左ノ手續ニ依リ点檢ヲナスヘシ
- 二 視察ノ節ハ總代人及ヒ郡區町村委員ヲ立会ハシムヘシ
- 三 視察ハ左ノ標準ニ從ヒ之ヲ行フヘシ

- 一 村三千筆以下 二字
- 一 村三千筆以上 三字
- 一 村一万筆以上 四字
- 一 村二万筆以上 五字
- 四 地押ニ當リ發見シタル地目交換開墾地及遺漏重複等ノ地ハ、地租檢査ノ方法ニ依リ之ヲ檢査スヘシ
- 五 視察ハ野帳ノ整備加納整理
及金註等ヲ俟チテ舉行スヘシト雖トモ、便宜ニ依リ其整備ヲ俟タス之ヲ為スモ妨ケンナシ
但、此場合ニ於テハ地目交換等事故アル地ハ野帳ニ認印ヲナシオキ、其整備ニ際シ紛乱ナキ様注意スヘシ
- 六 視察ニ際シ地圖及野帳ノ実地ト齟齬アルヲ發見スルトキハ、再調ヲ命シ尚ホ他ノ字ヲ点檢スヘシ
- 七 前項他字ヲ視察シテ尚齟齬アルヲ認ムルトキハ、全村ヲ挙テ視察スヘシ

地押ハ取扱手續及取調順序等ノ範圍ニアリテ調査スト雖トモ、実地ヲ踏査スル又秩序ヲ履マサルヲ得ス、今其概略ヲ記述センニ、毎村地形ノ広狭ト筆數ノ多寡トニ依リテ一村三名以上ノ總代人ヲ選定シ之ニ從事セシメ、其実地ニ就ク一組必ラス三人ヲ要シ、一名ハ地圖ヲ取り一名ハ野帳ヲ携ヘ、他ノ一名ハ畝札ヲ読ミ上ケルヲ以テ其規ト為ス、而シテ其実查ハ先ツ地圖ヲ手ニスルモノノ圖面記載スル所ノ旧番ヲ以テ何番ト呼ハ、畝札ヲ見ル者直ニ之ニ和シ番号及字地目反別持主ノ姓名ヲ読ミ上ケ、終リテ野帳ヲ取ルモノ復タ字番号地目反別持主ノ姓名ヲ喚フ、是ニ於テ彙キノ地圖ヲ手ニスルモノノ繪圖面ト実地トヲ对照シ異動ナキトキハ可ト喚フ、若シ異動アルトキハ總代人毎ニ携フル所ノ旧野帳即改租ニ用ヘタルモノ、或ハ旧藩政ニ於テ用ヘタル檢地帳及當時製セシ地圖ニ依リ其差異ヲ正フセリ、尤モ実地畝札ノ建違ヒ等ヨリ困難ヲ来スコトアレハ、是等ハ当初ニ於テ宜シク注意ヲ要セシナリ、事故地即地目交換遺漏地開墾地等ニ至リテハ、地盤ヲ丈量シ丈量ノ筆
三筆以上近隣地ノ比準等ヲモ詳細ニ精査シ、漸次如此ニシテ全字ノ地押ヲ完了セリ、而シテ

一村ノ地押ト共ニ異動地ノ調査ヲ終ルヤ、直ニ戸長役場委員并ニ戸長等自ラ之ヲ内視シ、不都合ナキニ於テ始メテ検査ヲ申出ルアリ、即チ柴田・刈田郡ノ如キ是ナリ、又戸長等ノ内視ヲ要セス人民部ノ事業ノ成就スルヤ否直ニ検査ヲ申告スル者アリ、即チ志田・玉造其他八九郡皆然リトス、而シテ右等ノ通報ヲ得ルヤ整理委員ハ申告ノ前後ヲ以テ検査ノ順序ヲ定メ、若シ同時ナルトキハ着手ノ前後ニ因レリ、視察ノ字ハ内規ニ定ムル如ク三千筆以下ハ二字、三千筆以上ハ三字、一万筆以上ハ五字ト検査員ノ見ル所ヲ以テ之ヲ指定ス、其指定スル一隅ニ偏セス、水田ヲ東部ニ遷定セハ陸田ヲ西部ニ、宅地ヲ中央ニ山林原野ヲ南部ニ、田畑宅地山林原野混合ノモノヲ北部ト云フカ如シ、而シテ実地ヲ踏査スル或ハ初メヨリシ或ハ終ヨリシ或ハ中央ヨリシ、人民部ノ事業ニ対シ前後左右ヨリ攻撃ヲ試ミ其成績ヲ固クセリ、茲ニ聊カ其視察ノ概略ヲ述ンシ、先ツ視察スヘキ字ノ周圍ニハ紅白ノ小旗ヲ結ヒタル測標又ハ目標トナルヘキ木竹等ヲ建テ字境ヲ分明ナラシメ、而シテ検査員二名、一名ハ繪圖面ヲ取り一名ハ野帳ヲ携ヘ、總代人及人夫等之レニ付隨シ、丈量器ヲ持ツモノ野帳ヲ探ルモノ、事故帳ヲ携フルモノ、畝札ヲ視ルモノ、質義ニ答フヘキモノ、各之ヲ部分シ其担当ヲ定ム、是ニ於テ検査員旧番号ニ依リ先ツ旧番番ト唱フレハ、畝札ニ付隨スルモノ直ニ之ニ和シ番号地目反別持主ノ姓名ヲ喚フコト最初地押ノ時ニ同シ、而シテ野帳ヲ取ルノ検査員ハ右畝札記載ノ番号地目反別姓名ト異動ナキトキハ、其確實ヲ証スル為メ更帳簿ニ向テ番号地目反別姓名ヲ読ミ上ルコト初ノ如シ、此時地圖ヲ取ル検査員ハ実地ト地圖トヲ対照シ、野帳ニ読ミ上ル所ノ反別ト其広狭及地目ヲ比較シ差異ナキニ至テ始テ可ト稱ス、更ニ旧式番ト喚フ、又畝札ヲ読ミ上ル等前陳ト順序ヲ同フシ、如此視察ヲ為シ実地ヲ踏査シ地形及屈曲方仕長矩耕地ノ縦横等渾テ繪圖面ニ対照シ、差違アル者ハ微細ト雖トモ措サス尽ク之カ訂正ヲ命セリ、此事タル大ニ各村總代人ヲシテ官ノ精査周密ナルコト其如此、儼シ我々ノ調査ニシテ其実ヲ得ル能ハサレハ地押ノ事業モ遂ニ其竣功ヲ見ルノ期ナカラン、須ラク明確精緻ノ取調ヲ為サ、ル可ラストノ感情ヲ惹キ起サシメタリ、是ヲ以テ各村總代人皆思ヲ勞シ力ヲ尽シテ事

ニ此ニ從ヘタリ

視察ノ順序ハ前行ノ手續ニヨリ其適否ヲ調査スルヲ以テ、事業上稍遺憾ナキノ成績ヲ与ヘタリト雖トモ、元來限リアルノ委員ニシテ数多ノ視察ヲ為スニ因リ一ニ瑕疵アルヲ免レサルナリ、志田・玉造ノ兩郡ハ最モ先鞭ヲ着ケ地押ヲ完結セシカ、戸叶主税官臨監ノ際該郡ニ於テ一ニ瑕疵ヲ発見シ、為メニ更審査協議セラレタリ、其事項左ノ如シ

志田・玉造兩郡ハ既ニ一巡ノ検査ヲ経タリト云フト雖トモ、已ニ其書類ヲ檢閱スルニ脱落地開墾地地目交換及ヒ一類ヨリ二類ニ交換地等ノ一筆限リ取調帳ニ元反別ヲ朱記スルノミナラス、元地価元地租ヲ記入セス、隨テ總計モ異動地現反別ノミヲ記シ検査済ト稱スルモ地租増減若干ナルヲ知ルニ由ナシ、又人民部ノ丈量宅地ニシテ三斜法ノ圖ヲ画キタルモノ比々アリ、或ハ実地ノ形状ニ対シ縦横ノ斜線間繩ノ適セサルカタメニ著シキ増減ヲ生セシカト認メラル、モノアリ、或ハ分筆地目交換ニシテ残地ヲ丈量セサルモノアリ、或ハ田畑ノ宅地ニ交換シテ著シク反別ノ減セシモノアリ、是等ノ地ヲ丈量検査セス、又一類地ヨリ二類地ニ交換セント申立ルモノ往々之アリ、其内改租以前ヨリノ山林等ニテ實際不得止モノアリト云フト雖トモ、或ハ畑地ヲ用材山林竹林原野等ニ交換ト申立シモ、其実況如何ヲ詳悉セシ成蹟ナシ、又地価ノ比準ハ人民ノ申立ル処ヲ圖面上ニテ推測スルトキハ、遠隔ナル低価ノ地ニ比準セシヲ漫ニ其申立ニ依拠セシモノト認メラル、モノ稀ニアリ、又宅地ヲ分筆地目交換ニ申立スシテ其儘檢了セシモノアリ、又丈量検査野帳ハ現場於テ算出セシマテニシテ精算ヲナサス一々計算及登記ノ誤謬ヲ発見ス、然ルニ検査主任ハ転任セント云フヲ以テ随伴セシ職員ニ尋問スレトモ頗末ハ明ナラス、丈量検査地価及交換許否査定共信ヲ置ク能ハス、地押ニ至リテハ圖面帳簿其他ノ書類ニ就キ考按スルニ、人民部ノ調ニ不都合ナク検査員ハ実地ニ幾分ヲ視察セシモノト見ス、必竟検査員ハ地押視察ノ一点ニ傾向シ主トシテ地面帳簿ハ實際ノ現地目トヲ照合シ脱落重複ノ有無ニ注目シ、丈量検査交換ノ許否勘按等ハ粗瀆ニ流レ、地価ノ查按ハ耕宅地山野共ニ地位等級一村内僅々ノ

等差アルノミナレハ一応看過シ置キ、後日席上ノ計算ニテ定ムヘシト臆慮シ等閑ニ付セシヨリ此不都合ヲ見ルニ至レリ、故ニ今更ニ審査ノ事項ヲ協議スル左ノ如シ

- 一 地租ノ事務ニ熟練ナルモノ或名ヲ選ミ新ニ審査セシムルコト
- 一 帳簿記入マ了セサル廉ハ先ツ一々記入セシメテ後審査スルコト
- 一 実地ニ臨ム以前村民ニ対シ、一類地ヲ二類地トナス不相成制規ナリ、今回特別ノ取扱ヲナシ得ヘキモノト云トモ、其場合ニヨリ再三調査ノ後ニアラサレハ許可ヲ決シ難シ、故ニ猶審査スルノ主旨及ヒ丈量下調図面上不完全ナルモノモアリ、又宅地分裂交換ハ切リニ許可セラレ難キモノナレハ、二類地交換請求審査ノ傍右ノ実地ヲモ調査スル趣ヲ懇篤論告スルコト
- 一 実地ニ臨ミテハ予メ席上ニテ精査ヲ要スト思考セシモノハ勿論、其他地押ノ精否及異動地ノ調査当否ニモ注目スヘキコト

- 一 一類地ヨリ二類地ニ交換ヲ請求スルモノ、内、樹竹等ヲ種付稍畑ニ異ナラサル収利アルヘキト視認ムルモノ、及其収利ハ推測シ難キモ普通耕作ナシ得ヘキ地ヲ地主ノ都合ニヨリ仕用ヲ交換セシト視認ムルモ、或ハ耕地一筆ノ内一小部分樹竹發生スルモノ、類ハ説論ノ上願止ヲセシメ、若シ従前ニ服セサルモノアレハ其事実ヲ詳細復命セシメ、又改租以前ヨリノ山林ニシテ誤謬ニ係ルカ或ハ改租ノ際実地ニナスヘキ目的ヲ、山林原野ニ宅地ノ地券ヲ受ケ其後目的ヲ達スル能ハサル事故アルモノ、其他曾テ本県ニテ決定セル取扱方法第二項ノ種類ハ、其事実ヲ推究シテ二類地ニ交換ノ見込ヲ立詳細復命セシムル事
- 一 人民部ノ丈量図面上不都合ノ箇所ハ、実地ニ就キ取調ノ上全ク図面ニ同シキ時ハ一々検査ヲナシテ之ヲ更正セシムルコト

- 一 分筆ノ交換ニシテ残地ヲ丈量セサリシモノハ一々検査スルコト
 - 一 畑ノ宅地ニ交換シテ著シク歩数ノ減スルモノ、如キハ、更ニ丈量ヲ検査シ弥減歩ナルニ於テハ隣地毎筆ノ広狭及ヒ境界ノ變更ナキヤ否ヲ審査シ、減歩事由ヲ判明ナラシムルコト
 - 一 宅地分裂交換等全ク實際不都合ニ付更正セシムルコト、地価ノ比準当ヲ失スルモノハ説論ヲ加ヘ更正セシムルコト
 - 一 一村審査ヲ了スル毎ニ脱落地及異動地ノ確實反別地租地価査案額ヲ精算集計スルコト
- 右ノ外詳細ノ節目ハ猶協議ノ上定ムヘシ
- 但シ両郡ノ外既ニ檢了ノ部分ヲモ篤ト取調、両郡ノ検査ト同様ナルモノハ渾テ御協議ニ準拠スヘシ
- 右ノ協議ヲ得タルニ依リ更ニ精密ナル調査ヲ遂ゲシメタリシニ、元來前調査ハ苟且粗濶ニ流レタルカ為メニ生シタルノ瑕疵ニアラスシテ、偶然ノ過誤ニ出テタルモノナルヲ以テ復他ニ不良ノ結果ヲ見サリシナリ

異動地

異動地乃チ開墾地交換地脱落地ノ如キハ今回ノ事業中尤モ慎重ヲ要スル者ニシテ、精細ノ調査ヲ為サ、ル可ラサルハ論ヲ俟タス、苟モ其順序ヲ尺サス漫リニ之ヲ是認スルトキハ、又地盤ノ錯雜ヲ来タシ到底土地台帳ノ整理ハ望ムヘカラサルナリ、今其経歴ノ梗概ヲ叙述セシニ、十八年十二月八日主税局第二部長ヨリ收税長ニ照会アリ、曰ク

先般大蔵卿訓示ニヨリ人民ノ申告ヲ以テ土地検査御着手ノ期限其他電報ヲ以テ及御問合、直ニ御報道可有之候所、其後數旬經過候ニ付自然實際ノ運涉上ニ於テ遲速モ可有之、就テハ愈人民ヨリ申告ニ遺漏ナキ旨申出、交換地其他土地ノ丈量地価修正等ノ検査ニ何月頃ヨリ御着手可相成哉、又着手ヨリ凡ソ幾日間ニテ檢了可相成哉、其辺概略

ノ御見込更ニ御報道相成度、尤モ御管下中取調ニ遅速アリテ二次或ハ三次ノ検査ヲ要スル候ハ、幾分ハ何月頃幾分ハ何月頃ト相分子右着手期限ト檢了凡日數トヲ承知致度、右ハ来十九年度土地検査取調ノ都合モ有之候ニ付、此段更ニ及御照會、云々

是時ニ当テ地押事業ハ已ニ官城名取玉造志田郡等着手中ナルヲ以テ、調査申告ノ景況ニ抛リ検査ニ從事スヘキノ目的ナリ、然ルニ異動地ノ如キハ柴田郡小山田村寒施臨視ノ成績ヲ徴シ其状ヲ視查スルニ、地盤ノ異動ヲ生セシ者太々多數ヲ占メ、地押終レハ随テ検査ヲ要スル次第ナレトモ、偶々降雪ノ時期ニ際シ十九年四月ヨリ六月マテ、十一月ヨリ十二月マテ各郡役所ノ区域ニ一人ツ、ニテ、即チ全管内十三人ノ検査員ヲ要スル見込ヲ一定シ、十二月廿二日前書ニ回答シ且ツ取調書ヲ添付セリ

一 金千九百五十円

但、十九年四月ヨリ六月迄、十一月ヨリ十二月迄五ヶ月分、沓郡区一人ツ、十三郡区分延日數千九百五十日

旅費

又二十年一月十二日戸叶主税官ヨリノ照會ニ曰ク

地押異動地検査平均一日筆數逐日検査員モ慣熟人民部調査モ追々精銳ヲ来シ、爾来ハ二際抄増可相成御都合ト被察候、就テハ来二十年度ニ於テハ凡ソ五拾筆程ハ檢了シ得ラルヘキト存候得共、尚實際ノ御見込員サニ致承知度、且ツ廿年度事業予メ計画上參考ニ致度候間、左ノ件々往復日數ヲ除キ一週間以内ニ^{出ラサレハ六凡}同御報道有之度、此段及御照會候、云々

記

一 一類地全管總筆數

一 異動地總數

一 十九年度内檢了筆數

一 二十年度ニ於テ檢了スヘキ筆數

此ノ来示ニ抛リ按スルニ、從來検査ヲ了セシ筆數ヲ計算スルニ四十三筆六分平均ニ當リ、聊カ運抄遅緩ノ状アレトモ漸次検査員モ熟練シ加フルニ逐日好氣節ニ赴キタルヲ以テ、二十年度ニ於テハ五十筆程ヲ檢了シ得ヘキ心算アリ、故ニ其月廿五日調書ヲ付シ之ヲ回答セリ

同年五月二十日收稅長ヨリ主稅局長ニ報告セル二十年四月及ヒ五月中所屬縣謬土地検査済ノ調書ハ左ノ如シ

明治廿年四月中所屬縣謬土地検査済報告

計	人員		俸給		旅費		筆數		計画ニ対比スル増減			
	前月迄 従事數	本月分 同上	前月迄 支私金	本月分 支私金	前月迄 支私金	本月分 支私金	前月迄 檢了數	本月分 檢了數	人員	俸給	旅費	筆數
増員	六	一六	六〇〇〇〇	一九一〇〇〇	八三〇三〇	二六三六四〇	三〇八	一四三〇八	七〇〇〇	二八九七〇	九二	二一九二
減員	二二	一六	二五一〇〇〇	一九一〇〇〇	三四六六七〇	二六三六四〇	一四三〇八	一四三〇八	七〇〇〇	三二二三〇	二一九二	二一九二

検査 町村數	丈量 筆數	地価 筆數	増租 額	一組平均 日檢了筆數	檢了申告 整理町村數	同上未 理町村數
六七	二五八五	一四三〇八	一〇一〇六六四	四三	六七	

備考

- 一 人員ニ対シ増減ナシ
- 一 俸給
- 一 旅費
- 一 検査筆数計画ニ対シ減少セシハ、降雨ノ為メ實際検査ヲナス能ハス帳簿ノ調理ニ従事セシ日アリタルト、出張員ノ内全日数従事セサリシモノアリタルトニ依レリ
- 一 一日檢了筆数ノ計画ニ相当セサルハ前項降雨或ハ出張員ノ全日数従事セサリシモノアルニ係ラス、四月中全日数ヲ以テ割出シタルカ為メ不足トナリタレトモ、實際検査ノ日ハ一日一組五十筆ヲ下ラサルナリ
- 一 檢了ニ係ル申告書類ハ夜間或ハ雨天ノ日ヲ以テ直ニ調整シタルカ為メ未整理ノモノナキナリ

同年五月中所屬隠謬土地検査済報告

計	人員		俸給		旅費		筆数		計画ニ対比シ増減			
	前月迄 従事数	本月分 従事数	前月迄 支払金	本月分 支払金	前月迄 支払金	本月分 支払金	前月迄 檢了数	本月分 檢了数	人員	俸給	旅費	筆数
定員	一六	一四	一九一〇〇〇	二五八〇六〇	二六三六四〇	三七六三四〇	一四三〇八	二二七六九	一四	二〇六〇	一八六六〇	七三三
増員	六	六	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	八三〇三〇	七七六四〇					三四五六〇	
計	二二	二〇	二五一〇〇〇	三一八〇六〇	三四六六七〇	四五五九八〇	一四三〇八	二二七六九	一四	二〇六〇	五三三〇〇	七三三

検査 町村数	文 筆数	地価 筆数	増 租額	一組平均 日檢了筆数	一檢了 申告書類 町村数	未整理 町村数
三五	二三五〇	三七六九	一一三一四一〇	四八	三五	

備考

- 人員計画ニ対シ多数ノ増員ヲ為セシハ、人民部調査運捗ノ為メ奨検査員ヲ増サ、ルヲ得ス、依テ本庁員等ヨリ繰合セ出張セシメタルニヨル
- 俸給計画ニ対シ増加セシハ、本務員等ヨリ繰合セ出張セシメタルニヨル
- 旅費 計画ニ対シ減少セシハ、雨天等ヨリ繰合セ出張セシメタルニヨル
- 筆数 計画ニ対シ減少セシハ、雨天等ノ為メ實際調査スル能ハサル場合アルノ為メナリ
- 一日檢了筆数ハ計画ニ対シ大差ナシ
- 一 檢了ニ係ル申告書ハ夜間ヲ以テ整理セルカ為メ未整理ノモノナキナリ
- 而シテ事業ノ運捗ハ其以後逐次之ヲ報告セリ
- 二十年八月十一日主税局長ヨリ發シタル電報ニ曰ク
- 貴県隠謬地申告ノ總筆数及最初検査着手ヨリ本年度末マテ全檢了ノ總数共至急御報アレト
- 之ニヨリテ翌十二日電報ヲ以テ之ニ回答シテ曰ク

誤謬申告高二十一萬三千貳百九十七筆、検査筆数十九年度内検査八十三萬三千百十九筆、残余八本年度内検査ス、而シテ全管巻区十六郡ノ内郡村ニ属スル分ハ悉皆本月三日ヲ以テ検査了シ、爾後検査スヘキモノハ仙台区ノミナレトモ、同区八家屋密接境界モ亦錯雜シ隨テ異動筆数モ当初見込ヨリ増加スルノ実況ニシテ、僅カニ検査ニ着手セ

シモ目下未タ民部ノ整理中ニ係ルカ故ニ、不日全部申告ノ際ハ幾分力筆數ノ増加ヲ呈スルナラント思考セラル、依テ八月十三日此旨ヲ主税局長ニ申報シテ以テ電報ノ不足ヲ補述シ、且左ノ仕訳書ヲ添付ス

誤謬地申告及検査筆數調

明治二十年六月廿七上申

一 筆數式拾壹万三千式百九十七筆	申告高
内 十三万三千百拾九筆	十九年度 ^{本件三} 検査高
七万三千七百拾九筆	二十年度
残筆數六千四百四拾九筆	

但、仙台区内ニ属スル部分ニシテ全ク檢了ノ上ハ多少筆數増加ノ見込

異動地ノ検査ハ每一筆ニ実地踏査ヲ為シ、丈量検査ハ百筆ニ付式拾筆内外ヲ審査シ其可否ヲ決シタリ、検査員ハ先ツ野帳并ニ新旧ノ繪圖面ヲ携帶シ実地ニ臨ミ、總代人ニ就キ申告ノ土地ニ相違ナキヤ否ヲ糺シ、其相違ナキニ於テハ始メテ事故帳(即チ品目表開列帳等ナルトモ、谷前地目表及加地地目表并実地丈量計取圖ヲ併記スルモノ)ニ記載スル所ノ地目反別及ヒ丈量ノ可否ヲ實地ニ对照シ、而シテ後今回ノ分間字繪圖下実地ノ地形大小等ヲ比照シ、差異ナキニ於テハ直ニ之ヲ檢了シ、差異アルモ反別一反歩ニ付其差五歩ニ滿タサルトキハ之ヲ許可セリ、而シテ其地盤ト繪圖トノ比照ハ充分精査ヲ要シ、其圖下実地トニ至リテハ十分ノ曲屈ト雖トモ尚之カ訂正ヲ命セリ、又地価ノ査察ヲ為スハ地味ノ肥瘠ト收穫ノ多寡トヲ斟酌シ等級ヲ近隣ニ比準シ、民部申告ノ果シテ適スルヤ否ヤヲ明カニシ、若シ民部申告ノ地価ノ低價ニ失スルカ如キアレハ、總代人并ニ各地主等ニ懇篤指示シ直ニ訂正ヲ加ヘシム、其筆數全管ヲ合スルトキハ一万三千五百八拾四筆ニ達シタリ、然レトモ此筆數ヲ異動地ノ總筆數ニ比スルトキハ僅カニ百分ノ六弱ニ過キス、又民部調査ノ精確ナルヲ視ルニ足ランカ、而シテ其地租モ

亦民部申告ノ額ニ超過スルコト四百六円余ナリ、殊ニ誤謬地中遺漏地ノ如キハ其所属ヲ確メ官民有ノ区分ヲ定ムル者ナレハ、最モ鄭重ヲ要セサル可ラサルナリ、故ニ其官林接続ニアル地所ハ林務官ノ立会ヲ求メ其故障ナキヤ否ヤヲ照会シ、其堤防或ハ川敷道路沿ニアル者ハ本県土木課員ノ立会ヲ得、而シテ後民地編入ノ可否ヲ決ス、又其民有地内ニ介在スル者ハ、近傍各地主立会ノ上該地ノ境界及所有主ノ果シテ申告ノ者ニ相違ナキヤ否、且ツ從來本人ノ処理シ来リシ事由等ヲ尋問シ、渾テ異議ナキヲ以テ之ヲ可トス、然ルニ其順序ニ於テ事故帳ノ精査ヲ後ニシテ實地ニ臨メルアリ、或ハ新製ノ圖面ニ而シテ旧圖面ヲ願ミサルモノ等アリテ、無用ノ手數ヲ勞シ其秩序ヲ誤ルノ恐ナシトセス、是ヲ以テ戸叶主税官來県ノ際、實地調査ニ拠リ発見スル異動地検査手続ノ改定ヲ協議セラレタリ、其事項ハ左ノ如シ是マテ各郡地押調ニ付発見ノ異動地検査ノ順序ヲ推究スルニ、各村トモ地租改正ノ際調製セシ字限リ繪圖ハ多クハ席上ニ成リタルモノニシテ、其広狭実地ニ適セサルノミナラス位置転倒錯乱甚シク、此圖ニヨリテ遺回ノ地押調ヲ為ス能ハス、帳簿ニ於ケルモ當時名寄帳ト一村反別地価合計帳ヲ製シタレトモ普通ノ地価帳ナシ、名寄帳モ改租ノ後交換ノ訂正ヲ怠リ補助簿ノ類ヲ製シ徵租ヲ弁シタレトモ、卷簿限リノ地番号反別ナラス、止ヲ得ス郡役所備置ノ地券台帳ヲ謄写シ之ヲ野帳ト稱シ遺回取調ノ基本ト為シタリ、圖面ハ更ニ字限リ見取繪圖ヲ製シタル村方僅々アリト雖トモ、多クハ板分間ヲ以テ每筆ノ四圍概略ヲ畧リ各字限リニ繪圖ヲ製シ、全村總字繪圖ヲ合シテ凹凸稍接続スルニ至テ之ヲ可トシ、每筆旧繪圖ニ照シ旧地番号ヲ記入シ、而シテ野帳ト新繪圖トヲ以テ地押ヲ為シ、異動地及脱落地等ヲ発見スレハ一々野帳ト新繪圖トニ其事由ヲ記入シ、實地ニハ目印ヲ建テ置キ地押畢リテ後異動地脱落地ヲ丈量シ比準地価ヲ調ヘ地租ヲ計算シ、異動地ハ野帳該筆ノ次ニ朱線ヲ施シ、傍ラニ現地目反別地価地租及比準地番号反金等ヲ朱書シ、脱落地ハ其実況ニ応シ野帳面甲筆ト乙筆トノ間ニ異動地ノ体裁ニ準シテ朱記シ、帳尾ニ調査増減ト差引現計トヲ記載シ、着手ノ初メニアリテハ地押調ヨリ発見シタル異動地ハ、別ニ一筆限リ調帳ヲ要セス野帳

ヲ以テ之ニ代用シ、地価査定方ヲ出願セシメ、一類地ヨリ二類地ニ変換スルモノハ一筆限リ其事由ヲ詳記シ出願セシムル筈ナリシニ、従来宮城県下ノ郡村ハ田畑一枚ヲ以テ一筆トナス、故ニ一畝未滿ノ一筆地夥多アリ、今度之ヲ適宜合筆スルコトトナシタルニヨリ野帳へ合筆ノ事由ヲ朱記シ、又異動地脱落地ヲ朱記スル等甚々混雜ニ渉ルヲ以テ異動脱落地ハ野帳へモ略記シ、別ニ事故帳ト唱ヒ一筆限ニ詳記セシモノヲ出タサシメ検査スヘキ順序ナレトモ、異動地ノ名目分合筆ノ可否等ノ上ニ於テ懸念スル所アルヲ以テ、先ツ地押ノ上異動地脱落地調ヲ了シタルニ付、検査受度旨申出ル村々へハ直ニ検査員ヲ派遣シ地押ノ精粗ヲ視察シ、可ト見認レハ異動地脱落地ノ丈量ヲ検査シ地価ヲ査察シテ後願書ヲ出サシムルノ手續ナリ、頃日来各郡検査ノ実況ヲ点々監査スルニ、地押精否ノ視察多クハ旧繪圖ハ措テ願ミス、新繪圖ハ朱ニテ合筆ノ形ヲ画キ新番号併記シタルモノミヲ携へ、新番号ヲ先ニシ旧番号ヲ後ニシ、而シテ新番号ノ旧番号ニ連絡セス、例へハ旧ノ卷番三番カ新ノ一圖ヲ出サシメテ、実地ト帳簿ト新旧兩繪圖トヲ対照シ初メテ了得スルヲ得ル、仍テ爾後ハ必旧繪圖ニモ照合シ旧番号ノ順次ニ地押ヲナシ新番号ハ後ニ対照セシム、然ルニ旧繪圖ト新繪圖ト旧番号ノ位置転スルモノ稀ニアリ、之ヲ実地ト新繪圖トニ照スニ土地ノ広狭相違セス只地番ノ転倒スルノミ、之ヲ村民ニ糾シ篤ト取調ヘシムルニ、全ク売買ノ時甲乙式筆ヲ所持セシモノ甲地ヲ売却シ誤テ乙地ノ地券ヲ書換タルニ由ルト云フ、是等ハ他ニ事故アルヘキモ知ル可ラスト雖トモ、畢竟旧繪圖ハ錯亂抛ルヘカラサルモノトセシニ原因ス、丈量検査方ヲ監査スルニ敢テ不都合ヲ見出サスト雖トモ、一ニ字地押視察ヲ了シ異動地検査ヲ為ストキハ其途次地押ノ如何ニ注目シ、検査ノ地ニ臨ム時ハ其四圍及ヒ近傍ノ土地実況ヲ繪ニ照シテ得ト視察シ、其場合ニ依リテハ接続地ノ丈量ヲモ為スヘキモノナルニ、其辺ノ注意充分ナラサル歟ノ感アリ、又地価ノ査察ハ人民甲立ル所ノ比準ハ何番地トノミ記シテ反金ヲ記入セサルモノ往々アリ、現場ニ於テ反金^{宮城県ハ筆数ヲ全額レトモニ算入ス}ヲ計算スル等甚々不順序ニシテ時間ヲ冗費ス、如此順序ノ不完備ナルハ第一郡村ヨリ願書ヲ出サ、ル以前ニ檢

査員ヲ派遣シ、検査員ハ充分ニ席上ノ調査ヲ為サス直チニ実地ニ臨ミ、今回調製セシ繪圖カ現地ニ適合スルヤ否ヲ視察スルニ急ナリシヨリ、終ニ他ハ疎漏ニ陥リタルモノト思考ス、仍テ今後検査手續改定ノ事項ヲ協議スル左ノ如シ

一 野帳ト称スルハ該村毎地一筆限リ帳簿迄ノ取調ニ據置キ、他地方訂正地価帳ニ代用スル事

一 事故帳ト唱ヒ異動地及脱落地一筆限リ帳ハ、他ノ地方ノ一筆限ト実測野取圖トヲ兼タルモノニシテ各村大概調製ヲ了ス、今ニシテ更ニ普通帳簿ニ調直サントスルトキハ民間ノ費用尠カラサルニヨリ、是迄ノ取調ニ據置キ地価比準地番号反金及該筆限リ元地目反別地価地租ヲ朱記シ、現地目反別地価地租ヲ墨書シ、而シテ總計ヲモ記載差出サシメ一筆限帳ト実測圖トニ代用スルコト

一 野帳事故帳整備ノ後無願開墾地無届変換地脱落地ハ一村總計ヲ掲ケ、一類ヨリ二類ニ変換地ハ一筆限リ事故帳ヲ詳記シ、各別冊ニ地価修正又ハ編入等ノ願書ヘ事故帳ヲ添付差出サシムルコト

一 県庁於テ主任官ノ事故帳ヲ檢閲シ図面上丈量方法ノ不審ナルモノ、元反別ニ増減ノ著シキモノ、変換地ニシテ地租ノ額増スヘキモノニ減シ、減スヘキモノニ増力如キ不審ナルモノ、開墾及脱落地ニシテ其地価甚々低下ト認ムルモノ、田ノ畑ニ変換及一類ヲ二類ニ変換請求等、減租ノ種類ハ一々付箋シテ予メ検査員ノ注意ヲ促スコト

一 検査員ハ県庁ヨリ願書及事故帳ノ回付ヲ得、事故帳付箋ノ項ハ勿論其他ヲモ篤ト通覽シ、而シテ村總代ニ就キ丈量方法ノ不審ナルモノハ之ヲ糾シ、帳簿ニ屬スルモノハ更ニ丈量シテ図面及反別地価地租ヲ更正セシメ、其他不審ノ項ハ一々推問シ、就中脱落地及一類地ヨリ二類地ニ変換ハ先ツ図面上ニテ其位置ヲ調ヘ、脱落地ハ従来民有ナルヘキ地歟如何ヲ予想シ、一類ヨリ二類ニ変換地ハ改租以前ヨリ目今迄ノ履歴ヲ推問シ、書類ナル者ハ一々之ヲ出サシメ閱覽シ、野帳及一村全圖新旧字限リ兩繪圖ヲ出サシメ、地押視察ノ部分ハ各種地目ノアル字ニ就テ

適宜之ヲ定メ、先ツ席上ニテ旧絵圖ト新絵圖ト點々照合シ、旧番号ノ位置著シク懸隔スルモノハ一応取亂シ、而シテ後実地ニ臨ムヘキ事

- 一 地押精否相察ニハ一名ハ新旧兩絵圖一名ハ野帳ト事故帳トヲ携ヘ、地主總代ヲシテ案内セシメ、旧番号ノ順序ニ繪圖ヲ携フル者旧一番ト呼、案内者歟札ヲ取字旧番番田若干地主何某ト答フ、帳簿ヲ携フルモノ更ニ旧番番田若干何某ト野帳面ヲ朗読ス、繪圖ヲ携フル者地目反別ノ広狭位置共ニ帳簿圖面ト差違ナシト視認ムレハ可ト呼、帳簿ヲ携ルモノ亦可ト呼返シ其項ニ適宜ノ符合ヲ記ス、次テ旧式番ヨリ順次此手続ニテ隣地ヲ押シ、若地目適合スルモ反別ニ広狭著シキ差アリト看認ルヲ、或ハ旧番号ノ順序新繪圖上甚々錯雜スルモノハ新旧兩絵圖へ実地ト照合、誤認アリト視認ムルトキハ地押ヲ中止シ篤ト取調ヘク、又旧繪圖アリトノ誤謬ニ止マルト看認ルトキハ次ノ旧番ニ移リ、新番ノ一区域地押ヲ了スル毎ニ繪圖ヲ携フルモノ実地ノ枚数ト繪圖ノ区域トヲ數ビ、合筆ヲ可ト視認ムニハ新何番ト田何枚ト呼ビ、帳簿ヲ携フルモノ野帳ノ合筆元筆數ニ適合スレハ可ト答、合筆ノ項ニ照合ノ符合ヲ記ス、其字中異動地ノ筆ニ移リタルトキハ丈量ノ検査地価ノ查案ヲ了シテ後次ノ旧番号ニ移ルヘキコト
- 一 地押視察ヲ了シタル後異動地検査ノ順次ハ予メ考定シ置、實地ニ於テ其順序ヲ示シ案内セシメ、途中兩傍ニ歟札アルモノハ字番号ノミヲ呼ハシメテ點々繪圖帳簿ニ照シ、歟札ヲ建サルモノアルトキハ繪圖ヲ携フル者此地ハ何番ナルヘシト注目シ、點々字番号ヲ總代人ニ尋問シ、繪圖帳簿ニ照合シテ每筆ノ地押ヲ視察セシ部分ト同一ナルヤ否ニ注意スヘキコト

一 異動地ノ筆ハ勿論其四圍近傍ノ地ニハ必ラス予メ歟札ヲ建シメ、該地ニ臨ム時ハ先字限リ繪圖ト野帳ニ照シ四圍ヨリ地価ヲナシ、異動地ハ此筆ナリト確定スルヲ緊要トス、丈量検査ハ毎地ナスニ非レハ一目シテ推知シ得ヘキ程ノ小歩數ハ、差違如何ント思考スルモノ、外検査筆ニ充ツヘカラス、然レトモ人民丈量元筆數ニハ著シキ増

減ヲ生スルモノハ、歩數ノ大小ニ拘ラス先該地ノ境界ヲ分明ニシテ丈量ヲ検査シ、若シ田ノ畑宅地成ノ如キ増歩ニナルヘキモノニシテ反テ著シキ減歩ヲ生スルトキハ、該地ハ改租後分裂売買セシ地中ニハアラサルヤ否ヲ糾シ、元分筆セシモノナルトキハ其元殘地ヲ丈量シ膠リアレハ之ヲ更正セシメ、又他ニ事故ナキトキハ四圍ハ勿論接続地ヲモ丈量シ、差違ヲ見出サ、ルニ至リ初メテ改租丈量ノ誤謬ト看認メ反別ヲ確定スヘキ事

一 丈量検査筆數ハ普通定期検査ニ準拠スヘシト雖トモ、通回ノ如キ異動地夥多ノ筆數ニ對シテハ実況ニ応シ斟酌ナカルヘカラス、大抵百筆ニ付二十筆内外ヲ目的トスヘシ、然レトモ民政部ノ丈量二元反別ニ對シ著キ増減アルモノ、或ハ比々減歩ナルモノ、或ハ田畑ノ分筆交換ニ係ルモノ段号モ丈量検査スヘシ、或ハ屈曲アル土地ニ一々目標ヲ建ス弦斜間繩ノ歩少ク、隨テ歩數ニ差違アルヘキト視認ムルモノ、或ハ實地ノ広狭人民部丈量反別制限ニ超過ノ差違アル欵ノ懸念アルモノ、如キハ、目的筆數ニ拘ラス一々其丈量ヲ検査スヘキコト

一 丈量検査ノ同所ハ予メ某字某字ハ誰ノ手ニテ丈量セシカラ推問シ置テ、丈量手ノ代ル箇所毎ニ検査スルコトトシ、若シ一手ニテ丈量セシモノナルトキハ、一方ニ偏セス某字ノ何番地某字ノ何番地ト考定シ置クヘキコト

一 地目交換及開墾地ニシテ從來ノ耕宅地ニ合筆シ、交換開墾地ノ境界分明ナラサルモノハ、合併セシ全筆ヲ丈量検査シテ歩數ヲ精算シ、其中從來耕宅地ノ歩ヲ除去シ殘歩數ヲ以テ交換地開墾地ノ反別ヲ定ムヘキ事

一 異動地及脱落地ハ予メ目標ヲ建、検査ヲ了スル毎ニ目標ヲ拔去ラシメ、其順次ヲ遺漏ナキ様注意スヘキコト

一 丈量ノ検査ハ普通ノ手続ニ由ルヘシ、但シ一反歩ニ付五歩内外ノ差ハ人民ノ調ニ據置、右ニ超過スル差違アルトキハ其近傍ニテ猶異動地検査ヲ検査シ、全テ該筆ノミヲ誤謬ニ止ルモノハ其旨ヲ總代人ニ示シ、事故帳野取圖ノ傍ニ検査更正反別ヲ記シ主任者検印ヲ捺シ置クヘシ、若シ比々制限ヲ超過スル差違アルモノハ丈量再調ヲ命ス

ヘキコト

一 田ヲ畑ニ交換セシト申立ルモ、畦畔ヲ存シ一時畑作ヲナスカ、或ハ桑苗等ヲ植付ルモノ、如キハ畑ニ組換ルヲ得ス、又実地分裂交換ハ叩リニ相成ラサルモノナレハ説諭ノ上願止メシムルコト

一 脱落地ハ四圍地主ニ異見ナキヤ否、及從來願人ノ所持セシニ相違ナキヤ否ヲ糾シ、民有地ノ脱落ト視認ル後ニアラサレハ丈量検査地価査案ヲナスヘカラス、但シ民有地下看認ルモノハ其事由ヲ手帖ニ登記シ追テ収税長ニ申報セシムヘシ、又官簿ニ登記ナキモ官地ニ接続スルカ、或ハ道路路堤塘敷部内ニ属スルカノ疑アルモノ、或ハ川敷部内ニ属スル附屬洲ノ類ハ、仮令近傍ニ改租以來ノ民有地アルモ叩リニ脱落地ヲ以テ処分セス、事故帳ニ其事由ヲ記シ簿ト実況ヲ取調置詳細収税長ヘ申報セシムヘキコト

一 一類ヨリ二類ニ交換セシ土地検査方ニ付テハ、志田・玉造郡檢了村々審査協議ノ事項中ニ記載セシ旨趣ヲ体シ一筆限リ取調、説諭ノ上願止メシメタルモノハ事故帳ニ未決ノ符合ヲ記シ、止ヲ得スニ類地トナスヘキモノハ其實況ヲ一々手帖ニ登記シ置キ、詳細収税長ヘ申報セシムヘキコト

一 地価査案ハ先ツ人民ノ申立ニ拘ラス其地味ト実況トニヨリ近傍何番地比準スヘキ目的ヲ定メ、而シテ人民申立ノ地ヲ調、目的ト同等地ニシテ反金ニ差違ナキモノハ之ヲ可トスヘシ、若シ人民申立ル所ノ比準地地価低下ナルトキハ其事由ヲ糾シ、地味未タ充分ニ熟セサル等ノ故ヲ以テ低價ナランコトヲ欲スルモノナルニ於テハ、將來永遠ノ地価ヲ定ムルモノナレハ、現況ノミニ拘ハラス地味ニ応シ定メラルヘキモノナル旨趣ヲ説諭シ、承服スルニ於テハ直チニ元ノ比準ヲ取消シ更正比準地反金ヲ記入シ置クヘキ事

但シ該字中近傍ニ適応ノ土地ナキトキハ、接続ノ字中ニテ其比準地ヲ選フヘシ

一 一日間検査セシ土地ハ其夜旅宿ニ於テハ検査ヲ了スヘシ、即チ丈量検査ノ地ニシテ検査反別ニ更正セシメタルモノハ、更正検査反別ヲ精算シテ地価地租ヲ計算シ、願止メシメタルモノハ其項ヲ塗抹シ掛紙ヲナシテ願止メト

記シ、比準地ヲ更正セシモノハ更正地地租ヲ計算シ、附寄洲ノ類ニシテ脱落地下ナスヘカラサル見込ノモノハ掛紙ヲナシ別調モノト朱書シ、而シテ他ノ檢了セシ毎地ノ野取図歩数ヨリ比準反金及地価地租ヲ檢算シ差違アルモノハ之ヲ更正シ、其夜若クハ翌朝總代人ニ示シ掛紙及更正ノ項ニハ一々捺印セシメ、一村數日ノ検査ニ涉ルモノハ毎夜字限リノ小計ヲナシ、全村檢了ニ至リ其通計ヲ積算シ、願書面ニ差違ヲ生スル者ハ掛紙ニテ更正シ、戸長及總代人ニ捺印セシメテ検査ヲ了スヘキコト

一 一村検査ヲ了スルトキハ各地目限反別地価地租増減表ヲ製シ、検査ニ關スル一切ノ申報書ト共ニ収税長ニ進達セシムヘキコト

右ノ外猶實際ニ就キ協議スル所アルヘシ

地押上発見セル全管内異動地總筆數ヲ舉レハ式拾壹万四千八百七十四筆ニシテ、十九年度税額ニ対シ九千余円ノ増加ヲ見ルニ至レリ、而シテ之ヲ細別セハ地目交換四万七拾貳筆、開墾地三万三千百二十八筆、私下賦税及免租地ノ有租地ニ成リタルモノ四千九百八拾八筆、誤謬訂正十二万八千九百八拾六筆、一類地ヨリ二類地ニナリタルモノ六千七百筆ナリトス、是總數ヲ以テ全管一區十三郡役所ニ均當セハ、每一郡ノ筆數一萬式千八百五十筆ニシテ増租額七百円余、之ヲ每一村ニ平均セハ乃チ三百三筆強ニシテ其租額八十式円弱ニ當レリ

本県管内ノ地勢ヲ通覽スルニ、三四ノ郡部ヲ除クノ外耕地ハ大抵山間幽谷ニ介、或ハ山腹等ニ点在シ実地ノ踏査ニ於テ甚タ困難ヲ究メリ、而シテ異動地ノ如キハ当初ノ考按ニ対シ非常ノ変状ヲ来シ、其夥多ナルコト實ニ予想ノ外ニ出タリ、是ヲ以テ一日検査一組ノ檢了セシ筆數ハ僅力二三十七筆乃至四十九筆ニ出入スルノミ、今左ニ異動地郡区類別表及異動地反別地租増減調ヲ掲出シテ以テ参照ニ供セントス

異動地部區類別表		郡區名	人民申告筆數	檢查筆數	是認筆數	更正筆數	訂正地價增額	民部申告地價
		仙台	二三八八七	二五〇八	二三四〇二	四八五	一七五〇〇一〇	四二二二六七一四
		宮城	一七八八二	一六〇九	一七六〇七	二七五	一一一五一三四	二二二七三六六四
		名取	一四八九五	一六三八	一四七〇〇	一九五	九六七〇五〇	二五八九五四八四
		柴田	一七〇三五	一八七四	一六八〇〇	二三五	一二〇五五七一	三三九七〇五八四
		刈田	一四〇三五	一五四二	一四六二〇	二〇三	一三〇〇一八九	二七五九九九二
		黒川	一五九〇〇	一六五四	一五六九〇	二一〇	一四一三〇一一	二二九九六六一六
		加美	六一四二	六三〇	六一〇六	一三六	四五〇三三〇	八五一二一九八
		志田	四二五三	四二九	四一三六	一一七	三七五一九七	七八六九九一八
		玉造	一一三六八	九六一	一一二〇〇	一六八	二〇〇九九六一	三一二四一五七一
		栗原	一三四〇六	一四七四	一三一五九	二四七	九六五八二〇	一四〇二九〇六一
		遠田	一一二一〇	一一二四	九九九九	二一一	九一五六〇〇	一九一四四八五三
		登米	二〇七八五	二二六二	二〇四一〇	三七五	一三五〇〇五六	一四二九六六二九
		桃生	七三三一	八〇六	七一四五	一八六	六七五六〇〇	一〇六七七一九六
		仕鹿	一一一五二	一九五一	一〇〇三〇	一一二	四三八五三二	二六二八三七八四
		本吉	一七六六五	一九四三	一七三七八	二八七	八七五〇五〇	二二〇〇五八五五
		伊具	八一六八	九〇九	八一三六	一三二	三七五六〇〇	七一八一七〇九
		亶理				三五八四	一六二四二七一	三三三二九四一二八
計								

地押上落見異動地反別地租増減調

二元反別千九百九拾貳町貳反五畝八歩貳合六勺

此地價金拾壹萬七千三百八拾貳円八拾三錢九厘

此地租金貳千九百三拾五円九錢三厘

二元反別千四百三拾町四反三畝貳歩三合九勺

此地價金貳拾萬五千四百三拾七円壹錢三厘

二元反別千五百三拾六円四拾八錢貳厘

此地租金五千五百三拾六円四拾八錢貳厘

二元反別千四百六拾五円七拾三錢七厘

此地價金貳百拾貳円四拾五錢五厘

二元反別千四百三拾九反七畝貳歩壹合四勺

此地價金拾壹萬八千九百八拾六円八拾九錢貳厘

二元反別千九百七拾五円四錢

此地租金貳千九百七拾五円四錢

二元反別四百二十四町五反貳畝四歩

此地價金貳萬九千八百拾六円三拾貳錢七厘

二元反別六百貳拾壹町七反三畝拾四歩

此地價金七千八百八拾四九拾壹錢五厘

地目交換

無年季開墾

第一組地
第二組地
成

此地租金百七拾九円六拾七錢九厘

一 反別七千八百拾七町九反七畝廿武步

此地租金拾九万四千五百三拾三円七拾武錢四厘

此地租金四千八百七拾四九拾五錢貳厘

二 反別八百六拾九町六反八畝拾壹步七合三勺

此地租金壹万三千貳百八拾六円五拾七錢九厘

此地租金三百貳拾九円九拾六錢七厘

一 反別九町九反拾武步

此地租金千五百貳拾壹円四拾三錢六厘

此地租金三拾八円拾錢三厘

一 地租金六拾四円三拾武錢六厘

一 地租金貳拾五円三拾六錢七厘

一 反別八拾壹町三畝拾八步

此地租金二千五百七拾五円五拾三錢五厘

此地租金八拾九円三拾九錢四厘

一 元反別三千六百四拾七町三反壹畝拾七步九合九勺

此地租金拾六万九千貳拾壹円四拾八錢貳厘

一 此地租金四千貳百五拾四拾三錢四厘

誤認訂正増

同上減

畦畔除却及有租地

二ヶ半更正増

同上減

官地侵襲松下

一 反別壹万三千三百七拾五町五畝拾壹步五合三勺

此地租金五拾二万二千貳百三拾五円五拾壹錢五厘

此地租金壹万三千三百五十三円九拾七錢六厘

差引

反別七千七百貳拾七町七反三畝廿武步五合四勺

此地租金三拾六万貳千貳百拾四円三錢三厘

此地租金九千百三円八拾四錢貳厘

増

土地台帳

土地台帳ハ明治十七年大蔵省第八十九号達ヲ以テ定メラレタル様式ニ拠リ、地押野帳ヲ基本トシテ編製スルモノトス、而シテ其事項ニ關スル諸規ヲ叙センニ、十七年十二月二十八日主税官長ヨリノ照会ニ曰ク、

大蔵省第八十九号達ノ旨趣タル地租ニ關スル一切ノ事ヲ整理シ、以テ将来実地ノ帳簿ト齟齬錯乱スルコト無ラシメ、シテ欲スルニ出タルモノニシテ、務メテ調成鄭重ヲ要スヘキハ勿論ノ義ナレトモ、先ツ本庁ニ備置クヘキ分ハ來ル十八年中ニ調成ヲ竣了セラレ度、或ハ右ノ期限内ニ調成シ難キ帳簿アラハ其調成期限ノ見込、且郡区役所長役場ニ備置クヘキ者ノ調成期限見込ヲモ併テ回答アリタシ、云々

然ルニ本庁及郡区役所備置ノ分ハ照会ノ如ク其調成ヲ竣了セシムヘシト雖トモ、独リ第十九号様式即チ土地台帳ノ調製ニ至テハ決シテ容易ナル事ニ非ラス、抑々管内民有地ノ筆數大略五百三十余万ノ多ヲ占レハ、其調査ノ費用モ亦莫大ナリトス、今之ヲ概算スルモ殆ント十余万円ノ金額ヲ要スヘク、是ニ由テ之ヲ考按スルニ尚ホ二三年ノ星霜ヲ經ル

ニ非レハ其竣功ヲ見ル可ラス、而シテ其地目反別地価地租等ヲ明ニスルニハ地券台帳及ヒ土地所有者名寄帳ノ備アリ、又公認ノ事由ヲ証スルニハ売買及ヒ借入質入公証割印簿ノ設ケアリテ、敢テ差支ナカルヘシトノ序儀ヨリ遂ニ主税官長ニ回答ヲ為ス、其略ニ曰ク

御達ノ旨趣一般ヘ令達セシモ、元來該調成タル重大ナル事件ナル而已ナラス、特ニ多額ノ費用ヲ要シ候ニ付到底數年ヲ経過スルニ非レハ竣功ノ予定無之候、云々

前年三擧テ之ヲ見ルモ台帳ノ調成ハ尤モ慎重ヲ要スル件ニシテ、就中実地調査ノ如キ殆シト改租ノ業ニ均シク咄嗟ニ之ヲ処理スルヲ得ス、其竣功ヲ速カニスル良方按アレハ御明示相成度下、十八年三月主税官長ニ照会セシニ、主税官長ノ回答ニ曰ク、当時御県收税長心得モ上京中レハ委細今回ノ事情ヲモ御談示スルニヨリ御開取アリ度、云々

收税長心得帰県ノ後、地押ノ今日ニ舉行セサル可ラサル旨趣ヲ以テ郡区長等ノ協議ヲ遂ケ、十八年十月三十一日郡区町村ヘ左ノ如ク達ス

号外達

本年レ乙第四号ヲ以テ相達スル土地台帳ノ編製ハ、渾テ別紙取調順序ニ拠リ実地地押ヲ為シ一筆限りノ調書及ヒ地目ヲ製シ、來ル明治十九年十一月三十日限り届出テシムヘシ

(別紙) 実地取調順序

第一条 実地ノ取調ハ毎町村ニ於テ地主總代人ヲ選定シ之カ取調ヲ為サシムヘシ

第二条 実地ノ取調ニ係ル地目ノ、予シメ字番号及ヒ現在ノ地目ヲ地主ヨリ記載差出サシメ取調ノ参照ニ供セシムヘシ

第三条 地租改正後既ニ処分済ニ係ル土地ニシテ未タ帳簿ノ訂正ヲ為サ、ル者アルトキハ、其現地目反別地価及ヒ

処分済ノ年月日ヲ付箋ニ記載シ之ヲ該帳簿面該當ノ所ニ貼置シ、此際取調上ヨリ発見セルモノト混淆セサル様子メ区別シラクヘシ

第四条 戸長役場ニ於テハ適宜担当者ヲ定メ実地ニ就キ其事業ヲ監督スヘシ

第五条 調査ハ現在徴租ノ基本ニ供スル帳簿及改租ノ際調製セシ繪図面ヲ、実地ニ照シ毎筆地押調査ヲ為サシムヘシ

但シ地押ハ地番号ヲ逐ヒ一字限り対照シ、其相違ノ土地ハ字番号現地目及事由ヲ別帳ニ登記シ、其訂正方出願又ハ届出ノ手続ヲ為サシムヘシ

第六条 前条地押ノ際改租繪圖ト對比シ、更ニ実地大小方円ノ形ニ拠リ精密ナル野取圖ヲ調製セシムヘシ

第七条 実地ノ調査ヲ了シタルトキハ戸長其取調書ヲ調査シ開申ノ手続ヲ為サシムヘシ

第八条 調査ノ際合筆ヲ願出ルモノアルトキハ、別ニ帳簿ヲ製シ地押ノ節其番号ヲ登記シ置キ、地券書換等出願ノ手続ヲ為サシムヘシ

但畦畔ハ丈量シ置クヘシ

第九条 反別ハ丈量ヲ為スニ及ハスト雖トモ、其地ニ依リ甚シキ差違アリト思惟スルモノハ特ニ丈量ヲナシ、該地ノ図面ヲ添付訂正ヲ出願セシムヘシ

第十条 土地台帳ハ地租条例第三条ニ定メラレタル地目ヲ用ヒ、猶該様式ノ傍ラニ示シタル地位等級ノ下ニ朱字ヲ以テ其現況即ち現出サレハハヲ付記シ置クヘシ

第十一条 土地ノ沿革ハ台帳調製後ニ係ルモノヲ其都度記入スヘシ

第十二条 土地台帳ハ凡ソ式百筆ヲ目的トシ二字乃至三字ヲ合シテ一冊ニ綴リ、毎字ニ地目限り毎等級ヲ區別シタ

ル小計ヲ付シ、猶其未冊尾ニ地目限り類別シタル一町村ノ合計并ニ每地位等級限りニ區別シタル内訳書ヲ付スヘシ

右ノ達ニ拠リ各町村於テ漸次実施ニ着手セシカ、十九年ノ始メニ至テハ粗整頓ヲ告ケタル村落モ少カラス、隨テ土地台帳調製ノ準備ヲ為サ、ルヲ得ス、然ルニ大蔵省ニ於テ台帳ノ様式ニ稍修正ヲ加ヘラル、ノ由ヲ聞ケリ、若シ果シテ如斯ナレハ台帳ノ用紙ニ凡ニ万五六千円ノ巨額ヲ抛テ、一旦雛形ニ拠リ印刷ニ付シタル後ニ於テ更ニ修正ノ御達アルニ至テハ、實ニ容易ナラサル結果ヲ來スヘキニ付、十九年三月主税局地租課長へ照会セリ、其略ニ曰ク

土地台帳様式ニ於テ若シ御修正ヲ要セラル、御見込ナラハ、印刷等姑ラク見合セ置クヘキニヨリ至急内示アラントラセテ

三月廿日地租課長ヨリ台帳雛形ハ別ニ修正ヲ要スル見込ナキ旨之回答ヲ得、始メテ其様式ヲ確定シ尽ク印刷ニ付シタリキ

二十年八月一日土地台帳調製審査細則ヲ左ノ如ク定メタリ

土地台帳調製審査細則

第一 土地台帳調製整理委員ハ地押ノ視察異動地検査ノ成績ヲ審査シ土地台帳調製ヲ監査、之カ紀要ヲ作ルモノトス

第二 地押ノ視察異動地検査ノ成績ヲ審査スル要項、左ノ如シ

- 一 地押視察ノ適否ヲ審査スルコト
- 二 地押上ヨリ発見セル飛地ハ組替ノ手続ヲ為サシムルコト
- 三 同上官有遺漏地ハ之ヲ集計シテ第一部ニ報告スルコト

四 同上ノ官有地侵襲地ハ私下ノ手続ヲ為サシムルコト

五 遺漏地編入ノ適否ヲ審査スルコト

六 誤謬訂正同上ノコト

七 二類ヨリ二類地ニ編入ノモノ同上ノコト

八 地価査察ノ適否ヲ審査スルコト

九 異動地検査済ニ係ルニ切ノ調査ヲ調査ヲ其筋ノ稟議ヲ起草スルコト

十 異動地ニ対スル指令按ヲ起草スルコト

第三 土地台帳調製ヲ監督スル要項、左ノ如シ

- 一 字絵図及ヒ一村図調製ノ適否ヲ審査スルコト
 - 二 野帳調整ノ適否ヲ審査スルコト
 - 三 合筆ノ誤謬番号ノ脱落ナキヤ否ヲ再査スルコト
 - 四 土地台帳ノ適否ヲ審査スルコト
 - 五 実地分間素図ノ保存ヲ計ラシムルコト
 - 六 地租増減表ヲ進達セシムルコト
- 第四 紀事提要ヲ編纂スル要項ハ左ノ如シ

- 一 沿革
- 二 委員
- 三 総代

- 四 地圖
- 五 野帳
- 六 地押及相察
- 七 異動地及検査
- 八 土地台帳
- 九 經費
- 十 雜件

土地台帳ハ函面ノ調製ヨリ地押等ヲ為シ、毫モ実地ニ齟齬スル所ナキニ至リ始メテ調製ニ着手スル者ニテ、其様式ハ既ニ印刷ニ付シ郡役所ニ備ヘアル用紙ヲ用ニ、郡役所於テハ筆耕者ヲ雇入レ地押野帳ヨリ之ヲ淨写セシメ郡区吏員之ヲ監督ス、其筆耕ノ賃金ハ各郡同シカラスト雖トモ大抵一筆金壹圓割合ナリトス、其照合精算ハ臨時ノ雇員ヲ命ジ日給拾五錢乃至二十式錢ヲ給与シ之ニ從事セシメタリ、今其一日ノ課程ヲ舉クレハ一人ニシテ淨写八百五十筆、照合精算八百筆ニ出入ス、而シテ其竣功ノ期限ハ各郡等シカラス、大凡二ヶ月ヨリ四ヶ月前後ノ日子ヲ要セシハ、蓋シ畝歩ノ大小ト筆數ノ多寡トニ因ル者ナリ、然リ而シテ桃生郡ハ其調製半ニシテ郡衙不慮ノ災ニ罹リ書類多クハ島有二畑ス、其存スル者ト雖トモ或ハ紛乱シ、更ニ再調セシカ為メ大ニ時日ヲ費スコト他郡ノ比ニ非ラス、其他各郡ニ於テモ地形ノ難易ヨリ実地調査ニ遲速アルヲ以テ、土地台帳ノ調製ニ前後アリシモ、明治二十一年一月二及ニハ管内全ク整理ノ功ヲ見ルニ至レリ

經費

地押經費ハ總テ人民ノ負担ニ係ルト雖トモ、又整理委員ニ關スル諸費ナシトセス、其整理委員費ハ所謂誤謬土地検査ノ諸費ニシテ乃チ國費ノ支弁ナリトス、今其支出ノ順序ヲ叙述シ而シテ民部ノ諸費ニ及ハントス

明治十八年九月二十五日主稅局第二部長心得ヨリ照会アリ、其略ニ曰ク

本年二月廿八日付大藏卿訓示ノ趣モ有之ニ付テハ、貴県下ハ本年度内ニ於テ人民部ノ取調ヲ了シ事實相違ノ有無ヲ申告シ、而シテ收稅官吏ヲ派遣シ地押検査ニ着手スルノ御運ニ至ルヘキ部分モ有之見込ナルヤ、徵稅費予算調理ノ都合モ有之ニ付至急回答アリ度、若シ果シテ本年度内実地着手ノ都合ニ候ハ、徵稅費予算額電信ニテ申出有之度、云々

是ニ於テ十月三日左ノ回音ヲ電送セリ

本年度地押検査ノ為メ要スル徵稅費予算千百貳十五円増額アリタシ

抑地押検査ノ事タル本年度内ヨリ漸次着手スルノ運ヒニ至リ、其徵稅費ハ俸給貳百廿五円・雜費二九百円ヲ要スル予算ナルヲ以テ前行ノ電信ヲ發セルナリ、而シテ尚詳細ヲ郵答シテ以テ電文ヲ補ヘリ、十一月九日本件ニ關シ又主稅局第二部長心得ヨリ照会ヨリ、曰ク

本月二日付ヲ以テ実地取調整理委員ヲ命セシニ付、本年度内徵稅費増額相成度旨御申越ノ趣了承、然ルニ該委員ハ元來課中各科ヨリ兼務為致候管ニ付俸給増額ハ詮議難相成候得共、実地取調順序等説明ノ為メ該委員ノ巡回ヲ要スル儀有之、夫レカ為メ本庁中二次員ヲ生シ常務ニ差支ヲ生シ、止ヲ得ヌ代理ヲ置カサル可ラサル場合ニ於テ、其巡回日數等取調県令ヨリ被申立候ハ、何分ノ詮議可相成ト存候、云々

整理委員設置ノ儀ハ官長ヨリ県令マテ御協議ノ趣モ有之、不取敢青木・林・鹿又・三瓶・芳賀ノ五收稅属ニ命シタリ、右ハ元來該事務取扱ハ七置キタル者ナレトモ、未タ夫々取調手續等ノ達ヲ了セサルヲ以テ、表面ヨリ命令ヲ下サハル

而已、畢竟スルニ調査ノ事業タル實際ヲ探究シ周到精密ヲ尽サ、ルトキハ、則チ満足ナル好果ヲ得ル能ハス、是ヲ以テ之ヲ考フルニ人民ノ申告ハ來年度ニ譲リ予シメ之カ演習ヲ為サシメ、精密ナル地押ヲ舉行セシメント欲スルニ如カサルナリ、当令ニアリテハ其目的タル人民部ノ調査ニ向テ之カ監督ヲ為シ、苟モ粗略ノ弊ナカラシムルニ外ナラスト雖トモ、前陳兼務セシムルニヨリ常務ノ人員ニ不足ヲ生スルハ元ヨリ妥當ノ事ナリトス、是本年度ニ於テ徵稅費ノ増額ヲ請求セル所以ナリ、十一月一日收稅長ヨリ此旨趣ヲ主稅局第二部長へ通牒シ更ニ大藏卿エ上申セシニ、同月廿五日左ノ回答ヲ得タリ

本月十八日付ヲ以テ實地取調整理委員ヲ各郡へ派遣スルノ為メ課中欠員ヲ生シ云々ニ付、徵稅費増額ノ義與令上申書相添へ御申越ノ趣了承、然ルニ與令上申書中毫モ遺憾ナキ様充分精密ナル調査為致度旨ノミアリテ、該整理委員ヲ派遣スルハ取調ノ主意ヲ説諭スル為メカ、若クハ實地ヲ検査スル為メ平、其ノ事實ヲハ明記ナク為メニ註議上ニモ差支候ニ付、派遣ノ事柄詳細御記載ノ上申書御差出相成可然、右上申書正副共相添此段御回答旁々申進

右之回答ニ依リ更ニ左ノ上申書ヲ發セラレタリ

土地台帳調製ニ要スル實地取調ノ義ニ就テハ、主稅官長ヨリ協議ノ趣ニ依リ先以テ七名丈選定、該整理委員相命置候得共、尚又之ヲ増置シ一郡一名位ノ割ヲ以テ派遣シ、毫モ遺憾ナキ様充分精密ナル調査為致度、就テハ本課ニ欠員ヲ生候間、別紙付金千二百二十五円本年度徵稅費へ増額相成度、云々(任取書略ス)

爾後收稅長ヨリ再三照會ノ末、結局大藏卿ヨリ左ノ指令アリタリ上頁

上申ノ趣本年度徵稅費地租賦課訂正費ニ充テ、俸給金貳百貳拾五円・雜件へ金七百六円五拾錢ヲ増額ス、但シ事務完結ノ上ハ別途計算書主稅局へ指出スヘシ

之ヨリ先キ主稅官長ヨリ檢稅費ニ關シ左ノ照會アリ、曰ク

十七年度内ニ於テ結了相成ルヘキ土地^{十八年度開闢地}検査ニシテ、同年度ニ結了致サス本年度ニ跨リタルモノモ有之趣、右ハ事務上止ヲ得サルニ出タルモノトハ相考候得共、地開闢地等經濟ノ分界モ有之義ニ付可成右様ノ義無之様自今御注意相成度希望致シ候、就テハ該検査費ノ義ハ本年度徵稅費既定配賦額内ヲ以テ支弁可相成御見据トハ存候得共、自然難相成次第ニ候得ハ、旅費及検査用足賃三限リ別途増額ノ省議ヲ遂クヘキ見込ニ有之候条、其事由ヲ具シ實際要シタル人員日數金額及地目^{開闢地地下去カカ知シ地目、廢地地ハ何月ヨリ何月迄抽出ノ分ト明記スルヲ要ス}、反別筆數村數等ヲ詳記シタル明細書ヲ相添へ、至急御上申相成可然

存候、云々十月六日

然ルニ本年春期ノ検査ハ筆數意外ニ多ク遂ニ十七年度内ニ檢了スルヲ得ス、延テ七月十五日ニ至レリト雖トモ、其費用ハ為メニ増額ヲ要スルニ及ハス、定額内ニテ支給シ得ルヲ以テ、前行ノ照會ニ對シ其旨趣ヲ回答セリ

十九年四月ノ交ニ至テハ地押ノ事業モ漸次整頓ヲ告ケ監督ノ事務繁劇ヲ極メタルニ因リ、僚屬十八名ヲ郡区ニ派遣シ其説明ヨリ監督検査ノ事ニ至ルマテ尽ク之ヲ処理セシメタリ、然ルニ当與改租ノ際ノ野取圖ハ粗漏ニシテ一モ信憑下為スニ足ラス、加之數年間地目ノ異動ヲ訂正セサレハ、今日ニ至テハ全ク古紙ニ類シ到底永遠ニ保存スル能ハス、故ニ目今ハ各地主ニ諭示シ一般略分間法ヲ以テ實地ヲ踏査シ新ニ字繪圖ヲ製セリ、是ニ於テ地押ヲ施行セシニ、地目ノ變換誤謬重複等々地盤ノ異動セル者ヲ発見スルコト頗ル多く、既ニ調査スル村落ノ筆數ヲ以テ全管内ニ比準セハ大凡二十三万余ノ異動地ヲ得ヘク、当初考按スル所ニ較レハ其増加モ亦甚シト云フヘシ、且ツ地押事業モ累月進歩ノ状ヲ呈シ、最早派出吏員ヲ監督ノ事ヲ移シテ直ニ検査ニ從事セサルヲ得サルニ至レリ、仍テ通常検査ノ事務ト合同執行引続キ十一月迄派遣スルノ目的ヲ定メリ、而シテ其俸給額ハ義キニ大藏省へ申請セル額即チ十六等官五名増員ノ分ト他科ノ定員ヲ節約シテ之ニ充ツヘキモ、独リ旅費額ニ至テハ更ニ節約ノ途ナケレハ、止ヲ得ス金四千九百拾五円ノ別途支出ヲ要セサルヲ得ス、故ニ五月六日ニ至リ此旨ヲ具シ大藏大臣ニ請求シ、且收稅長ハ其趣旨ヲ敷衍シテ本件ニ於テハ

特別ノ処理ヲ執ラレンコトヲ主税局地租課長へ内請セリ、而シテ大蔵大臣ハ之ニ對シ五月廿二日左ノ如ク指令セラレタリ

上申ノ趣十九年度内國稅徵收費第三部第一類費ニ充、左ノ通り配賦ス、庁中費中筆紙墨文具ハ第二部第一類費ヨリ支弁、月額八五月中金貳百八十三圓、六月ヨリ二十年一月迄金貳百六拾四圓ツ、支出スルコトヲ得

(配賦額金貳千三百九十五圓ナリ、内訳書ハ略ス)

尋テ主税局長ハ同月廿七日ヲ以テ、今般土地検査費トシテ金貳千三百九十五圓第三部第壹類ニ充テ配賦セラレタレトモ、右ノ外定額内ヨリ該検査ニ従事スル者ノ旅費ハ第二部第一類費ヨリ支弁シ、彼是併テ總筆數ヲ檢スルノ主旨ニ出テシナルコトヲ通知セラレタリ、而シテ當時ノ狀況タル既ニ四月ニハ十八員ヲ派遣シ、五月ニハ二十五名ヲ派遣セシムルモ尚ホ不届ラ惣フルノ感アリ、然ルニ今般ノ御指令ニ照ストキハ僅カ一ヶ月ヲモ支ヘ難ク、又如何ントモスル能ハス、然リト雖トモ各村地押ノ落成ヲ告ケ陸續地目交換等ノ検査ヲ願出ツルモ一切之ヲ謝絶シ、俄カニ派出員ヲ帰庁セシメン坎、目前事務ノ差障ヲ生シ自然民心ノ如何ニ關係シ、施政ノ順序ヲ愆リタルカ如キ實際ニ至リテハ甚タ遺憾ト謂ハサルヲ得ス、退テ之ヲ思惟スルニ飯令旅費節減ノ為メ来月央ニ至リ一旦事業ヲ中止スルモ、結局異動地ノ検査ヲ放棄スルヲ得ス、何レノ日カ必ス其費用ヲ要スルヲ信スルナリ、果シテ然レハ則チ徒ラニ事業ヲ中止シ其滯留ヲ招キ惡結果ヲ現出セシムルハ實ニ痛惜ニ堪ヘサルナリ、抑今般ノ御指令タル或ハ異動地ノ筆數多キニ過ルト視認セラレタルヤモ難計トノ庁議ヨリ、地租課長へ御旨趣ノ原ソク所ヲ示教アラシコトヲ依頼シ、傍ラ横尾主税官ニ向ヒテモ過日目擊親視セラレタル狀況ヲ申報アリテ、成ルヘク事務ヲ流暢ニ執行シ得ラルヘキ様配慮アラシコトヲ請求セシカ、尋テ戸叶主税官ノ來県ニ過ヒ更ニ協議ヲ展シ、八月十二日再ヒ左ノ上申書ヲ大蔵大臣ニ差出セリ

土地台帳調製ニ際シ實地地押上ヨリ発見セル異動地検査ノ義ニ就テハ、本年五月六日上申同月廿二日御指令ノ趣ニ

依リ執行致來候、然ルニ元來本県下ノ田畑ハ概ネ一枚ヲ一筆ト為セシヨリ自然小歩數ナレハ、地盤ノ丈量地備ノ算出等モ容易ナルヘク、且ツ其検査ヲ要スヘキ場所ハ多クハ接続セルヲ以テ大ニ手數モ相省、春秋定期ノ検査ト比準スヘキモノニ非ラスト予期シ計画セシモ、現ニ四月ヨリ六月ニ至ル實際ノ成績ニ掘リ之ヲ査按スルニ、到底予期ノ如ク取運兼候始末ニテ、糞ギニ上申セル人員ト日數トニ応スル費額ノ請求高全部ヲ御下付セラル、モ、尚ホ差文ユヘキ次第ナルニ、尚又減殺シテ御指令相成候事故目下殆ント袖手スル場合ニ立至候ニ付、今般來県ノ戸叶主税官ヘモ協議ヲ遂ケ、更ニ検査人員ヲ二十六人ト定メ之ヲ十三組ニ分派シ、其他検査筆數ノ標準ヲ訂正シ別紙調書ノ如ク増額ヲ仰候義ニ有之候、過般來縣々具陳候通人民ノ取調ニ屬スル部分ハ大約既ニ奏功ノ運ヒニ赴キ候得共、實際ヨリ之ヲ論スレハ其事タル固ヨリ人民ノ自奮ヨリ起リ候訳ニハ無之、專ラ奨励上ヨリ成立タルモノナレハ、此際検査ヲ緩慢ニ付シ去リ候テハ自然民心ニモ關係シ、且一旦地押ヲ了シタル地モ亦傍ヨリ交換異動ヲ生シ、為メニ紛雜ヲ來ス憂ナキヲ保ス可ラス、旁本年度中ニハ必ラス検査ヲ了致度百方計画ヲ尽シ候モ、前頭陳述セル如ク是迄ノ事業ニ於テ既ニ予期ノ運ヒニ至リ兼、所謂事務ノ負債ヲ生シタル仕合ニ付、糞ギニ増額御許可ヲ得候増員五名ハ其儘月數ヲ延ヘラレ度、本県管内ニハ從來冬季降雪ノ為メ凡ソ二三ヶ月間ハ事業ヲ中止セサル可ラサル郡村モ之アリト雖トモ、沿海ノ村落ニ至テハ終歲右ノ碍障モコレナキコト故、彼是交換間断ナク検査ニ従事為致度、且検査ヲ了スルト同時ニ其地備等ヲ精算シ、併セテ本庁ニ備置クヘキ地租台帳ヲ加除更正セサル可ラサルニ依リ特ニ備員ヲ要スル次第、其他消耗品ノ如キハ到底定額庁費ノ内ヲ以テ弁給シ難キニ依リ、殊ニ御下付ヲ請候義ニ有之、委細ノ事情ハ尚戸叶主税官ヨリモ具陳可及、前頭不得止事案御汲量ノ上、特別ノ御詮議ヲ以テ金五千四百六拾四錢増額額聞届相成度、云々

又收稅長ハ主税局長ニ向ヒ左ノ如ク依頼ヲ為セリ

土地検査費ノ義ニ付テハ義ニ増額ノ上申ニ対シ御指令并ニ県令迄御照会ノ趣モ有之候得共、該計画タル今日迄ノ実跡ニ拠ルニ尤モ不充分ナル取調ニシテ、設令ヒ上申ノ通増額御聽許相成候テモ實際間ニ合兼次第有之、況ンヤ減額相成候事故何様繰合候テモ到底弁給スヘキ様無之、如何措置可致歟ト夫是苦慮罷在候折柄、幸ヒ二戸叶主税官來県ニ付、則實際ノ成績上ニ依リ充分協議ヲ尽シ別シテ県令ヨリ増額ノ儀上申候条、特殊ノ御詮議ヲ以テ御聽許相成候様御取計相成度、將又第二部第一類費額ノ義モ御達ノ當時ニ於テハ旧旅費規則施行中ニ付、前年度ノ配置ニ拠リ稍斟酌ヲ加ヘ計画スルモ猶支ヘ難キ次第ニ付、横尾主税官來県ノ際節約ニ節約ヲ加ヘ殆ント失当ナル程ノ計画ニ改メ、同官迄差出シ置候処、其後閣令第十四号ヲ以テ旅費規則ヲ改定セラレタルニ付、即チ前計画ニ対スレハ金三百六拾貳百拾四錢ノ残余ヲ生候次第ニ立至候、然ルニ該計画タル前陳ノ通り固ヨリ非常ニ節約ヲ加ヘ候モノニテ、到底右ヲ以テ充分ナル成果ヲ觀ルハ望ム可ラサル義ニ付、更ニ増額致度旨及協議候処、矢張り前計画ニテ差置候方可然トノ事ニ有之、右ハ御詮議相成兼候ハ、固ヨリ無余義候得共、若又実施上或ハ不足ヲ告候儀モ難計、既ニ御照会ノ趣ニヨリ幾分ノ残余ハ第三部第一類ヘ支弁シ置キ、又々不足ヲ生候時ハ前後矛盾ノ姿ニ相成甚恐入候次第ニ有之、且ツ他府県ノ振合モ可有之存候間、右ハ御局ニ於テ相当御減額相成、土地検査費ノ義ハ右ニ拘ラス今般上申之通御聽許相成候様御取計有之度、云々

大蔵大臣ハ之ニ指令シテ曰ク
上申ノ趣聞届、内国税徴收費第三部ヘ充、左ノ通(金三千七百四拾五円)配賦ス、旅費不足額ハ第二部ヨリ支弁スヘシ、但支出承認額別紙ノ通(別紙ハ略ス)

本県下地押上發見セル異動地ノ検査ハ、十七郡区ノ内仙台区ヲ除キ他二十年八月三日ニ至リ全ク實地ノ検査ヲ了シタルヲ以テ、更ニ土地台帳調製ニ属スル事業ニ向ヒ之ヲ監査セラレハ、未タ以テ充分其成績ヲ確ムル能ハス、然ルニ

其調製ノ費金タル当初之ヲ概算セシニ、地方税ノ支出ヲ除キ民部ニ属スルモノ而已ニテ、實ハ五万余円ノ巨額ニ上リタルヲ以テ、勉メテ省略弁給シタルモ、地租改正ノ際調製セシ所ノ地図并地押野帳地価帳等多クハ之ヲ保存スル者ナク、偶々蔵貯セシモノアルモ悉ク不完備ニシテ一モ証左ト為スヘキ者ナシ、仍テ今般ノ地押ニ供スル野帳ハ地券台帳ヲ謄写シテ新タニ之ヲ調製シ、地図ハ略分間法ヲ用ヘ測量ノ図ヲ製セリ、加之改租ノ際一筆ト為セシ小畝歩ノ者ハ合筆セシメタルヲ以テ、其經費モ漸次相嵩ミ遂ニ当初予算額ノ三倍ニ至ルノ情況ナリ、而シテ尚其整頓ヲ促カサ、ルトキハ則チ益々費額ノ超過ヲ見ルヘシ、然リ而シテ其事業モ亦成蹟ヲ完全ナラシメス、等閑ニ付セハ實地ノ修正ヲ致セシモノモ或ハ面併ニ属スルノ嫌ナキ能ハス、就テハ吏員ヲ派遣シ一面ハ督勵其竣功ヲ促カシ、一面ハ監査シテ其整理ヲ全カラシムルノ計画ナリト雖トモ、其費用タル勸メテ前約ヲ加フルニ、第一部費ヨリ支弁スル而已ニテハ到底不足ヲ免レサルナリ、故ニ其事情ヲ繰陳シ土地台帳調製整理委員費トシテ金貳百廿四円(但管内十三郡区ノ内仙台区ヲ除キ十二郡役所ヘ収税屬五等以下老名ツ、派出、此延月數十二ヶ月、月額十九円五十錢ツ、管内旅費)ノ増額ヲ特別聽許セラレンコトヲ二十年八月十五日上申シ、又収税長ハ主税局長ニ向ヒ其旨趣ヲ補述シ、且戸叶主税官ニモ其承認ヲ求メタリシニ、八月廿四日大蔵大臣ハ上申ノ趣別途増額ハ聞届ケ難シト指令セラレタリ、然ルニ監督事業ハ當時必至ニ急要ノ城ニ迫リ、若シ該指令ノ為メニ制セラレ目的ヲ達シ得サレハ、不幸ニモ地押ノ成績モ充分確ムル能ハサル次第ナルヲ以テ、九月十五日重テ之ヲ申請シ、且ツ収税長モ戸叶主税官ニ向テ其聽許ノ処分ヲ依頼セシニ、十月上申聞届、土地台帳調製上監督費ニ充テ内国税徴收費管内旅費金貳百廿五円第一部ヘ別途増額ス、但十月中支出承認額ニ加フトノ指令ヲ領セルヲ以テ、先キノ計画ニ拠リ拮据奮勵漸ク事業ノ整理ヲ告ケタリ、是ニ於テ当初ヨリ之ニ從事シ特別尽力セル収税屬以下三十名ヲ慰勞セラレンコトヲ按出シ、賞与金ノ増額ヲ請ヒ十一月十八日上申セシニ、大蔵大臣ハ其月廿六日上申ノ趣聞届、内国税徴收費惠与金三百七円五十錢第三部ヘ充テ配賦ス、但十二月支出承認額ニ加フト

指揮セラレ、茲ニ其全局ヲ了セリ、今誤謬土地検査ニ關スル諸費ヲ左ニ表出シテ以テ一覽ニ供ス

度 年 九 十										度年八十		年度	誤謬土地検査ニ關スル諸費	
合 計	旅費 管内旅費	計	費 庁				給 諸 及 給 俸			合 計	雜 給 管内旅費	俸 給 收税属俸給		項 別 金 額
			消耗品	筆紙墨文具	器具器械費	計	惠 与	備入料	收税属以下俸給					

總 計	度 年 十 二									
	合 計	旅費 管内旅費	計	給 諸 及 給 俸						
				惠 与	雇入料	收税属以下俸給				

国庫支弁ノ金額ハ前表ノ外尙臨時特別ノ費額アリ、乃チ管下各郡区長郡書記戸長及戸長役場筆生ノ賞与金ナリトス、抑地押事業ハ改組以來重大ノ件ト雖トモ全ク大臈脚ノ訓示ヨリ成立シ、各郡区長ノ論達ニ止リ元ヨリ布達ヲ以テ之ヲ発示スルニ非ラス、而シテ其經費ハ渾テ各地主ノ直弁ニ帰スレハ、之ヲ実地ニ施行スル宜シク民間ノ休戚ヲ取捨シ、尤モ円滑ノ手段ヲ為サ、ル可ラス、若シ各郡区長ニシテ其方針ヲ失セハ則チ地押ノ業モ又其ノ竣功ヲ期セサルナリ、然ルニ各郡区長ハ能ク該訓示ノ旨趣ノアル処ヲ認知シ、官民ノ間ニ奔走シ説明論達等ヨリ經費支弁ノ点ニ至ル迄頗ル円滑ヲ主トシ、本庁整理委員ト共ニ協議一致遂ニ此大事件ヲ整理セリ、蓋シ当今ノ事業ニ於テ其功績ヲ舉レハ決シテ漫然ニ付スルヲ得ス、本庁ニ於テモ特ニ其功績ヲ具申シ廿年十一月大臈脚ノ認可ヲ得、金四百三拾円余ヲ以テ各郡区長ヲ賞与セリ、而シテ各郡書記戸長及役場筆生モ共々勲励從事スルヲ以テ、尙其功勞ヲ調査シ廿一年十二月大臈省ニ追申セシニ、金千六百円ヲ下付セラレタリ、是ニ於テ之ヲ郡区ニ配賦シ各自二分与シテ以テ其功勞ヲ賞セリ

地方税ニ於テハ郡役所及ヒ戸長役場ノ定額内ヲ以テ消費セル者多少アリト雖トモ、特ニ県会ノ議決ヲ経タル金額ハ臨時筆生雇料金七千七百三十九円余ニシテ、乃チ土地台帳調製ノ費用ナリトス、外地押上ノ結果ニヨリ地券台帳ヲ更正スルニ至リ為メニ要スル經費ヲ支弁セリ、而シテ其他ノ經費ハ總テ各所有主ノ支弁ニ属セリ、然レトモ之ヲ徴収スルモトヨリ布達ヲ以テ賦課スルニ非ス、全ク各自ノ協賛ヨリ成立セリ、故ニ収支等尽ク郡区長ノ監督ト戸長役場ノ保管トニ帰セシメ、以テ其区分ヲ明晰ニス

十八年四月十四日主税局地租課長ヨリ問合セアリタリ、其略ニ曰ク

土地台帳調製ノ義客月十七日県令ヨリ主税官長ヘ照会ノ趣ハ、其事業ノ斯ク数年ニ涉ルカ如キハ如何ノ方法ヲ以テ実施セラル見込ナルヤ一応承知致度、云々

然ルニ大蔵御内訓ノ趣ニ依リ一筆限リノ地押ヲ為ストキハ多少ノ異動ヲ見ルモ難計、幸ヒニ遺漏重複等ヲ生セサルモノトシ之方経費ヲ概算シ、且已ニ調製ニ着手セシ名寄帳等ノ費用モ亦数万円ヲ要スル義ニテ、右ハ村会ノ議決ヲ經徴収セシムルコトニ取計ハセタル末ニシテ、秀々目下民間ノ状況困難ニ際スレハ、結局来年度中ニハ整頓ノ目的ナク自然数年ヲ要スル義ニ立至レリ、仍テ四月三十日収税長ヨリ此旨ヲ回答セリ

目賀田主税官ノ来巢セラル、際、台帳調製ノ件ハ甲号ヲ以テ布達スルハ支障アルヘキ旨協議セラレタレトモ、費用ノ点ニ関シ聊方躊躇ヲ生スヘシト思惟スルニヨリ、是ニ於テ電音ニテ布達スルモ可ナルヤノ旨ヲ照会セリ、然ルニ大蔵御ノ訓示ニテ成シタル地押ノ事ハ布達ニテハ不都合ナレハ、戸長役場マテ諭達スヘシトノ回答アリタリ、是ニ由テ之ヲ觀ルモ地押ノ費用タル固ヨリ各地主ノ自弁ニ屬スヘキハ勿論ニシテ、通常ノ布達ヲ以テ賦課スルヲ得ス、故ニ専ラ田滑流暢ノ手堅ヲ施シ其竣功ヲ期セサル可ラズ、幸ヒ本年度ハ県下一般ノ豊稔ニシテ数年ノ愁眉ヲ開キ、人々鼓腹ヲ樂シミ至ル処然青野ニ満チ頗ル佳兆ヲ呈セリ、是ヲ以テ十月廿六日郡区長ヲ招集シ土地台帳調製及ヒ地押経費ノ予算ヲ協議決定シ、先ツ総代人選定及ヒ経費ノ収支トモ各地主ヨリ戸長ニ向テ委託スル準按ヲ起草シ郡区長ニ回示セリ、郡区長ハ之ヲ移シテ人民ニ諭示シ其順序ヲ結ヘリ、文ニ曰ク

今般土地台帳編製手續等御達ノ趣ニ依リ、右總代人選定方并ニ實地取調ノ義夫々御達ノ趣委曲承知致候、右ハ私共ニ於テ取調候ハ不便宜ナル而已ナラス却テ費用モ相屬候事ト奉存候間、一切總代人ニ委任仕候様致度、因テ總代人選定差出候間可然御指揮被下度候、就テハ右ニ屬スル費用ハ渾テ私共ニ於テ支弁可仕候ニ付、御達次第上納仕候条御役場へ御取懸メノ上御支払被下度候、此段奉願候

戸長ノ指令

書面ノ趣聞届候事

是ニ至テ人民於テモ總代人ト地主トノ間ニ他日紛議ヲ醸生スルヲ恐レ、之カ誓約書<sup>該被代代人
部ニ出ダス</sup>ヲ作り一同加名調印ノ上戸長役場ニ保管セシメ其委託ヲ確実ニス

本県管内一區十六郡ニ於テ民有ニ屬スル耕地山林原野等其筆數大約五百三十万余筆ト為ス、今之ヲ調査スル費額ハ一筆平均金壹錢ノ比較ヲ以テ、全体ノ總額大凡五萬三千余円ノ予算ヲ為セリ、而シテ其決算ニ至リテハ乃チ十八萬貳千五百余円ノ多キニ上リ、殆ント予算額ノ三倍余ニ過クト雖トモ、其事業ニ至リテハ手展リ等ノ事ナケレハ敢テ冗費ト云フ可ラス、而シテ如此ノ費額ヲ要セシハ蓋シ予算モ密ナラサル所アルニ因ルト雖トモ、抑モ亦故ナキニ非ルナリ、今其審シキ者ヲ挙ンニ、各村字繪圖調製費ノ如キ地租改正ノ製圖ハ皆曖昧籠漏ニシテ實地ニ適セサルニ依リ、当初ハ精細ナル見取圖ヲ製シ地押ヲ為スノ予定ナリシモ、實施後漸次不充分ノ感ヲ惹キ起シ到底見取圖ニテハ實地ニ適合セズ、其成蹟或ハ徒勞ニ屬スルヲ恐レ遂ニ板分間ノ測量ヲ為セリ、加之当初予定外ニ覆キシ一村繪圖モ亦隨テ調製スルニ因ル、是費途増加ノ一ナリ、異動地ハ当初毎年春秋ノ検査ヲ比準トシ予算セシカ、詳細ナル字繪圖ヲ以テ實地地押ヲ為セシニ類々之ヲ発見シ、其夥多ナルコト全管ヲ通シテ實ニ貳拾有余万ニ及ヘリ、而シテ其調査ノ手數ハ之ヲ不動地々押ニ比スレハ殆ント貳拾倍ニ準シ、即チ四百萬筆ヲ調査スルノ手數ヲ要シタリ、是費途ヲ増加スルノ一ナリ、管内ノ總筆數五百三十余万ナリシカ、漸次合筆シ其完結後ニ至ツテ僅カニ貳百拾貳万余筆ニ減セリ、当初取調ヨリ精算ヲ合セ其手數ヲ要スル實ニ尠少ノ事ニ非ラス、是費途ヲ増加スルノミナリ、此原因ノアルアレハ又止ヲ得サルノ事ト云フヘシ、而シテ之レカ徴収支出ハ總テ戸長役場ニ屬スト雖トモ、郡役所之ヲ監督スルヲ以テ出納明晰庶モ浪費ナキナリ、斯ク精々節約ヲ主トナスモ尚遂ニ拾有八万余円ノ多額ヲ要セルハ、其事業ノ至難ナル蓋シ知ルヘキナリ、今試ミニ之ヲ一筆ニ平均スレハ七錢五厘ナリトス、而シテ又更ニ各郡村ニ就キテ比較セハ一筆金壹錢五厘乃至四拾余錢ニシテ、其差ノ甚シキヲ疑ハサルヲ得ス、然レトモ改租ノ際從來ノ所轄ニ屬セル分ハ田畑各一枚ヲ以テ一筆トシ、旧

磐井県所轄ノ分ハ數十枚ヲ合シテ一筆トセリ、故ニ旧磐井県ノ一筆ハ從來所轄ノ五六拾筆ニ当ルヘシ、是ヲ以テ郡村ニヨリ一筆平均ノ額ハ此ノ如ク差違アルカ如シト雖トモ、其実際ニ至リテハ蓋シ大ナル差違ナシト云フヘキナリ。前行ヲ叙シ了リタルニ抛リ茲ニ一言ヲ加フヘキ事アリ、何ソヤ、抑々経費タル民部現支出ノ金額ハ拾八万余円ニ止ルト雖トモ、其他間接ト直接トニ論ナク各自ノ勞力ヲ費シ幾個ノ日子ヲ消スル莫ニ尠カラス、時ニ總代人ノ如キ自家ノ耕耘ヲ抛チ數月間奔走從事スル者ナレハ、僅少ノ報酬ニテハ決シテ損失ヲ償フニ足ラサルハ瞭然ナリトス、然レトモ是ヲ之レ願ミス共費用ト勞力トヲ厭ハス進テ実地ノ調査ヲ為シ、其竣功ヲ奏スルハ蓋シ地盤ノ錯雜ヲ整理シ各自ノ所有權ヲ確ムルヲ企圖セルノ結果ニ外ナラサルナリ、茲ニ民費決算表ヲ掲出シテ以テ此項ヲ結ハントス

地押調査ニ関スル民費決算表

郡名	調査費	筆数		村数	筆当		一村当
		旧筆数	新筆数		旧筆当	新筆当	
加美	一三〇一三二〇八	一〇一五	五〇〇五〇八	三九	一六〇	二六〇	三三三三六七二
黒川	一〇四九二九三五	四一九七	九一〇二五	四九	一一五	二五	一一四一四一
名取	一二三四四四四八	一六二六	三九三八七三	六〇	一三五	五九	三八九〇七四
宮城	二〇二八四六五五	一〇八〇	六七〇一二五	七九	一〇三	三〇	二五六七六六

志田	八七五五八二二	三四五八	九八四二七	六二	二五	八九	一四一二〇七
玉造	三二五〇二七二	五三二六	五六八七五	一五	六一	五七	二一六六八五
遠田	七四九四四六八	一一〇二	四五〇九〇五	五六	一七	六八	一三三八三〇
栗原	一一八〇三六六九	一八四五	二一五一四五	五〇	六四	五五	一二六〇七三
登米	一〇三〇三九九〇	一七七六	一六九五六九	二三	五八	六四	四四八〇〇〇
本吉	七八八一六二九	九一八二	一〇四八六九	一九	八六	七五	四一四八二三
桃生	一六七〇〇二九二	六三三三	一七二九八九	六五	二六	九七	二五五三八九
牡鹿	七六一一五六四	二六四八	七四三三九	六〇	二九	九八	一二六八五九
柴田	七六五八〇一四	一一三九	一一一八八九	三五	六四	三四	二一八八〇〇
刈田	二〇七六三二三六	三〇八二	一六八一五〇	三三	六七	一一	六二九一八九
伊具	七六九七八三八	一八三三	三一八二六	三六	二五	四二	二一三八二九

直理	三八八八二八一	一六三五八一	二六	二四内	一四九五四九
		六二二二六		六三内	
		五一九八七六八		三五内	
計	一八〇九四四三二〇	二二〇八一二	七〇七	八六内	二五五九三三

外

仙台区分旧筆数壹万六千三百五拾九筆、新筆数壹万七千九百六十七筆ハ民費ヲ要セス、仙台区役所経費内ヲ以テ支弁セリ、其費用ハ乃チ金三百七拾六円六拾四銭八厘ナリトス

雑件

十八年十月二十日主税局第二部長心得ヨリ收税長心得ニ向テ左ノ通知アリ

本年二月廿八日地租ニ関スル実地取調上ノ義ニ付大藏卿ヨリ訓示ノ趣ニヨリ、過般御上京ノ節実地取調上ノ義ニ付官長ヨリ秘印演達書及戸長問答概略等ノ内ニハ、此回ニ限り地租ヲ溯リテ徴收セス、又事案條例ノ所犯者ナルモ罰則ニ関ハズ等ノ文字アレトモ、皆是レ收税官吏郡吏戸長等当務者ノ腹案ニ供シ候迄ニテ、公然書取ヲ以テ人民ニ示ス者ニ無之コトハ既ニ御承知ノ次第ニ有之候得共、中ニハ右等秘密ニ属スルコトマテモ書取ニテ人民ニ示シタル向モ有之ヤニ相聞申候ニ付、御注意マテニ此段申進置候、云々

右ハ會テ目賀田主税官来県ノ際協議ノ次第モ有之、只收税長ヨリ郡区长ヘ演達シ郡区长ヲシテ条例ノ違犯者等発見スルモ、此度限り特別ノ詮議ヲ請フヘキ其筋ノ腹案ナルムネ戸長マテ演達セシメ置タルマテニテ、敢テ書取等ヲ以テ人民ニ示セシコトハナカリキ、故ニ收税長心得ハ此旨ヲ具シ同月廿三日回答シタリ

十八年十月二十日主税局第二部長心得ノ通牒ニ曰ク

本年五月御出京ノ節交付相成候秘号官長演述書地押ノ部ニ、村方地押成功ノ上ハ主任官ヲ派遣シ每郡二字以上其適否ノ点検セシムヘシト有之ヨリ、地押成功ノ上ハ其結果ノ如何ニ拘ラス一般ニ主任官ヲ派遣シ実地ヲ点検セシムル文意ニ相見ヘ候得共、畢竟綴文上ノ不完備ニシテ敢テ一般官吏ノ点検ヲ要スル旨ニ無之、全ク格段ナル場合則チ主任官ニ於テハ其取調ニ充分精密ヲ極ムル様再三再四勧誘説導スルモ、人々於テ猶其意ヲ体セス取調未タ尽サス、結果完カラスト視認スル場合ニ限り特ニ主任官ヲ派遣セシメ候義ニ有之候、此段為念及御通知置候也

十九年二月十五日同官ノ通報ニ曰ク

改租ノ際地位等級ノ配付不公平ナリシカ為メ、土地台帳調製ノ機ニ当リ再議センコトヲ出願ノ者処分富山県ヨリ稟議有之、右取扱手續別紙写ノ通局議ヲ定メ及回答候ニ付参考ノ為メ及御送付候条、御承知有之度、此段申進候也

(別紙) 地位等級訂正ニ付テノ要領

第一 改租ノ際地位等級ノ配付不公平ナルカ為メ、今回土地台帳調製ノ機会ニ乘シ一町村ノ地価ヲ動カサスシテ之ヲ訂正センコトヲ請願スルニ於テハ、特ニ許可スルヲ得ヘシ

但一町村内ノ幾分ヲ訂正センコトヲ請願スルモ許可スヘキノ限リニアラス

第二 一町村ノ地価ヲ動カサストハ該町村現在生地ノ地目限リ即ち八田ノ地価等、地八田ノ地価等ノ地価ヲ動カサ、ルヲ謂フ、故ニ改租後ノ地目交換若クハ松下地等ハ改租ノ当時ニアリテハ如何ナル地目タルニ論ナク、現今ノ地目ニ拠テ其地位等級ヲ訂正スヘシ

第三 改租後ノ荒地開墾地ニシテ現今年期中ノモノ、及地押ノ際発見セル無届交換無願開墾及脱落等ノ類ハ、地位等級訂正済ノ上更定地価ノ比準ヲ以テ富山県八田、期明ニ照シ実地相当ノ地価ヲ査按スヘシ

第四 改租當時ノ反別ニ異動ヲ生セルニ因テ村位モ亦異動ヲ生スルモノ、例ヘハ改租後ノ荒地ニシテ其地位上等ナリシモノナルトキハ、第三条ノ如ク之ヲ除去シタル残地価ニ拠テ訂正スルカ故ニ、自カラ村位ノ降下スルヲ免レス、斯ノ如キハ固ヨリ止ムヲ得サルモノト心得ヘシ

第五 地位等級訂正方出願セシ場合ニ於テハ、左ノ兩点ヲ審査シ他念ナキコトヲ視認ルニ非レハ許可スヘカラス

一 隣村ノ熟議ニ由リシモノニシテ他日紛擾ヲ生出スルカ如キ懸念ナキヤ否ヤノコト

二 土地台帳調製ノ機ニ投シ租額ヲ減殺セントスル計策ニアラサルヤ否ヤノコト

第六 前条々ノ審査ヲ経テ出願スルモノ之レアルトキハ、其町村名及其事情等詳細取調ヘ本省ヘ稟議ノ手續ヲ為スヘシ

十九年四月十四日收税長ヨリ各整理委員ヘ官地及ヒ廢道敷侵襲処分左ノ通訓示セリ

一 地押上ヨリ発見セル官地廢道敷ノ侵襲ニシテ、左ニ掲クル項目ニ触レサルモノハ松下ケノ見込ヲ以テ別紙ニ取調サス可シ

但野帳地圖ハ取扱手續第十四項ニ依ルヘシ

一 将来官用ノ見込アル所

一 明治十八年内務省甲第三十六号達官地ノ租額修補費額増徴ハ以テ今松下ケハ貸下ヲ為スモテ新サスニ当ル地所

一 一人ノ所有ニ帰スルトキハ他ニ得審ヲ来スヘキ箇所

一 道路堤防修繕ノ際土取揚等ニ使用スヘキ見込ノケ所

二 前条四項目ニ当ルノ地所ハ検査ノ上調審ヲ作り之ヲ本課ニ報告スヘシ

三 松下ハ特別ト入札ノ二トシ、其區別ハ郡長戸長ト協議シ実況ニ就キ之ヲ定ムヘシ

四 公ノ入札ニ付松下タル見込ノトキハ意見ヲ付シ其書類ヲ本課ニ差出スヘシ
同年四月二十日主税局地租課長ヨリ左ノ通知アリ

地押上発見セル土地取扱方ノ儀、別紙ノ通兵庫県ヨリ諸訓ニ対シ訓示相成候ニ付、実地取調上為御参考及御送付候也

(別紙) 兵庫縣諸訓前條節略

地押上発見セル土地取扱心得

第一

左ノ各項ニ当ルモノハ誤謬脱落地ノ名義ヲ以テ地押完了ノ当年ヨリ賦租ノ積調理スルモノトス

一 改租ノ際欺隠セシ土地

一 誤謬ニヨリ脱落セシ土地

以上二項ハ民有ノ証アルモノ及其証ナシト雖トモ耕耘地間ニ介在セル瑣々タルモノニシテ民有地ト見做シ得ルモノ

第二

左ノ各項ニ当ルモノハ其錯誤官民ノ別ヲ問ハス、渾テ誤謬訂正ノ名義ヲ以テ地押完了ノ当年ヨリ増減ノ積リ調理スルモノトス

一 重複又ハ誤謬ヨリ生スル増減

一 地目組違ヨリ生スル増減

一 反別地価地租差引違ヨリ生スル増減

- 一 反別丈量邊ヨリ生スル増減
- 一 精算ノ誤謬ヨリ生スル増減

第三

左ノ各項ニ当ルモノハ無年期開墾ノ名義ヲ以テ地押完了ノ当年ヨリ地価修正ノ積リ調理スルモノトス

- 一 改租後第二類地ヲ無願ニシテ開墾シ成功セシモノ

- 一 本地一筆内ニ孕在セル草生地ニシテ前同様開墾セシモノ

第四

無届トシテ地目変換セシモノハ地押完了ノ当年ヨリ地価修正ノ積リ調理スルモノトス

第五

無願ニテ畦畔ヲ興廢セシモノハ地押完了ノ当年ヨリ賦除租ノ積リ調理スルモノトス

- 但、廢除ニ係ルモノハ既ニ成功セシモノナルニヨリ直ニ本地地価ニヨリ賦租ノ積リ

第六

第一類ヲ第二類ト為サ、ルヲ得サルモノハ、地類組替ノ名義ヲ以テ地押完了ノ当年ヨリ地価修正ノ積リ調理スルモノトス

第七

左ノ各項ニ当ルモノハ有租地成又ハ免租地成ノ名義ヲ以テ、地押完了ノ当年ヨリ賦租又ハ免租ノ積リ調理スルモノトス

- 一 有租地ヲ無願ニテ用懸水路溜池井溝及ヒ公衆ノ用ニ供スル道路トナセシモノ

但、一筆中ニ瑣々タル溜池井溝ヲ新設セシモノハ不問ニ措クヘシ

- 一 免租地ヲ無願ニテ耕宅地トナセシモノ

但、溜池ノ堤塘ニ一時畑作ヲナシ、又ハ仮宅ヲ建築セシ如キモノハ不問ニ措クヘシ

第八

官有ノ山林原野又ハ堤塘附寄洲ニ私ニ開墾セシモノハ、左ノ各項ニ拠リ処分ノ積リ調理スルモノトス

- 一 民有トナシ差支ナキモノハ相当代価ヲ以テ私下、地押完了ノ当年ヨリ賦租ノ積リ

- 一 民有トナシ難キモノニシテ借地トナシ差支ナキモノハ年限ヲ定メ借地ヲ許可シ、其差支アルモノハ直ニ原地ニ

復サシムル積リ

第九

左ノ各項ニ当ルモノハ地押完了ノ当年ヨリ賦租除ノ積リ調理スルモノトス

- 一 官民所屬不判然ノ地ニシテ調査上民有地トナリタルモノ

- 一 有租地ニ無願ニテ墳墓地トナシ調査上之ヲ許可セシモノ

第十

反別ノ差違ヲ発見シ之ヲ訂正スルト否トハ、左ノ區別ニ拠リ調理スルモノトス

- 一 耕宅地及ヒ耕地間ニ介在セル草生地ノ類ニシテ、反別ニ甚シキ大差アルモノハ訂正ノ積リ

- 一 山林原野ノ如キハ概シテ反別ニ余裕之レアルモノナルカ故ニ、若シ差違アリト思料スルモノハ不問ニ措クヘシ

但、草生地ノ幾分ヲ開墾シ、其反別原反別ニ超過シ尚殘地アルモノ、如キハ、元反別ヲ現地歩合ニ拠リ引分チ、其開墾地ハ丈量増トシ殘地ハ誤謬訂正スヘシ

請訓之趣左ノ通可相心得事

- 第一第六第七申出ノ通、地押完了管庁へ申告ノ年ヨリ地租ヲ賦除スヘシ
- 第二人民ノ錯誤ニ係ルモノハ申出ノ通、官吏ノ錯誤ヨリ生スル増減ハ實際ニ就キ事情ヲ具シ更ニ申出ツヘシ
- 但、官吏ノ錯誤ヨリ生スルモノト雖トモ、一筆中幾分ノ錯誤ニ係ルカ如キ些々タル増減ニシテ他ニ支障ナキモノハ、地押完了ノ当年ヨリ増減スルモ妨ケナシ
- 第三申告ノ翌年ヨリ修正地価ニ依テ地租ヲ徴収スヘシ
- 第四地価修正聽許ノ年ヨリ修正地価ニ依テ地租ヲ徴収スヘシ
- 第五地主ノ情願ニ依テハ申立ノ通取計苦シカラス
- 第八調査ノ上主務省へ稟議シ、賦租ハ十年第七八号布告ニ依ルヘシ
- 第九前項ハ申出ノ通、後項ハ許可ノ月分ヨリ免租スヘシ
- 第十申出ノ通リ

(地押調査上ヨリ発見スル重複地地租減除方ノ義ニ付請訓)

地押上ヨリ発見セル土地取扱方ノ義、本年二月廿三日京第十八号ヲ以テ請訓ヲ仰キ候処、其第二条誤謬訂正ノ名義ヲ以テ地押完了ノ当年ヨリ増減スヘキ内、第一項重複又ハ誤謬ニヨリ生スル増減トアルニ対シ、人民ノ錯誤ニ係ルモノハ申出ノ通ト有之、然ルニ愛ニ甲乙二筆ノ地券アリ、甲ハ突地五枚ヲ以テ一筆トス、其乙筆則チ一枚ハ甲五枚ノ内ニ含蓄シ全ク重複ニ係リ、改正ノ誤謬ニ出テタル事今般地押取調上ヨリ発見シタル旨ヲ以テ取消方出願スルモノアリ、右ハ未タ突査以前ニ在テ果シテ申告ラシテ相違ナキヤ否確知シ難ク、且往キノ御訓示モ有之ニ付地押完了ノ前年マテ納租可致旨説論スルモ、頑固ノ農民ニシテ之レニ服従セス乙地券ニ対スル地租不納スルトキ、其地所無

之自然公充処分相成兼徴租ノ道無之、右等重複地ハ渾テ明治十一年六月十三日元地租改正事務局総裁御交名御内達ノ旨趣ニ準ジ、誤謬発見ノ当年ヨリ地租ヲ減除シ、其調査中ニ係ル年度ハ勘定除却ノ積リ相心得可然哉、尚仰請訓候也

請訓ノ趣申出ノ通

但、往キノ訓示中ニアル地押完了ノ年トハ、地主於テ地押完了シ管庁へ土地ノ異動ヲ申告シタル当年ヲ指ス

十九年八月廿二日大蔵省地租課長ヨリ左ノ通報アリ

地押上ヨリ発見ノモノト雖トモ、改租ノ誤謬地及脱落地ヲ除クノ外ハ總テ本年第五十六号訓令範圍内ニテ処分スヘキ管ニ付キ、為御心得此段及通牒候也

二十年九月十四日大蔵大臣ヨリ左ノ内達アリ

今回地押発見ニ係ル誤脱及重複地ハ此度限り処分ノ上本省ニ届出ヘシ

抑々地押事業ハ前各款内ニ於テ順序手續等ヲ叙述セルニ依リ、該成績ヲ通覽スル又余蘊ナシト云フヘシ、然ルニ其際大蔵主税官ノ來臨及本県収税長ノ上京巡回等ハ、關係スル所重大ニシテ成績上欠如スルヲ得ス、茲ニ其出入ヲ摘録シテ以テ本篇ノ結尾ト為シテ下欲ス

明治十八年四月主税長心得上京、六月ニ至テ帰県セリ、蓋大蔵省主税局於テ各府県収税長ヲ招集シ地押事業ノ舉行ヲ協議セラル、ニ因テナリ

明治十八年六月七日大蔵主税官目賀田種太郎属官数名ト共ニ来県ス、収税属吉田友明之ニ隨行シ管内各郡ヲ巡回シ地押ノ大意ヲ演述ス

是年十一月收税長心得ハ收税屬芳賀昌治ヲ随ヘ管内各郡ヲ巡回シ地押ノ旨趣ヲ演説シ、尋テ柴田郡ニ於テ之ヲ突地ニ演習ス

十九年四月二十三日收税長ハ收税屬斎藤永宣ヲ随ヒ管内ヲ巡回シ地押ノ実況ヲ臨視シ、五月二十一日ニ至リ帰庁

同年六月三十一日大蔵主税官戸叶正明大蔵屬石川弥一郎・同水谷亥之助・同石川雄次郎ノ三名ヲ随ヘ地押事業監査トシテ来県ス、仍テ收税長ハ共ニ同行シ七月三日出發、牡鹿・遠田・桃生・玉造・志田ノ各郡ヲ巡視シ、其八日帰庁、八月大ニ各整理委員ヲ会シ名取郡飯野坂村ニ於テ実地ノ調査ヲ為シ戸叶主税官ノ指示ヲ乞フ、九月四日主税官ハ收税長同行栗原郡ヲ巡回、其二十六日帰庁、主税官ノ一行ハ尋テ岩手・山形ノ各県ニ向フ、而シテ石川雄次郎ハ独リ本県ニ駐在スル數十日勸メテ監督ノ事ニ従フ、後屢々来県シ專ラ地押ノ事務ヲ臨視ス

十九年七月十七日地押ノ概況ヲ官報局ニ報告ス

同年十月七日知事ハ收税長及ヒ御用係佐伯真満ヲ随ヒ仙台区内ノ地押実況ヲ臨視ス

二十年八月戸叶主税官来県、実地ノ景況ヲ臨視、後屢々来県專ラ事業ヲ監督セララル

收税長ハ地押実施以行屢々全管ヲ巡回シ実地ヲ臨視シ、郡区長ニ協議シ其竣功ヲ奨励提擡ス

(昭54 仙台 127)